

F D 活動報告書

関西大学大学院会計研究科
(会計専門職大学院)

第 4 号

平成 20 年度 (春・秋学期)



関西大学大学院会計研究科
教務・F D 委員会

平成 21 年 3 月

目 次

はじめに	1
I 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法	
(1) 対象科目	2
(2) 実施方法	2
(3) 分析方法	2
(4) フィードバック方法	2
(5) 対象科目リスト	3
II 20 年度春学期授業評価アンケート結果概要	4
III 20 年度秋学期授業評価アンケート結果概要	34
IV 20 年度授業評価アンケートフォーム	81
V 講演会	84

はじめに

FD 活動は日常的に教育改善を行うのに必須の活動である。本研究科では、教育内容の改善に向けて、不斷の努力を行っている。とはいえ、教育効果は教授者と学習者の双方のインターアクションの在り方に依存するという関係にある。そこで、本研究科では、設立当初より、学生による授業評価を行ってきた。この授業評価はFD 活動の柱となってきた。

本研究科の授業評価の特徴は、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述させること、③科目系列の取りまとめ役が、②による複数科目を比較可能な形で自己評価していること、④以上の結果を、教授会及びFD 委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられる。

繰り返しになるが、以上のような授業評価アンケートは、本研究科が専門職大学院としての教育水準を継続的に向上させることを目的として、それを実施し、その結果を分析し、教育にフィードバックするためのものであり、FD 活動のひとつである。また、第三者評価制度の導入（「学校教育の一部を改正する法律」（2002 年）による）により、専門職大学院としての研究教育活動についての評価を、評価機関から定期的に受けることが求められている。これは、大学教育の質に関する新たな保証システムとして導入された制度であり、本研究科もこの評価を受けることを意識して普段から教育水準の維持・向上に努めている。

FD 報告書第1 号は、本研究科には1 年次生のみであったこととFD 報告書の取りまとめのタイミングの関係で、平成 18 年度春学期に開催されたすべての1 年次配当科目に対する授業評価を収録した。FD 報告書第2 号は、1 年次配当科目・2 年次配当科目すべての講義を開講しており、授業評価アンケートをすべての講義で実施し、平成 18 年度秋学期科目と平成 19 年度春学期科目に対する授業評価を収録した。しかし、異なる年度の評価を同時に収録することの不便さを経験したため、昨年度のFD 報告書第3 号では、平成 19 年度の秋学期科目のみ収録することとした。そしてこのFD 報告書第4 号から当該年度の1 年分の科目を収録することとし、本号から学年歴と対応することとした。

以上の授業評価に加えて、①昨年度から1 年次・2 年次で共通問題による試験を年度末に行い、試験結果をFD 活動に反映させることとした、②スタッフによる教科書作成を企画し、可能なものから発行していること、③学生の学習力の差に配慮したカリキュラム内外での対応を実施していること、④本研究科の教育顧問や客員教授による有益なセミナーを実施していること、⑤非常勤講師等とのコミュニケーションの充実をはかり教授者のインセンティブを高めていること、⑥これらに関して日常的に話し合いの場を設けていること、など具体的にFD 活動を充実させてきた。

すべての教職員が本研究科の設立の趣旨を確認し、必要な教育改善は絶え間なく行うこととしているが、このFD 報告書の作成を通じてあらためて問題を真摯に分析する機会としている。

平成 21 年 3 月
会計研究科長 柴 健次

授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

(1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、平成 20 年度の春学期と秋学期に開講されたすべての授業科目を対象としている（次頁参照）。

(2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

個別演習科目であるアカデミック・ソリューション、プロフェッショナル・ソリューション、論文指導・修士論文を除き、すべての科目が 15 回の講義が実施される。最終講義日の前回である第 14 回目（個別演習科目では 29 回目）の講義で、授業評価アンケートの質問状と回答用紙が授業担当者によって配布され、最終講義日の講義終了時に授業評価アンケートの回答用紙が授業担当者によって回収される。回収された回答用紙は、授業担当者によって事務に戻却され、そこで集計される。授業評価アンケートは講義時間に影響を与えぬよう、また受講生の正直な回答を促すため、講義時間外に無記名で記入される。集計された結果は、今後の授業内容および方法の改善のための資料として、各授業担当者に配布される。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

(3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び系別平均については、原則として担当教員が分析している。

(4) フィードバック方法

専任教員が担当する科目では、各担当者が前年度の授業評価アンケートとの比較を行い、授業改善が有効であったか否かを検証した。非常勤講師が担当する授業科目については、担当教員へアンケート集計結果及び本報告書を送付している。

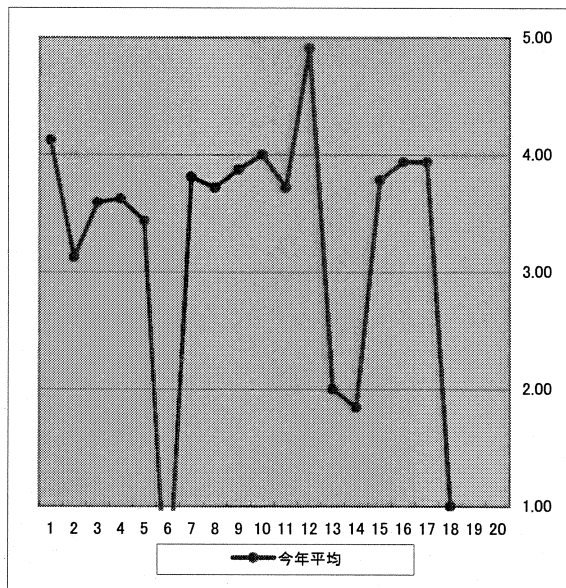
(5) 対象科目リスト (索引)

類別	授業科目	配当年次	開講年度/学期/頁		類別	授業科目	配当年次	開講年度/学期/頁	
			春学期	秋学期				春学期	秋学期
基本科目群	理論科目 必修科目	会計専門職業倫理	2	4	34	理論科目 選択科目	特殊講義（企業経営を取り巻く会計の課題と方向）	1・2	
		上級簿記	1	5			特殊講義（りそな銀行寄付講座ターンアラウンド論）	1・2	
		上級財務会計論＜07年以前：財務会計論＞	1	6			英文会計論	2	
		上級原価計算論	1	7			会計戦略論	2	24
		上級管理会計論	1	8			無形資産会計論	2	25
		監査制度論	1	9			金融商品会計論	2	26
		監査基準	1	10			倒産分析論【2007年度以前入学生用】	2	64
		企業法＜07年以前：企業法入門＞	1	11			サプライチェーン・マネジメント論【2007年度以前入学生用】	2	65
	理論科目 選択必修科目	会計専門職業数学	1	12			企業結合会計	2	
		会計基準論	1		35		企業価値計算論【2007年度以前入学生用】	2	27
		会計制度論	1		13		会計情報システム【2007年度以前入学生用】	1	
		特殊簿記	1		36		国際税務戦略論	2	
		戦略管理会計論	1		37		ニュー・パブリック・マネジメント論【2007年度以前入学生用】	2	
		上級税務会計論	1		14		非営利会計論	2	28
		租税法会計論	1				国際公会計制度論	2	
		公会計理論	1		38		保証業務論	2	29
		監査実施論	1				システム監査論【2007年度以前入学生用】	2	30
		監査報告論	1				内部監査論	2	
		商法	1		15		不正摘発監査論	2	
		中級会社法＜07年以前：会社法＞	1		39		法人税法	2	
		民法（総則・物権）＜07年以前：民法＞	1				行政法	2	
		経営学理論	1		16		起業論【2007年度以前入学生用】		66
		実践経営管理論	1		40		組織再編論【2007年度以前入学生用】		31
		インベストメント論	1		17		プロダクト・マネジメント論	2	
		コーポレート・ファイナンス論	1		41		国際経営論	2	
		ミクロ経済学	1		42		リスク分析論	2	
		統計学	2				中小企業金融論【りそな銀行寄付講座】	1・2	
		国際会計基準論	2		43		公開戦略論【2007年度以前入学生用】	2	32
		国際会計制度論	2		18		年金財政論【2007年度以前入学生用】	2	
		企業分析論	2				国際財務戦略論	2	
		コストマネジメント論	2				企業経済学	2	33
		上級税務戦略論	2				公共経済学	2	67
		公監査論	2				X B R L 論	2	
		政府・自治体会計論	2				国際会計事例研究	2	
		政府会計論【2007年度以前入学生用】	2		19		国際管理会計事例研究	2	
		自治体会計論【2007年度以前入学生用】	2		44		国際税務会計事例研究	2	
		国際監査制度論	2				公会計・公監査事例研究	2	
		金融商品取引法＜06年：証券取引法＞	2				国際監査事例研究	2	
		上級会社法	2				企業再生事例研究	2	
		租税法理論＜07年以前：租税法＞	2				リサーチ・メソドロジー	2	
		民法（債権）	2				国際コミュニケーション論	2	
		経営戦略論	2			会計系科目 平均	財務会計系		68
		経営組織論	2				管理会計系		69
		インベスター・リレーションズ論	2		45		税務会計系		70
		資本市場論	2		20		公会計系		71
発展科目群	実践科目	マクロ経済学	2		21	会計系科目 平均	監査系		72
		会計事例研究	1				法律系		73
		管理会計事例研究	1				経監系		74
		監査事例研究	1		46		ファイナンス系		75
		基本会計プログラム演習	1		47		経済・統計系		76
		基本監査プログラム演習	1		22	非会計系科目 平均	IT・ビジネススキル系		77
		ディスクロージャー実務	2				個別演習科目（アカデミック・ソリューション）		78
		税務会計事例研究	2				個別演習科目（プロフェッショナル・ソリューション）		79
		判例演習	2		23		系別平均		80
		起業・株式公開事例研究	2			会計系科目 平均	財務会計系		68
		実践会計プログラム演習	2		48		管理会計系		69
		実践監査プログラム演習	2				税務会計系		70
		アカデミック・ソリューション	1		49-55		公会計系		71
		プロフェッショナル・ソリューション	2		56-61		監査系		72
		論文指導・修士論文	2		62-63		法律系		73
	個別演習科目						経監系		74
							ファイナンス系		75
							経済・統計系		76
							IT・ビジネススキル系		77
							個別演習科目（アカデミック・ソリューション）		78
							個別演習科目（プロフェッショナル・ソリューション）		79
							系別平均		80

Ⅱ．20 年度春学期 授業評価アンケート結果概要

科 目: 会計専門職業倫理
 配当年次 2年次 開講時限 火1
 受講者数 36 回答者数 32

質問No.	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.13	4	5	1
2	3.13	3	5	1
3	3.59	4	5	1
4	3.63	4	5	1
5	3.44	4	5	1
6	0.06	4	5	1
7	3.81	4	5	1
8	3.72	4	5	1
9	3.88	4	5	1
10	4.00	4	5	2
11	3.72	4	5	1
12	4.91	5	5	4
13	2.00	1	5	1
14	1.84	1	5	1
15	3.78	4	5	1
16	3.94	4	5	1
17	3.94	4	5	1
18	1.00	1	1	1
19	0.00	0	0	0
20	0.00	0	0	0
回答者数	32			



受講生の傾向

会計士としての職業倫理に興味のある受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

ディスカッションに加え、発表等も班単位で行うようにしたい。

科目: 上級簿記

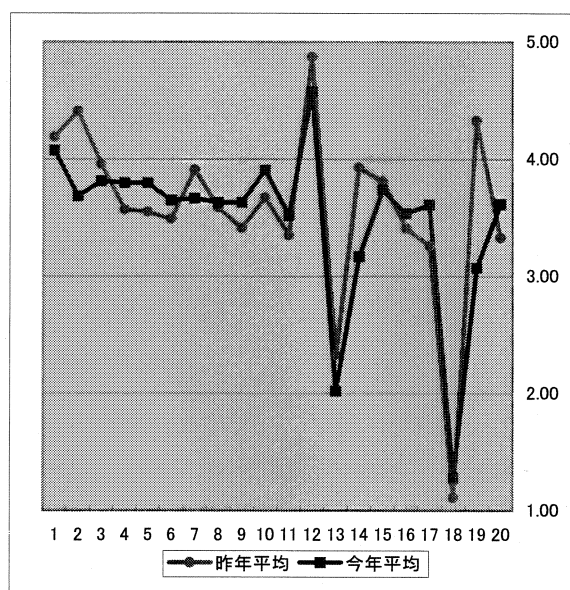
配当年次: 1

受講者数: 64

開講時限: 火2-3

回答者数: 54

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.19	4.07	5	5	1
2	4.41	3.69	3	5	1
3	3.96	3.81	4	5	1
4	3.57	3.80	4	5	1
5	3.55	3.80	4	5	1
6	3.49	3.65	4	5	1
7	3.91	3.67	4	5	1
8	3.59	3.63	4	5	1
9	3.41	3.63	4	5	1
10	3.67	3.91	4	5	1
11	3.35	3.52	4	5	1
12	4.87	4.57	5	5	1
13	2.33	2.02	1	5	1
14	3.93	3.17	3	5	1
15	3.81	3.74	4	5	1
16	3.41	3.54	4	5	1
17	3.26	3.61	4	5	1
18	1.11	1.28	1	4	1
19	4.33	3.07	3	5	1
20	3.33	3.62	4	5	2
回答者数	69	32			



受講生の傾向

講義時間の開始時には、ほぼ全員が着席している状態で、遅参者は少なかった。

教員の説明に真面目に耳を傾けたり、講義内容を熱心にメモしている受講生が多かった。

問題演習の時間には、ほぼ全員が真剣に取り組んでいたが、なかには退屈気味にする受講生もあり、私語が少なからず見受けられた。

会計基準等の原文にあまり目を通さず、計算の方法とその意味を十分に理解しないまま、解法のテクニックだけを覚えようとする傾向があった。そのため、試験の結果を分析してみると、基本的な問題の正答率は全体的に高いが、出題形式を工夫した問題の正答率は、それほど高くなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

パワーポイントとオリジナル問題を講義資料として配布し、これを中心とした講義を展開した。

講義資料は、会計処理の考え方や計算過程を詳しく示し、計算には丁寧な解説を付すなど、受講生の理解を促すことを念頭において作成した。暗記よりも理解させることに力点を置き、高レベルの問題に対処できるような基礎力の養成を心がけた。

会計基準等の原文にできるだけ忠実な説明を心がけ、受講生に原文を見るように促した。

ボリュームのある講義内容は分割して論点を限定し、問題演習の時間をより多く確保した。

問題演習の時間に受講生の質問を受け付け、個々の理解度に応じてその場で疑問を解消できるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

講義資料と講義展開の両面において、学生の理解を高めることができる工夫を凝らしていく。

講義時間内にできるだけ多くの演習時間を確保し、学生の疑問を学生の理解度に応じてその場で解消できるようにしていく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計基準等の原文や講義資料の解説をよく読んで内容をしっかりと理解し、基礎力を確かなものとするように指導していく。

テクニカルに問題を解くのではなく、会計処理の考え方や計算の意味を十分に理解した上で問題を解くように指導していく。

科 目: 上級財務会計論

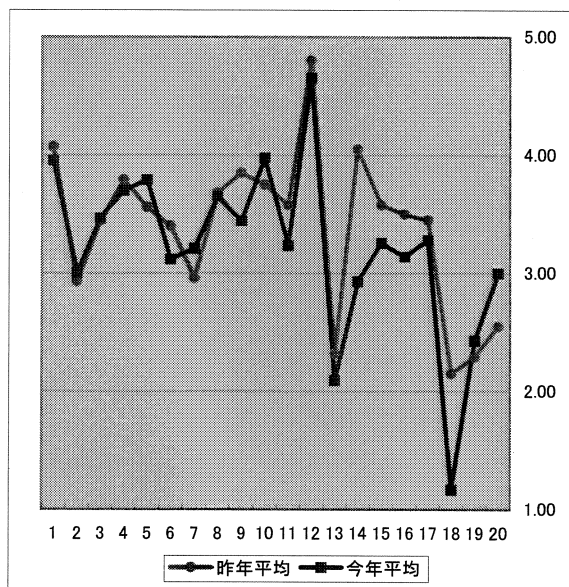
配当年次 1

受講者数 62

開講時限 月2、木3、月4、木2、

回答者数 43

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.07	3.95	4	5	1
2	2.93	3.00	3	5	1
3	3.44	3.47	4	5	1
4	3.79	3.70	4	5	1
5	3.56	3.79	4	5	1
6	3.40	3.12	4	5	1
7	2.96	3.21	4	5	1
8	3.68	3.65	4	5	1
9	3.85	3.44	4	5	1
10	3.75	3.98	4	5	1
11	3.58	3.23	4	5	1
12	4.80	4.65	5	5	1
13	2.32	2.09	1	5	1
14	4.05	2.93	3	5	1
15	3.58	3.26	4	5	1
16	3.50	3.14	4	5	1
17	3.45	3.28	4	5	1
18	2.15	1.17	1	5	1
19	2.29	2.43	2	5	1
20	2.55	3.00	3	5	1
回答者数	59	43			



受講生の傾向

当初、受講生のレベルに2極分化現象が昨年より更に進行し、受講生の1割程度の院生は、昨年より優れたレベルであった。しかし、講義の進行とともにBクラス受講生のレベルが向上し、最終的にはBクラスもAクラスと遜色のないレベルに達した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前半の抽象レベルの解説を簡略化し、後半に具体性のある内容を追加するとともに、小括・小テストを増やした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

基礎的かつ包括的内容の充実を図る。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

前半の抽象レベルの説明を昨年は簡略化しすぎた気配があるので、今年度は1ステップ解説を追加して抽象性の中に具体性を持たせる工夫を施すと同時に、小括・小テストを昨年より更に増やす。

科 目: 上級原価計算論

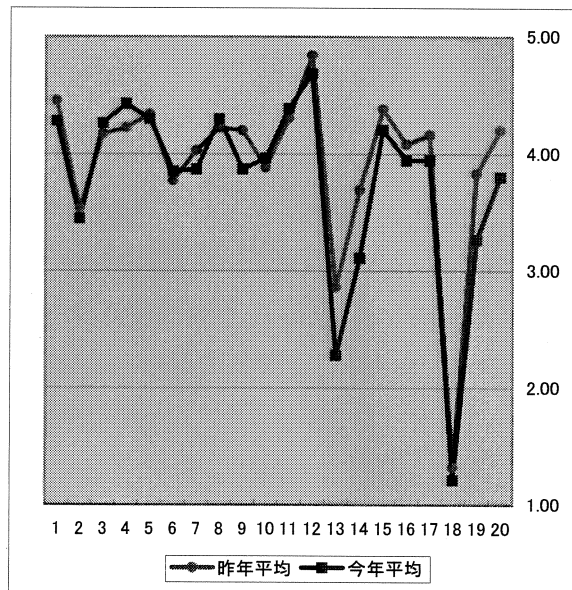
配当年次 1

受講者数 66

開講時限 水2-3

回答者数 54

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.45	4.28	5	5	1
2	3.53	3.44	3	5	1
3	4.17	4.26	4	5	1
4	4.22	4.43	5	5	1
5	4.34	4.30	4・5	5	1
6	3.77	3.85	4	5	1
7	4.03	3.87	4	5	1
8	4.22	4.30	5	5	1
9	4.20	3.87	4	5	1
10	3.88	3.96	4	5	1
11	4.30	4.39	5	5	1
12	4.84	4.69	5	5	1
13	2.86	2.28	2	5	1
14	3.69	3.11	3	5	1
15	4.38	4.20	4	5	1
16	4.08	3.94	4	5	1
17	4.16	3.94	4	5	1
18	1.32	1.21	1	2	1
19	3.83	3.27	3・5	5	1
20	4.20	3.80	3・4	5	2
回答者数	67	54			



受講生の傾向

基本的な原価計算の知識が不足している学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

基本的な点についてポイントを絞り授業を進めることにした。

データの動きについては昨年度とほぼ同じであるため、同程度の教育効果が期待できる。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

体系的なテキストを出版したため、これを利用して効率的にフォローしていく予定である。

テキスト: 加登豊編『インサイト原価計算』中央経済社

科 目: 上級管理会計論

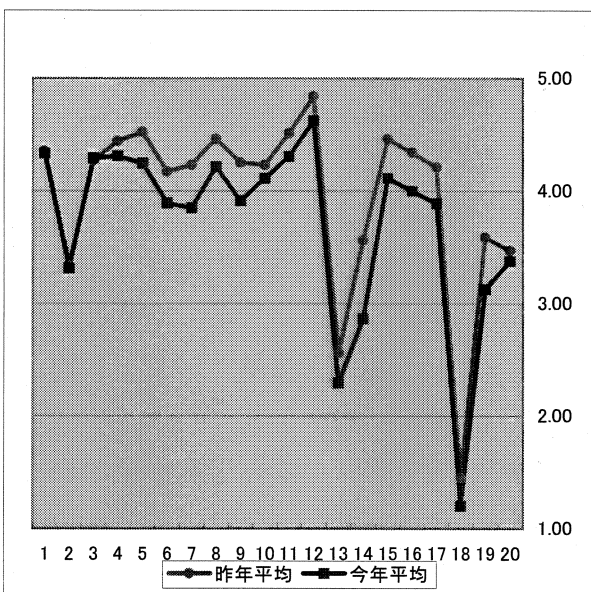
配当年次 1

開講時限 火3、木2

受講者数 62

回答者数 46

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.35	4.33	5	5	1
2	3.34	3.31	3	5	1
3	4.27	4.29	5	5	1
4	4.44	4.31	5	5	1
5	4.52	4.24	5	5	1
6	4.17	3.89	4	5	1
7	4.23	3.85	4	5	1
8	4.46	4.22	4	5	1
9	4.25	3.91	4	5	1
10	4.23	4.11	4	5	1
11	4.51	4.30	5	5	1
12	4.84	4.62	5	5	1
13	2.56	2.30	1・2・3	5	1
14	3.56	2.86	3	5	1
15	4.46	4.11	4	5	1
16	4.34	4.00	4	5	1
17	4.21	3.89	4	5	1
18	1.45	1.20	1	4	1
19	3.59	3.13	3	4	1
20	3.47	3.38	3	5	3
回答者数	74	46			



受講生の傾向

管理会計の基本的な知識が不足している学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

基本的なポイントに焦点を絞り学習を進めていくよう工夫した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度より満足度が若干低下しているの、体系的なテキストを利用して対応する予定である。

なお、テキストは今年度出版されている。

テキスト: 加登豊編『インサイト管理会計』中央経済社

科 目: 監査制度論

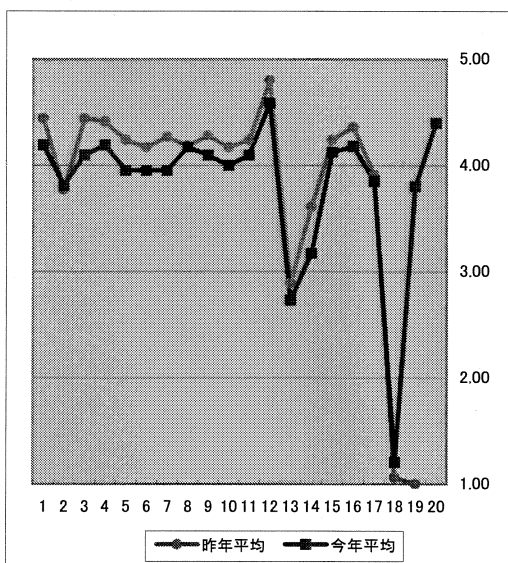
配当年次: 1

受講者数: 65

開講時限: 火2、金3

回答者数: 43

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.44	4.19	5	5	1
2	3.77	3.81	3	5	1
3	4.44	4.10	4	5	1
4	4.41	4.19	5	5	1
5	4.24	3.95	4	5	1
6	4.17	3.95	4	5	1
7	4.27	3.95	4	5	1
8	4.18	4.17	4	5	1
9	4.28	4.10	5	5	1
10	4.17	4.00	4	5	1
11	4.24	4.10	4	5	1
12	4.80	4.59	5	5	1
13	2.89	2.73	3	5	1
14	3.61	3.17	3	5	1
15	4.24	4.13	5	5	1
16	4.36	4.18	5	5	1
17	3.91	3.85	4	5	1
18	1.06	1.21	1	4	1
19	1.00	3.80	3・4	5	3
20	0.00	4.40	5	5	3
回答者数	71	43			



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率は例年通り、かなり高く85～93%となっている。

上記アンケート結果より、授業に対する予習時間が昨年度よりは若干減少したが、昨年並みの1時間(項目13)と短く、復習時間も若干の減少が見られる(1時間(項目14))。このような状況は、相変わらず望ましい状況とは言えない。

Class AとClass Bの間での理解度の差が、小テスト及び期末試験から判断すると大きい(ただし、Class AとClass Bを区別していないアンケート集計結果からは不明)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度から制度改正等に伴う箇所や不備のあった箇所などを改訂したパワーポイントによるスライドを用意・配布した上で、監査制度に関する重要論点を確実に講義の中で押さえるようにした。

スライドの最後には、去年同様に、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列挙した。

授業が2回終了する(1週間)ごとに、前2回分の理解度を確認するためのとともに、復習を動機付けるために小テストを授業時間の最初15～20分程度で実施し、添削後、返却した。最終的に、各クラスで6回分の小テスト実施→添削→返却(講評)を繰り返すことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように、去年以上に心懸けたが、残念ながら昨年度よりも若干評点が低くなっている。

昨年度の経験から、答案練習会との連動を図った結果、答案練習会への参加頻度が向上した(項目18、19、20)。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

こちらの期待に反して、受講生の側での予習・復習の時間が相対的に少ないため、復習課題の一部提出強制をする必要があるかもしれない。

授業時間中の受講生側の理解度を確認するために、適時に指名して答えさせる必要がある。このことは、授業時間中の緊張感を保つことにも資すると考えられる。

答案練習会との連動を図る必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習・復習の時間を確保させるために小テスト返却時に最低限度の講評とともに、成績優秀者の答案を学籍番号・氏名を伏してコピーし全員に配布するようにした。

科 目: 監査基準

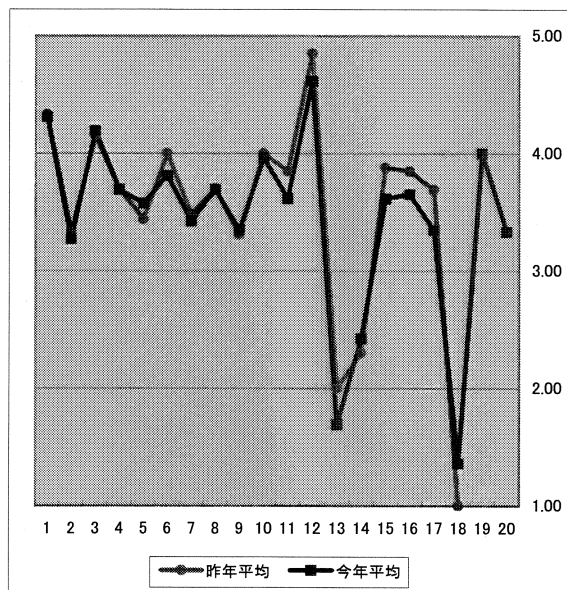
配当年次 1

受講者数 62

開講時限 金2

回答者数 26

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.31	4・5	5	1
2	3.33	3.27	3	5	1
3	4.15	4.19	4	5	1
4	3.70	3.69	4	5	1
5	3.44	3.58	4	5	1
6	4.00	3.81	4	5	1
7	3.48	3.42	4	5	1
8	3.70	3.69	3・4	5	1
9	3.31	3.35	3	5	1
10	4.00	3.96	4	5	1
11	3.85	3.62	4	5	1
12	4.85	4.62	5	5	1
13	2.00	1.69	1	4	1
14	2.30	2.42	2	5	1
15	3.88	3.62	4	5	1
16	3.85	3.65	4	5	1
17	3.69	3.35	4	5	1
18	1.00	1.36	1	5	1
19	0.00	4.00	4	4	4
20	0.00	3.33	3	4	3
回答者数	27	26			



受講生の傾向

監査基準の学習経験のある学生とない学生との差が大きい。
全体として出席状況は良好であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

初回に授業全体のスケジュールを説明し、また、毎回の対象範囲を明確にして次回の授業の予習をしやすいようにした。
理解を深め、最新の情報を提供できるよう、補助資料をできるだけ準備した。
抗議形式ではあるが、できる範囲で対話を取り入れた。
レジュメを昨年度より簡素化し見やすいようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科目: 企業法

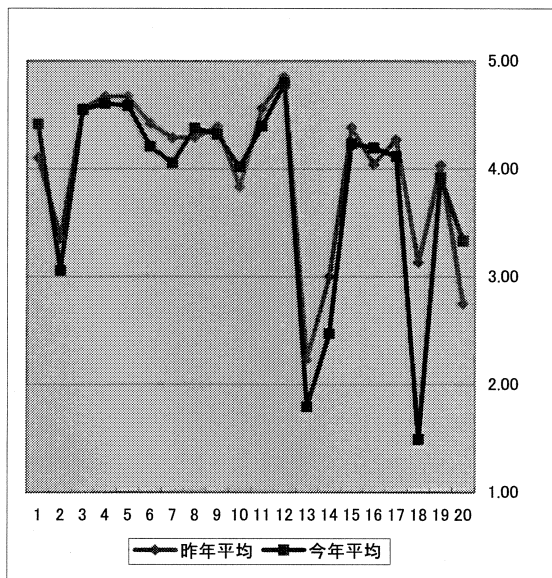
配当年次 1

受講者数 60

開講時限 月3、木2

回答者数 53

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.10	4.42	5	5	2
2	3.35	3.06	3	4	2
3	4.56	4.55	5	5	2
4	4.67	4.60	5	5	1
5	4.67	4.58	5	5	2
6	4.42	4.21	4	5	2
7	4.29	4.06	4	5	2
8	4.29	4.38	5	5	2
9	4.39	4.32	4	5	1
10	3.83	4.02	4	5	1
11	4.56	4.40	5	5	1
12	4.85	4.79	5	5	2
13	2.23	1.79	1	4	1
14	3.00	2.47	3	5	1
15	4.38	4.23	4	5	2
16	4.04	4.19	4	5	2
17	4.27	4.12	4	5	1
18	3.13	1.49	1	5	1
19	4.03	3.92	5	5	1
20	2.75	3.33	3	5	1
回答者数	48	53			



受講生の傾向

法学の勉強が始めての学生もあり、基礎的な理解をするのに時間がかかる傾向がある。

また、法学の勉強が始めての学生であっても、法学に興味を持ち、積極的に取り組む姿勢は見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

企業法は「中級会社法」や「上級会社法」と連続する科目であるので、それらの連携に心がけた。

レジュメは、企業法の時点で「中級会社法」で利用することができるものとし、企業法の授業の段階で「中級会社法」の内容を認識させ問題意識を持たせるように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

企業法入門は、他の商法・会社法という科目と連続するので、企業法入門レジュメ配布時に、連続する科目のレジュメも配布し、予習や深く学習するための便宜を図りたい。今後も引き続き補習授業を続けたい。

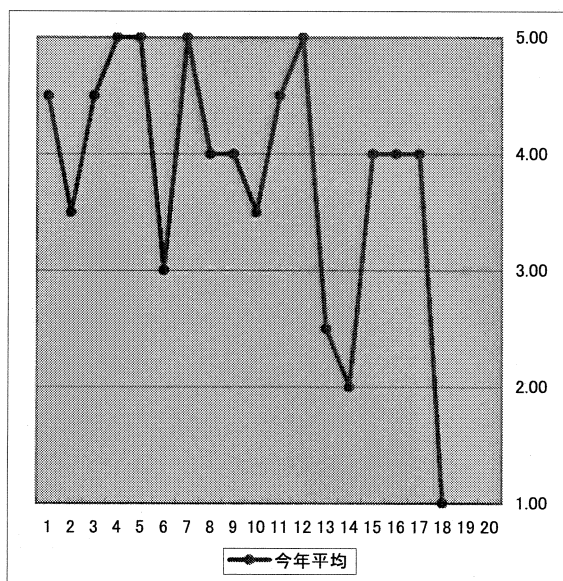
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

企業法については、範囲が広いので、もう少し範囲を絞った授業にして学生理解を助け、扱わない範囲については、それぞれ他の授業(商法や金融商品取引法など)にゆだねるようにしたい。

引き続き補習授業は続けるが、もっと多くの学生に参加してもらいたい。

科目: 会計専門職業数学
 配当年次: 開講時限 土2
 受講者数: 回答者数 2

質問No.	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4・5	5	4
2	3.50	3・4	4	3
3	4.50	4・5	5	4
4	5.00	5	5	5
5	5.00	5	5	5
6	3.00	3	3	3
7	5.00	5	5	5
8	4.00	4	4	4
9	4.00	3・5	5	3
10	3.50	3・4	4	3
11	4.50	4・5	5	4
12	5.00	5	5	5
13	2.50	2・3	3	2
14	2.00	2	2	2
15	4.00	4	4	4
16	4.00	3・4	4	3
17	4.00	4	4	4
18	1.00	1	1	1
19	0.00	0	0	0
20	0.00	0	0	0
回答者数	53			



受講生の傾向

この科目は今年度からスタートした科目であり、経済学のみならず、経営学や会計学を専攻する多くの院生諸君にも是非受講してほしいと願って設置した科目である。というのは、最近の経済学、経営学、会計学では基本的な数学の知識が必要であるからである。しかし、残念ながら期待したほど受講生は多くはなく、聴講生を含めても出席者数は期待した半数にも届かなかった。それは「数学」ということで文系の学生・院生に共通のアレルギーがあることが大きな原因の一つではないかと考えている。ただ、講義を受講した院生は、だれ一人欠けることなく最後まできちんと熱心に受講して、かなりの実力が身についたと思っている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

授業はそんなに難解なものではなく、高校の基礎的な数学の知識があれば、受講するには十分であり、またこの授業を受けることで、経済学、経営学のみならず会計学などの理解にも有益であるということを院生に事前に周知するように努力したいと考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科目: 会計制度論

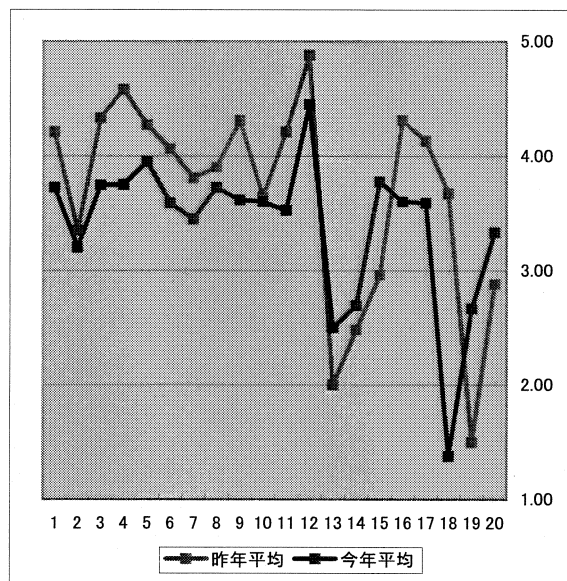
配当年次 1

受講者数 48

開講時限 金4

回答者数 40

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.21	3.73	4・5	5	1
2	3.35	3.20	3	5	1
3	4.33	3.74	4	5	1
4	4.58	3.75	4	5	1
5	4.27	3.95	4	5	1
6	4.06	3.59	3	5	1
7	3.81	3.45	4	5	1
8	3.90	3.73	5	5	1
9	4.31	3.62	4	5	1
10	3.64	3.60	4	5	1
11	4.21	3.53	4	5	1
12	4.88	4.45	5	5	1
13	2.00	2.50	2	5	1
14	2.48	2.69	2	5	1
15	2.96	3.78	5	5	1
16	4.31	3.60	5	5	1
17	4.13	3.59	3	5	1
18	3.67	1.38	1	5	1
19	1.50	2.67	1	5	1
20	2.88	3.33	2・3・5	5	2
回答者数	48	40			



受講生の傾向

前年度比較でいうと、教員評価に係る項目(1から11と15から17)のほとんどの項目に関して評価点が下がったが、その程度は軽微であった。学生自身の評価を見ると、非常に出席率が高いがそれほど予習復習に時間をかけていないという傾向に変化はなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

例年と同じく、原典にあたらせ、講義中には多く質問し、考える癖をつけさせるようにした。

最大の難関は、彼ら自身が独自に築いてしまっている暗記中心の学習観をいかに打破するかである。

今年度の受講生はこの傾向が強いので特に考える重要性を繰り返し説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

自ら考える習慣のない(ある意味勉強する習慣のない)学生にいかにそのコツを教えるかが重要であるが実感されるのでこれまで以上にこのための工夫を行うとしてたが、考える学習を拒む学生に対して心理面からこれに対する抵抗感を緩和させるところまでは成功しなかった。これが評価の低下の原因であろうと思われる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

考えろというばかりでは改善しないので、具体的な訓練法を開発し、これを提供することにする。

科 目: 上級税務会計論

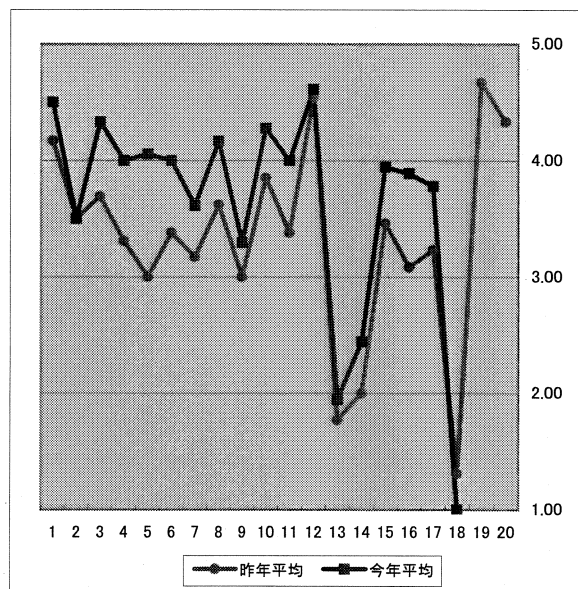
配当年次 1

受講者数 42

開講時限 金1

回答者数 18

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.17	4.50	5	5	3
2	3.50	3.50	3・4	5	2
3	3.69	4.33	4・5	5	3
4	3.31	4.00	4	5	3
5	3.00	4.06	4	5	3
6	3.38	4.00	5	5	1
7	3.17	3.61	3	5	2
8	3.62	4.17	5	5	2
9	3.00	3.29	3	5	1
10	3.85	4.28	4	5	3
11	3.38	4.00	4	5	1
12	4.54	4.61	5	5	1
13	1.77	1.94	1	4	1
14	2.00	2.44	3	5	1
15	3.46	3.94	4	5	2
16	3.08	3.89	4	5	2
17	3.23	3.78	4	5	2
18	1.31	1.00	1	1	1
19	4.67	0.00	0	0	0
20	4.33	0.00	0	0	0
回答者数	15	18			



受講生の傾向

税法だけでなく簿記も学習を始めたばかりの学生が見られた。
独自に税法を学習している学生もあり、学生間の知識の差が大きい。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

初回到授業全体のスケジュールを説明し、予習しやすいように工夫した。

初心者が多いため、基礎的な導入部分に時間を十分割り当てた。

項目数を限定して、基礎部分の理解が得られることを目標とした。

今後の対応

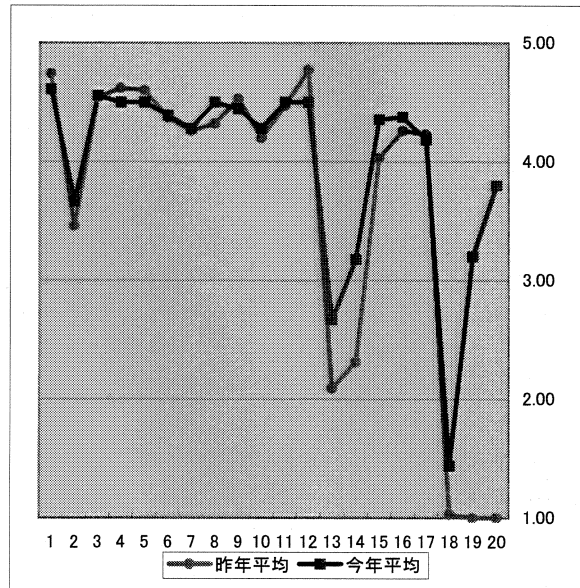
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科目: 商法
配当年次 1
受講者数 22

開講時限 月1、火1
回答者数 18

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.74	4.61	5	5	3
2	3.46	3.67	3	5	3
3	4.54	4.56	5	5	3
4	4.62	4.50	5	5	3
5	4.60	4.50	5	5	3
6	4.37	4.39	5	5	3
7	4.26	4.28	5	5	2
8	4.32	4.50	5	5	3
9	4.53	4.44	5	5	3
10	4.20	4.28	5	5	3
11	4.47	4.50	5	5	3
12	4.77	4.50	5	5	3
13	2.09	2.67	3	5	1
14	2.31	3.18	2	5	1
15	4.03	4.35	4	5	3
16	4.26	4.38	4	5	3
17	4.23	4.19	5	5	2
18	1.03	1.44	1	5	1
19	1.00	3.20	3・4	5	2
20	1.00	3.80	5	5	2
回答者数	35	18			



受講生の傾向

企業法や会社法と異なり、商法は履修者が少なかった。
その反面、履修した学生はほとんどが興味や関心を持った学生ばかりだったので、熱心に受講していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

企業法と商法を連携させたレジュメを作成して、商法の授業時に企業法にフィードバックすることができるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

商法という科目は、企業法入門と連続する科目であるから、商法のレジュメの中にそれに該当する企業法入門の内容を入れて、商法の授業から企業法入門の授業へとフィードバックできるようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

商法は、会社法よりも範囲が狭いので、企業法での商法に関する基本的な学習がなくても、完結できるようにしたい。

科目: 経営学理論

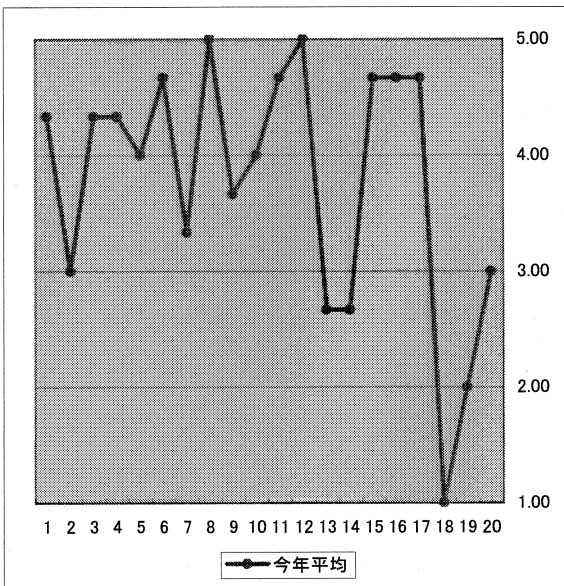
配当年次: 1

受講者数: 7

開講時限: 土3

回答者数: 3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.33	5	5	3
2	-	3.00	3	3	3
3	-	4.33	4	5	4
4	-	4.33	4	5	4
5	-	4.00	3・4・5	5	3
6	-	4.67	5	5	4
7	-	3.33	3	4	3
8	-	5.00	5	5	5
9	-	3.67	4	4	3
10	-	4.00	3・4・5	5	3
11	-	4.67	5	5	4
12	-	5.00	5	5	5
13	-	2.67	3	3	2
14	-	2.67	3	3	2
15	-	4.67	5	5	4
16	-	4.67	5	5	4
17	-	4.67	5	5	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	2.00	2	2	2
20	-	3.00	3	3	3
回答者数	-	3			



受講生の傾向

授業への取り組み姿勢はまじめであった。経営分野の知識レベルに関する差が見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前年度は未開講。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

前年度は未開講。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

基礎的な事項の解説の比重を若干高める必要があると思われる。

科 目: インベストメント論

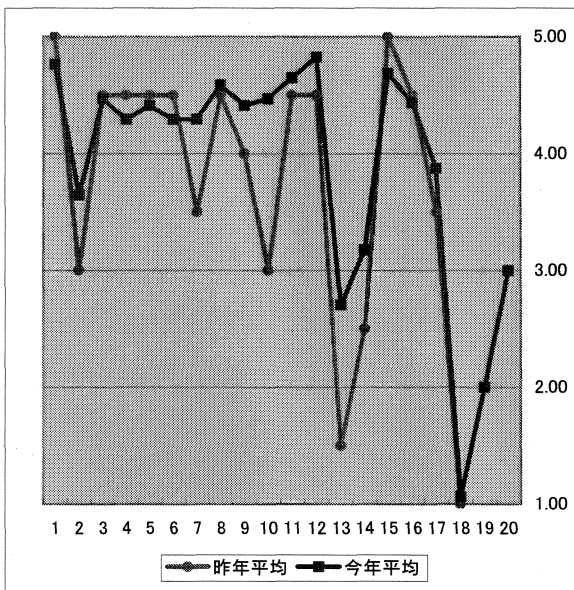
配当年次 1

開講時限 水1

受講者数 20

回答者数 17

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.76	5	5	4
2	3.00	3.65	3	5	3
3	4.50	4.47	5	5	3
4	4.50	4.29	5	5	3
5	4.50	4.41	5	5	3
6	4.50	4.29	4	5	3
7	3.50	4.29	5	5	3
8	4.50	4.59	5	5	3
9	4.00	4.41	5	5	2
10	3.00	4.47	5	5	3
11	4.50	4.65	5	5	4
12	4.50	4.82	5	5	4
13	1.50	2.71	3	5	1
14	2.50	3.18	3	5	2
15	5.00	4.69	5	5	4
16	4.50	4.44	5	5	2
17	3.50	3.88	3・4	5	3
18	1.00	1.06	1	2	1
19	0.00	2.00	2	2	2
20	0.00	3.00	3	3	3
回答者数	2	17			



受講生の傾向

- 1) 出席率は高かった。
- 2) 課題についても多く提出されていた。
- 3) 講義の際の当方からの質問にも積極的に対応するものが多かった。
- 4) 全体的に、内容の理解度はかなり高かったと判断している(テスト結果も踏まえて)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- 1) 文章形式のレジメを講義の前週に配布し、十分な予習が行えるようにした。
- 2) 数値例を中心とした課題を増やし、それをフィードバックした。これにより、理解度の把握もよりできるようになった。
- 3) 理論、数式、概念図、数値例を併せて理解させることは昨年と同様に行った。
- 4) 昨年と比べて、金融商品の基礎知識を解説し、併せて講義の並び替えも行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

- 1) 基礎的な知識に乏しい受講生にも配慮して、講義の並びを再考する。
- 2) 数式に弱い受講生にも理解させる工夫を考えたい。
- 3) 課題をもっと増やし、数値例などで実感を持てる形にする。
- 4) 予習を行うスタイルに切り替えていく(文章はできているので可能である)。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科 目: 国際会計制度論

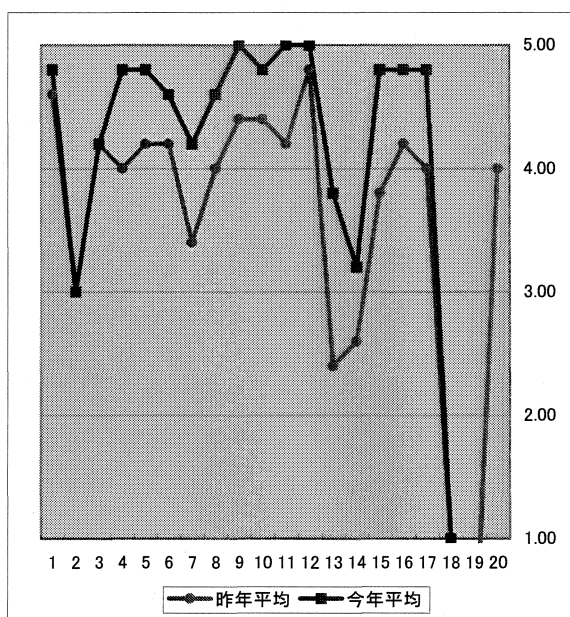
配当年次 2

受講者数 8

開講時限 水2

回答者数 5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	4.80	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.20	4.20	4	5	4
4	4.00	4.80	5	5	4
5	4.20	4.80	5	5	4
6	4.20	4.60	5	5	4
7	3.40	4.20	4・5	5	3
8	4.00	4.60	5	5	4
9	4.40	5.00	5	5	5
10	4.40	4.80	5	5	4
11	4.20	5.00	5	5	5
12	4.80	5.00	5	5	5
13	2.40	3.80	3・4	5	3
14	2.60	3.20	3	5	2
15	3.80	4.80	5	5	4
16	4.20	4.80	5	5	4
17	4.00	4.80	5	5	4
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	4.00	0.00	0	0	0
回答者数	5	5			



受講生の傾向

受講生は真剣に、前向きに課題に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

変わりゆく国際会計制度の現実を可能な限りリアルに展開し、受講生に習熟させるために、プレゼンテーション中心の対話形式により講義を展開した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

激動する国際会計制度の現実を第一次情報に基づいて展開する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

近年、国際会計制度が益々激化しているので、基本的に昨年の方針を踏襲する。

科 目: 政府会計論

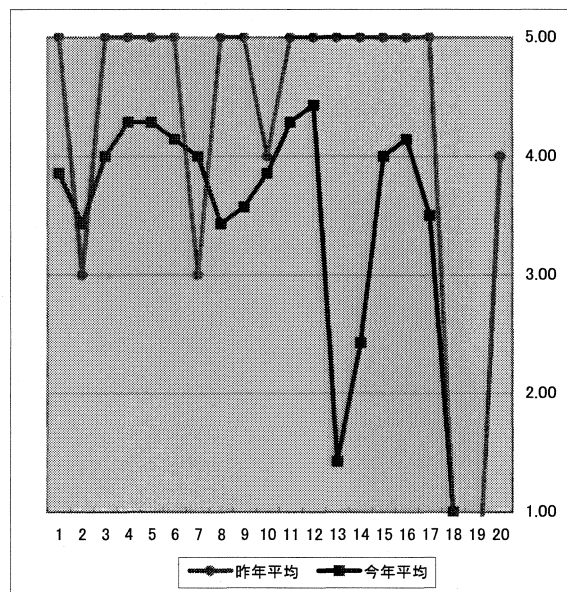
配当年次 2

受講者数 8

開講時限 月4

回答者数 7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	3.86	4	5	1
2	3.00	3.43	3	4	3
3	5.00	4.00	4	5	3
4	5.00	4.29	4・5	5	3
5	5.00	4.29	4・5	5	3
6	5.00	4.14	4	5	3
7	3.00	4.00	4	5	4
8	5.00	3.43	3	5	3
9	5.00	3.57	3	5	3
10	4.00	3.86	4	5	2
11	5.00	4.29	4	5	4
12	5.00	4.43	4	5	4
13	5.00	1.43	1	2	1
14	5.00	2.43	2	4	1
15	5.00	4.00	4	5	3
16	5.00	4.14	5	5	3
17	5.00	3.50	4	5	1
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	4.00	0.00	0	0	0
回答者数	1	7			



受講生の傾向

熱心な姿勢の受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本科目は終了予定。

科 目: 資本市場論

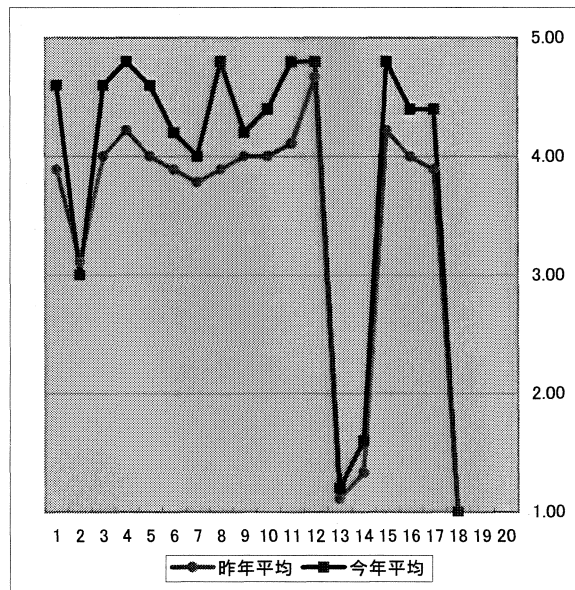
配当年次 2

受講者数 6

開講時限 金2

回答者数 5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.89	4.60	5	5	4
2	3.11	3.00	3	3	3
3	4.00	4.60	5	5	4
4	4.22	4.80	5	5	4
5	4.00	4.60	5	5	4
6	3.89	4.20	4・5	5	3
7	3.78	4.00	3・5	5	3
8	3.89	4.80	5	5	4
9	4.00	4.20	4・5	5	3
10	4.00	4.40	5	5	2
11	4.11	4.80	5	5	4
12	4.67	4.80	5	5	4
13	1.11	1.20	1	2	1
14	1.33	1.60	2	2	1
15	4.22	4.80	5	5	4
16	4.00	4.40	5	5	4
17	3.89	4.40	5	5	3
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	9	5			



受講生の傾向

公認会計士試験に直接関係のない科目であり、将来を見据えて、自分の専門性を高めるべく受講する生徒が多く、非常に熱心である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業の事前準備をより入念に行い、説明のポイントやディスカッションさせるべき内容等を事前に準備した。
小レポートを毎回提出されるようにし、当日のポイントを再度確認させるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業の準備をより入念に行うとともに、最新の状況について講義できるべく、さまざまな機会を捉えて勉強を行う。
小レポートやディスカッションに工夫を行って、毎回、重要なポイントを理解かつ応用可能のように指導して行く。

科 目: マクロ経済学

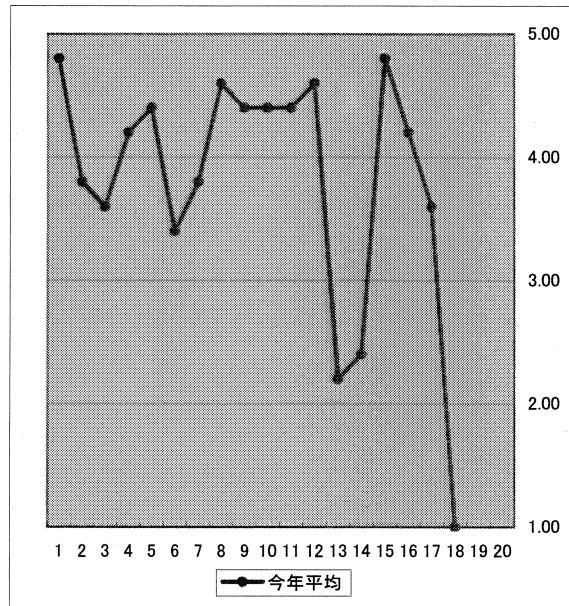
配当年次 2

受講者数 13

開講時限 火2

回答者数 5

質問No.	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	5	5	4
2	3.80	3	5	3
3	3.60	4	4	3
4	4.20	4	5	4
5	4.40	4	5	4
6	3.40	3	5	3
7	3.80	4	4	3
8	4.60	5	5	4
9	4.40	4	5	4
10	4.40	4	5	4
11	4.40	4	5	4
12	4.60	5	5	3
13	2.20	2	3	2
14	2.40	2	3	2
15	4.80	5	5	4
16	4.20	5	5	4
17	3.60	3	5	3
18	1.00	1	1	1
19	0.00	0	0	0
20	0.00	0	0	0
回答者数	5			



受講生の傾向

ミクロ経済学と同様に経済学の基礎をなす経済理論の柱の一つであるが、ミクロ経済学と比較すると日常マスコミで目にする経済用語が頻繁に講義に出てくるので、院生は親しみを感じるのかミクロ経済学よりは理解は早いと考えている。特に、会計士になってからも日常の世界経済、日本経済の変化をマクロ経済学の理論、知識で分析することになるので、非常に興味をもって受講しているように感じられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計士の受験のためだけではなく、日常の経済の変化を理解するように、経済の事例を付け加えながら講義を進めたいと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科目：基本監査プログラム演習

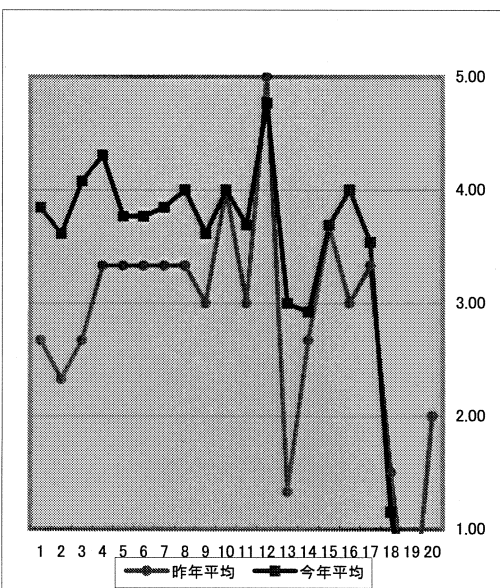
配当年次：1

開講時間：木1

受講者数：21

回答者数：13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	2.67	3.85	3・4・5	5	2
2	2.33	3.62	3	5	2
3	2.67	4.08	4	5	3
4	3.33	4.31	5	5	3
5	3.33	3.77	3・4・5	5	1
6	3.33	3.77	4	5	2
7	3.33	3.85	3・4・5	5	2
8	3.33	4.00	4	5	3
9	3.00	3.62	3・4	5	2
10	4.00	4.00	3・4・5	5	3
11	3.00	3.69	4	5	2
12	5.00	4.77	5	5	3
13	1.33	3.00	2	5	1
14	2.67	2.92	2	5	1
15	3.67	3.69	3	5	1
16	3.00	4.00	5	5	2
17	3.33	3.54	3・4	5	1
18	1.50	1.15	1	2	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	2.00	0.00	0	0	0
回答者数	3	13			



受講生の傾向

本科目は発展科目であるが、授業の出席率は非常に高く85%超(項目12)となっている。しかし、予復習を含めた自習時間が1時間程度(項目13、項目14)となっており、必ずしも十分とは言えない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

毎回、パワーポイントによるスライドと、必要に応じて基準や監査実務指針や意見書等を用意し、配布した上で、主に監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。このように前半においては、監査実施プロセスについて座学により講義を行ない、後半に監査プログラムを用いたコンピュータ監査を実体験させた。前半の講義により、監査プログラムを動かすための基本的な用語や概念、内容を理解させたことで、後半の実践的なプログラム運用が効果的に行なえた。

また前半の授業段階では、各自の理解度を確認するために、質疑応答を導入し、回答回数に応じた成績評価を導入した。

前半に用いたスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列挙した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

アンケート調査票の回収を授業時間内で行なえるような時間配分が必要である。

授業時間内での質疑応答に対して、積極的な受講生とそうでないものがあり、消極的な学生に対して発言機会を与える方法を考えなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

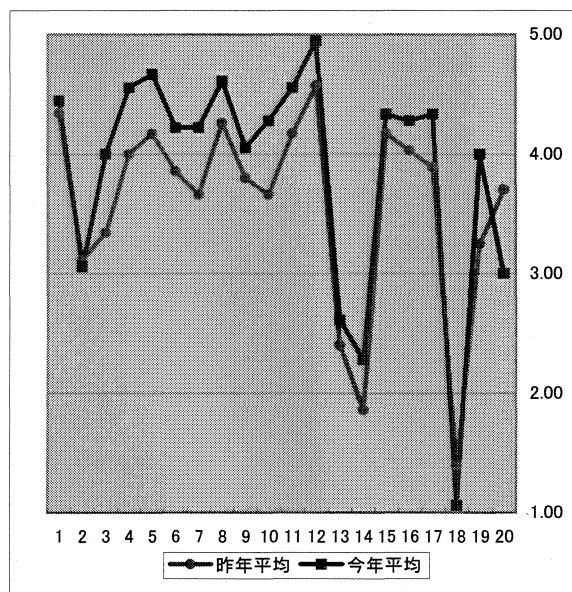
今年度は、アンケート調査票の回収のために、調査票の配布を予め早めに行なうことで、回収率を高めることを計った。ただし、個人名の特定を避けるため回収そのものを学生に任せているため、回収率は学生の自主性に委ねざるを得ない。また今年度は、担当者の内地研修が後期にあった関係上、本科目を前期に開講したため、基本科目を終えていない学生が対象となり、そのせいもあって教育効果が下がった可能性があるため、次年度以降は、当初の予定通り後期開講とする必要がある。

とはいえ、回収率が昨年の3名から13名に上昇したことにより、より正確なアンケート結果となったと考えられる。

科目:判例演習
配当年次 2
受講者数 25

開講時限 水1
回答者数 18

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.34	4.44	5	5	3
2	3.11	3.06	3	5	2
3	3.34	4.00	4	5	3
4	4.00	4.56	5	5	3
5	4.17	4.67	5	5	4
6	3.86	4.22	4	5	3
7	3.66	4.22	5	5	3
8	4.26	4.61	5	5	3
9	3.80	4.06	5	5	3
10	3.66	4.28	4・5	5	2
11	4.17	4.56	5	5	4
12	4.57	4.94	5	5	4
13	2.40	2.61	1	5	1
14	1.86	2.28	2	5	1
15	4.17	4.33	4・5	5	3
16	4.03	4.28	4	5	3
17	3.89	4.33	4	5	3
18	1.39	1.06	1	2	1
19	3.25	4.00	4	4	4
20	3.70	3.00	3	3	3
回答者数	35	18			



受講生の傾向

演習科目とはいうものの学生による議論が少なかった。
授業時に発言が見られることもあったが、ほとんど同じ学生によるものであった。
自らに割り当てられたテーマの研究は熱心に行っていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業のイニシアチブを学生に持たせて、学生の議論が収束するまでは、発言しないようにして、最終的に議論をまとめるようにした。最初に学生をグループ分けするのではなく、同一のテーマに興味を持った学生をグループにして、学生のモチベーションを高めるよう心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

演習科目であるから、質疑応答がより活発に行われるようにしたい。
会社法という科目をより発展したものであるから、会社法との連続性を生かしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生同士の議論がまだまだ活発ではないので、より活性化するように心がけたい。

科 目: 会計戦略論

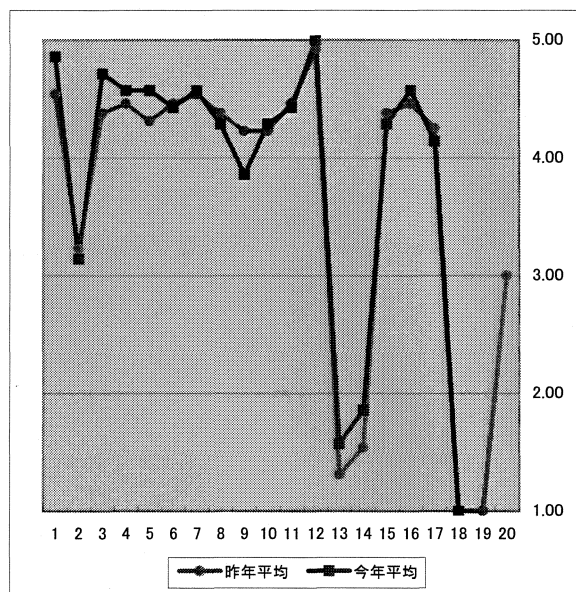
配当年次 2

受講者数 7

開講時限 月4

回答者数 7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.54	4.86	5	5	4
2	3.23	3.14	3	4	3
3	4.38	4.71	5	5	4
4	4.46	4.57	5	5	4
5	4.31	4.57	5	5	4
6	4.46	4.43	4	5	4
7	4.54	4.57	5	5	4
8	4.38	4.29	4	5	4
9	4.23	3.86	4	5	3
10	4.23	4.29	4・5	5	3
11	4.46	4.43	5	5	3
12	4.92	5.00	5	5	5
13	1.31	1.57	1	3	1
14	1.54	1.86	2	3	1
15	4.38	4.29	5	5	2
16	4.46	4.57	5	5	4
17	4.25	4.14	4	5	3
18	1.00	1.00	1	1	1
19	1.00	0.00	0	0	0
20	3.00	0.00	0	0	0
回答者数	13	7			



受講生の傾向

非常に熱心に受講する学生がほとんどであった。
 課題報告でのディスカッションには、積極的な学生とそうではない学生とに差が生じた。
 自分たちで、自分たちなりの考察しようとする姿勢が強く見られた。
 予習・復習のための時間をあまりとらないようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生が講義に集中できるよう、講義中の表示資料のハンドアウトは、講義終了時に配布した。
 具体的な事例を多く紹介することで、受講生がイメージしやすくなるように努めた。
 昨年度のアンケート結果をふまえて、授業計画を一部変更した。
 学生の予習への配慮として、次回講義のポイントと以後の講義計画を毎回アナウンスした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

講義内容への関心度に反して、学生の予習・復習の時間が少なく、
 学生が予習しやすいように次回講義の内容アナウンスや課題設定を講じる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次回講義のポイントと以後の講義計画を毎回アナウンスだけでは、学生の予習を喚起することができず
 予習用の課題や演習の実施を検討する。

科目：無形資産会計論

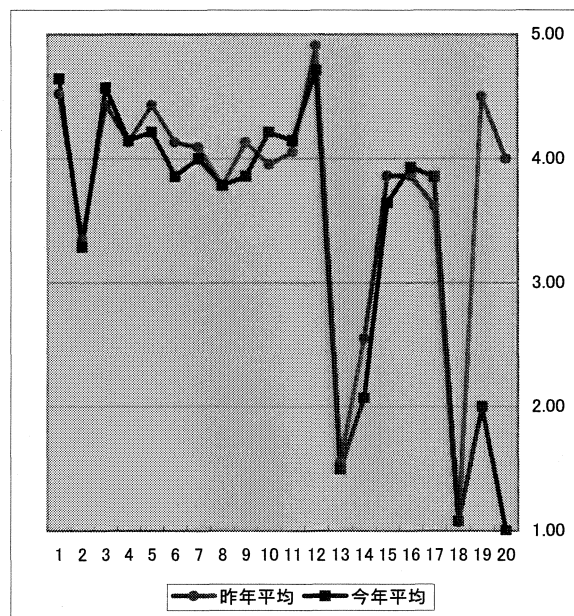
配当年次 2

受講者数 19

開講時限 金2

回答者数 14

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.52	4.64	5	5	4
2	3.35	3.29	3	5	2
3	4.43	4.57	5	5	4
4	4.13	4.14	5	5	1
5	4.43	4.21	5	5	1
6	4.13	3.86	4	5	1
7	4.09	4.00	4	5	3
8	3.78	3.79	5	5	1
9	4.13	3.86	4・5	5	1
10	3.95	4.21	4	5	3
11	4.05	4.14	5	5	1
12	4.91	4.71	5	5	4
13	1.55	1.50	1	4	1
14	2.55	2.07	2	4	1
15	3.86	3.64	4	5	1
16	3.86	3.93	4	5	1
17	3.62	3.86	4	5	1
18	1.07	1.08	1	2	1
19	4.50	2.00	2	2	2
20	4.00	1.00	1	1	1
回答者数	23	14			



受講生の傾向

講義時間の開始時には、ほぼ全員が着席している状態で、遅参者は少なかった。
 教員の説明に真面目に耳を傾けたり、講義内容を熱心にメモしている受講生が多く、私語はほとんどない状態であった。
 会計基準等の原文にあまり目を通さず、講義資料のみで学習しようとする傾向が少なからず見受けられた。
 定期的に行った小テストでは、文章表現力に問題はあるものの、内容的に質の高い答案が多く、講義内容を理解できている様子であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

パワーポイントを利用した講義を展開し、考え方の手順を分かりやすくスライド形式で示した。
 暗記よりも理解させることに力点を置き、高レベルの問題に対処できるような基礎力の養成を心がけた。
 会計基準等の原文にできるだけ忠実な説明を心がけ、受講生に原文を見るように促した。
 現在基準の概要を説明するだけでなく、歴史的な論争があったことを示し、現行基準に対する理解が深まるようにした。
 コンバージェンスの観点から現行基準の改定動向を示し、さらに、その将来的な展望を考察することで、受講生の興味関心を高めるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
 この講義科目に対して、さらに興味関心が高まるような工夫を凝らしていく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
 この講義科目に対して、さらに興味関心が高まるような工夫を凝らしていく。
 コンバージェンスの観点から現行基準の改定動向に注視し、受講生に最新の講義内容を提供していく。

科目: 金融商品会計論

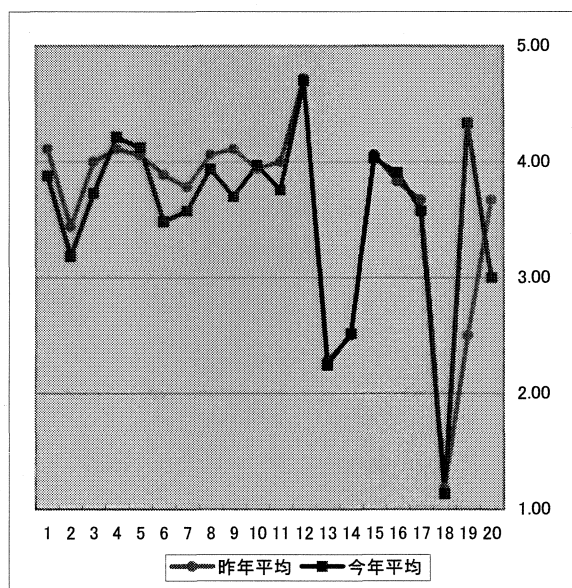
配当年次 2

開講時限 月3

受講者数 35

回答者数 33

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.11	3.88	4	5	1
2	3.44	3.18	3	5	1
3	4.00	3.73	4	5	1
4	4.11	4.21	4	5	1
5	4.06	4.12	5	5	1
6	3.89	3.48	3	5	1
7	3.78	3.58	4	5	1
8	4.06	3.94	5	5	1
9	4.11	3.70	3	5	1
10	3.94	3.97	4・5	5	1
11	4.00	3.76	4	5	1
12	4.72	4.70	5	5	1
13	2.28	2.24	2	5	1
14	2.50	2.52	3	4	1
15	4.06	4.03	5	5	1
16	3.83	3.91	5	5	1
17	3.67	3.58	5	5	1
18	1.18	1.13	1	2	1
19	2.50	4.33	4	5	4
20	3.67	3.00	4	4	1
回答者数	18	33			



受講生の傾向

前年度比較でいうと、教員評価に係る項目(1から11と15から17)の5項目で評価が上がり他は下がったが、全体としての変化は軽微であった。

学生自身の評価を見ると、非常に出席率が高いがそれほど予習復習に時間をかけていないという傾向に変化はなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計学の基礎を終えている学生なので、特に論述能力が高まるようにレポート等を出すなどして作業を増やした。
また、計算問題に関しては、実務指針に沿って理解力を高めるように工夫した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

やや授業の進度が速いという感想をもたれていたため、やや速度を落とし理解力を高めるように工夫した。
しかし全体としての評価はほぼ同じであった。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

よりいっそう進度を落として、講義中に考える時間を増やすことを試みる。

一般的傾向であるが、あとは自分でできるだろうという考えで諸資料を提供しても、復習しないようであるので、この点を重視して工夫する必要がある。

科 目:企業価値計算論

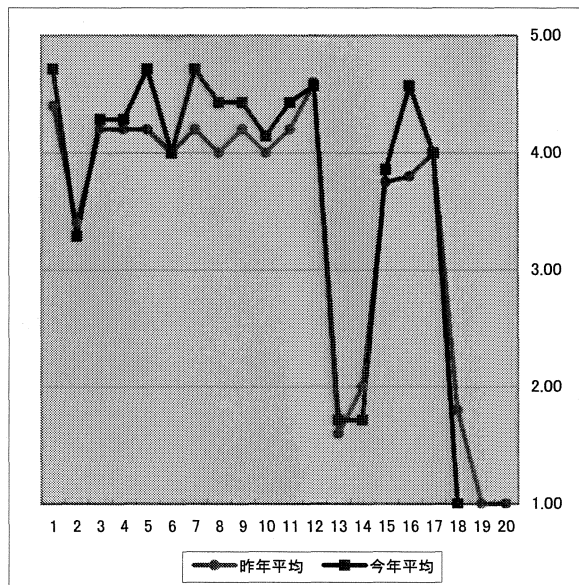
配当年次 2

受講者数 8

開講時限 火4

回答者数 7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.71	5	5	4
2	3.40	3.29	3	4	3
3	4.20	4.29	4	5	4
4	4.20	4.29	4・5	5	3
5	4.20	4.71	5	5	4
6	4.00	4.00	4	5	3
7	4.20	4.71	5	5	4
8	4.00	4.43	4	5	4
9	4.20	4.43	5	5	3
10	4.00	4.14	4	5	3
11	4.20	4.43	4	5	4
12	4.60	4.57	5	5	4
13	1.60	1.71	1	3	1
14	2.00	1.71	1・2	3	1
15	3.75	3.86	4	5	3
16	3.80	4.57	5	5	4
17	4.00	4.00	4	5	3
18	1.80	1.00	1	1	1
19	1.00	0.00	0	0	0
20	1.00	0.00	0	0	0
回答者数	5	7			



受講生の傾向

ほとんどの学生が熱心に受講していた。

課題報告では、全体的に消極的で学生間のディスカッションに至ることは多くなかった。

予習・復習のための時間をあまりとらないようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と同様に

学生が講義に集中できるよう、講義中の表示資料のハンドアウトは、講義終了時に配布した。

具体的な事例を多く紹介することで、学生のイメージを深め、学生の理解に努めた。

課題の内容を、自ら考えて自ら構築しなければならない内容を中心にした。

加えて、学生が消極的にならないよう、数式のみによる説明を取りやめることとした。

また、今回の講義内容やポイントをアナウンスすることで、全体の中での位置づけを明確にした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

講義内容への関心度に反して、学生の予習・復習の時間が少なく、

具体的な事例を紹介するだけでなく、学生も事前に調べてくるような課題設定を講じる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、予習を兼ねて、学生が事前に調べてこられるような課題設定を検討し実施する。

科 目: 非営利会計論

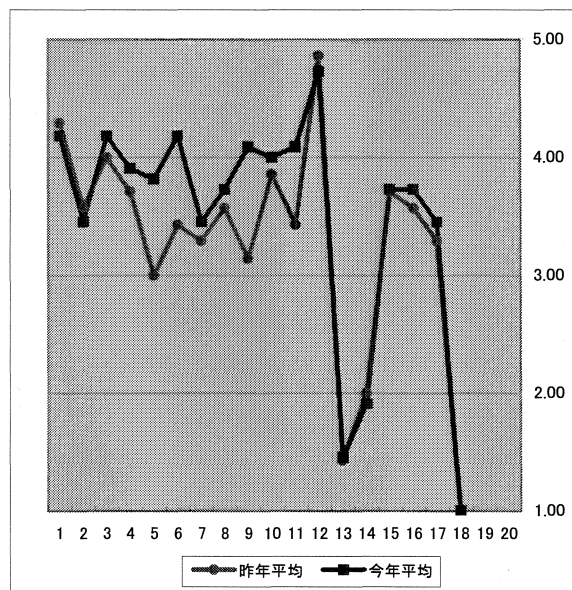
配当年次 2

受講者数 12

開講時限 火3

回答者数 11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.29	4.18	4	5	3
2	3.57	3.45	3	4	3
3	4.00	4.18	4	5	3
4	3.71	3.91	4	5	2
5	3.00	3.82	3	5	3
6	3.43	4.18	5	5	3
7	3.29	3.45	3	5	2
8	3.57	3.73	3	5	3
9	3.14	4.09	4・5	5	3
10	3.86	4.00	4	5	3
11	3.43	4.09	5	5	2
12	4.86	4.73	5	5	4
13	1.43	1.45	1	2	1
14	2.00	1.91	1・2	3	1
15	3.71	3.73	4	5	1
16	3.57	3.73	4	5	1
17	3.29	3.45	4	5	1
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	7	11			



受講生の傾向

前年度に公会計を受講する等、基礎的な知識を持っている者が何人かいて前向きな姿勢が見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義の速度を受講生の理解度を見ながらゆっくりしたペースにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

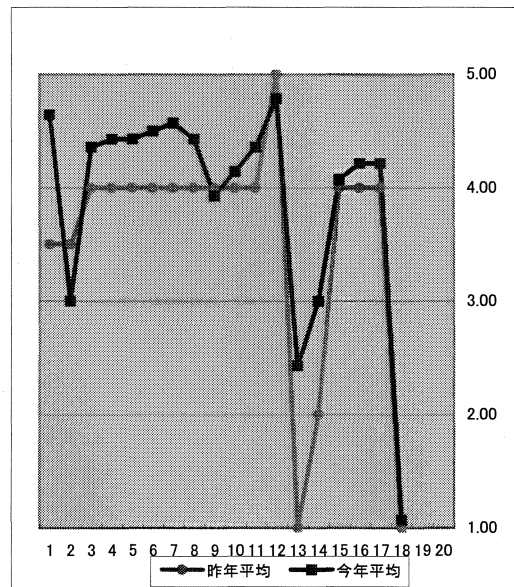
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

内容的にさらにブラッシュアップするとともに、分かりやすい授業にしよう心掛けたい。

科 目: 保証業務論
配当年次: 2
受講者数: 22

開講時限: 木2
回答者数: 14

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.50	4.64	5	5	3
2	3.50	3.00	3	5	2
3	4.00	4.36	4	5	3
4	4.00	4.43	5	5	3
5	4.00	4.43	5	5	3
6	4.00	4.50	5	5	3
7	4.00	4.57	5	5	3
8	4.00	4.43	5	5	3
9	4.00	3.93	3	5	3
10	4.00	4.14	4	5	2
11	4.00	4.36	5	5	3
12	5.00	4.79	5	5	4
13	1.00	2.43	5	5	1
14	2.00	3.00	3	5	1
15	4.00	4.07	4	5	2
16	4.00	4.21	4	5	3
17	4.00	4.21	4	5	3
18	1.00	1.07	1	2	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	2	14			



受講生の傾向

本科目は、基本科目の「監査制度論」と発展科目の「監査実施論」「監査報告論」を履修した学生を前提に配置された応用科目であり、監査に対するモラルの高い学生が集まっており、出席率は約90%である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義では、わが国の保証業務に関する基準の他、アメリカの基準及び国際監査基準に基づいた保証業務の枠組みや内容を理解することを目的として前半は座学による講義スタイルを採り、後半は、前半においてなされたはずの保証業務に関する理解度を確認するため、受講生自らが想定する「保証業務に関する提案書」を作成させ、それをパワーポイント及び提案書の形で、他の受講生に対してプレゼンテーションをさせて当該保証業務の魅力を説かせるようにした。他の受講生には、当該受講生が行なったプレゼンテーションと提案書の内容について、5点スケールで幾つかの項目ごとに評価させた。

この際の評価方法が直感や単なる印象に終わらないように、予め6つの項目(情報収集の程度や情報分析の程度等)について個別に評価させるとともに、報告者のプレゼンについて修正すべき内容を自由記述させた。報告者には、事後的に当該修正すべき内容のリストを手渡し、将来におけるプレゼン能力の向上を期待した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

本科目の講義スタイルであれば、前半における保証業務の枠組みや内容に関する理解度が完全になされていない者の場合、後半における保証業務の提案書の精緻さや説得力に反映されない。従って、前半における座学による講義スタイルの段階で、一定の教育効果を確認するための小テストないしは質疑応答を導入する必要があるかもしれない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度の経験を踏まえ、今年度は講義時間中に質疑応答を入れるように試みた。この結果、学生のモラルは相対的に向上したため、今後もこのような方法を継続することにしたい。

科 目:システム監査論

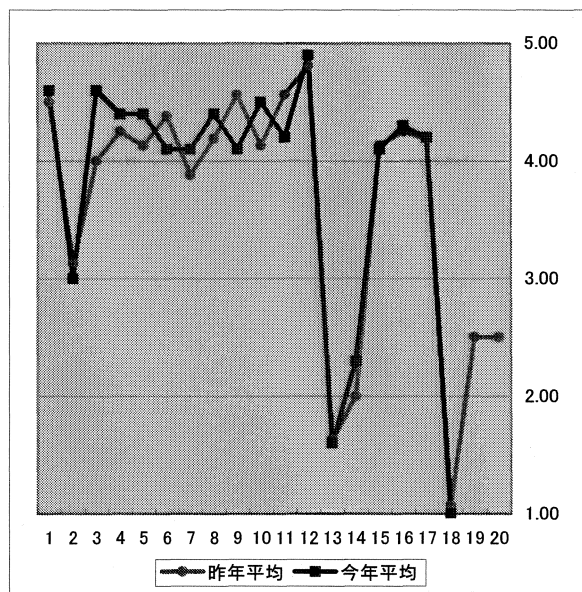
配当年次 2

開講時限 金1

受講者数 14

回答者数 10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.60	5	5	4
2	3.13	3.00	3	3	3
3	4.00	4.60	5	5	4
4	4.25	4.40	4	5	4
5	4.13	4.40	4	5	4
6	4.38	4.10	4	5	3
7	3.88	4.10	4	5	3
8	4.19	4.40	5	5	3
9	4.56	4.10	4	5	3
10	4.13	4.50	4・5	5	4
11	4.56	4.20	4	5	3
12	4.81	4.90	5	5	4
13	1.63	1.60	1	3	1
14	2.00	2.30	2	3	1
15	4.13	4.10	4	5	3
16	4.25	4.30	4	5	4
17	4.19	4.20	4	5	3
18	1.07	1.00	1	1	1
19	2.50	0.00	0	0	0
20	2.50	0.00	0	0	0
回答者数	16	10			



受講生の傾向

システムと監査の両者に興味のある学生が多く、非常に熱心であった。
ただし、システムに関する知識は十分ではない学生がいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

システム監査と通常の監査の違い等を十分に理解させるとともに、将来、当該分野で競争優位を有するための考え方等を講義に加えるとともに、システムに関する知識が十分でない学生にも理解できるように図や考え方、例等を準備した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

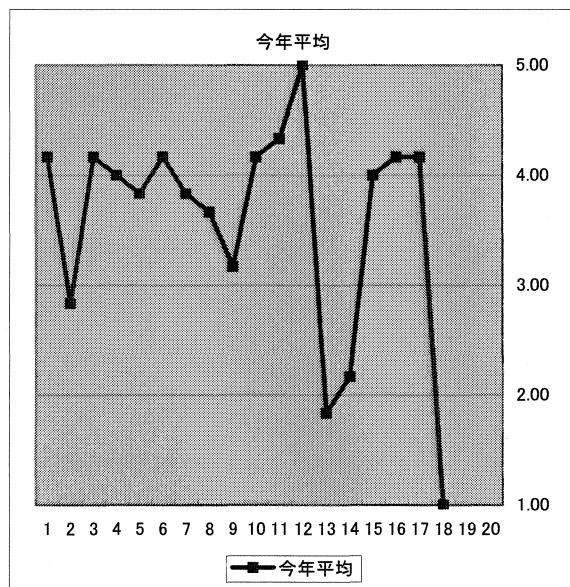
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

システム監査論は、今回で最後である。ただし、今回の授業評価等を他の担当授業にも生かすべく工夫をする。

科 目:組織再編論
配当年次 2
受講者数 11

開講時限 土2
回答者数 6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.17	4	5	4
2	-	2.83	3	3	1
3	-	4.17	4	5	4
4	-	4.00	4	4	4
5	-	3.83	4	4	3
6	-	4.17	4	5	4
7	-	3.83	4	4	3
8	-	3.67	4	4	3
9	-	3.17	3	4	3
10	-	4.17	4	5	3
11	-	4.33	4	5	4
12	-	5.00	5	5	5
13	-	1.83	1	4	1
14	-	2.17	1・2	4	1
15	-	4.00	4	4	4
16	-	4.17	4	5	4
17	-	4.17	4	5	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	6			



受講生の傾向

講義を理解しようという前向きな態度で授業に臨んでいる学生が多かった。
組織再編の実際に意味することについては実感が伴わない様子も見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

事例のわかり易さに配慮した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

理解可能な事例の提示が必要。

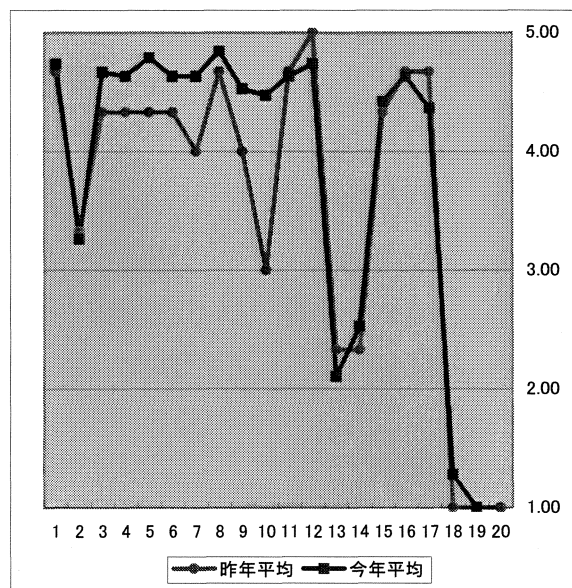
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

これまでの対応をより精緻化することがよいと思われる。

科目: 公開戦略論
配当年次 2
受講者数 22

開講時限 水3
回答者数 19

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.74	5	5	4
2	3.33	3.26	3	5	3
3	4.33	4.67	5	5	3
4	4.33	4.63	5	5	3
5	4.33	4.79	5	5	4
6	4.33	4.63	5	5	4
7	4.00	4.63	5	5	3
8	4.67	4.84	5	5	4
9	4.00	4.53	5	5	3
10	3.00	4.47	5	5	3
11	4.67	4.63	5	5	4
12	5.00	4.74	5	5	3
13	2.33	2.11	1	5	1
14	2.33	2.53	3	5	1
15	4.33	4.42	5	5	2
16	4.67	4.63	5	5	3
17	4.67	4.37	4	5	3
18	1.00	1.28	1	5	1
19	1.00	1.00	1	1	1
20	1.00	0.00	0	0	0
回答者数	3	19			



受講生の傾向

- 1) 出席率は非常に高かった。ただし、数人は出席しているが寝ているという状態であった。
- 2) 課題については多くがまじめに整理し提出していた。
- 3) 質疑に参加する受講生が数人に限られていた。
- 4) 課題について、フィードバックを行ったことについては、分かりやすいという評価があった。
- 5) 公開制度そのものについては、理解されたと考えている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- 1) 公開制度が大きく変わっているため、最新の動きを反映させることを重視した。
- 2) 昨年と比較して課題の数を増やし、より講義への参加意識を高めるようにした。
- 3) 公開制度自体は変わることがあるが、基本的な制度の論理を理解させることに重点を置いた。
- 4) 現実への興味を持たせるため、MBOなど最近の話題も適宜ケースとして織り込んだ。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

- 1) 課題を通じて予習を行うようなプログラム(今期は一部)にしていくことで、参加意識を高める。
- 2) 制度自体がこの数ヶ月でもかなり変わっているため、具体的な内容の見直しが必要である。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科目: 企業経済学

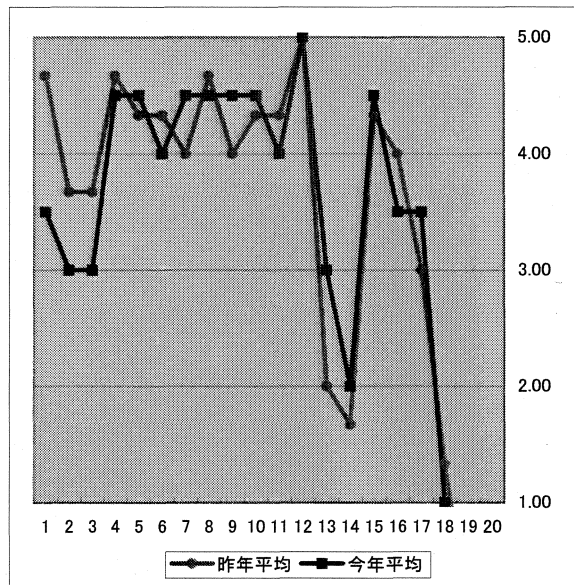
配当年次 2

開講時限 土4

受講者数 3

回答者数 2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	3.50	3・4	4	3
2	3.67	3.00	3	3	3
3	3.67	3.00	3	3	3
4	4.67	4.50	4・5	5	4
5	4.33	4.50	4・5	5	4
6	4.33	4.00	3・5	5	3
7	4.00	4.50	4・5	5	4
8	4.67	4.50	4・5	5	4
9	4.00	4.50	4・5	5	4
10	4.33	4.50	4・5	5	4
11	4.33	4.00	3・5	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.00	3.00	3	3	3
14	1.67	2.00	2	2	2
15	4.33	4.50	4・5	5	4
16	4.00	3.50	3・4	4	3
17	3.00	3.50	3・4	4	3
18	1.33	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	3	2			



受講生の傾向

企業経済学は基本的には「ミクロ経済学の企業の理論」と類似している科目であるので、経済学、特に「ミクロ経済学」に関心のある院生が大勢受講した。受講生の院生諸君は、経済学の基礎知識も十分もっており、優秀で熱心な学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

以前の講義形式から、ゼミ形式の授業に変更した。そして、院生諸君に事前に十分な予習をさせ、それをレポートの形で提出させ、そのレポートを全員の前で発表させる授業にした。その発表に関して全員で討議し、さらに私が最後に丁寧に解説をするようにした。その結果、院生諸君の理解度が非常に深まったと思っている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

「企業経済学」の講義は平成21年度からなくなり、ミクロ経済学の講義の中に一部となるので、「ミクロ経済学」の講義の中で企業の経済学を、図などを用いて丁寧に講義することとする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

Ⅲ. 20 年度秋学期 授業評価アンケート結果概要

科目: 会計専門職業倫理

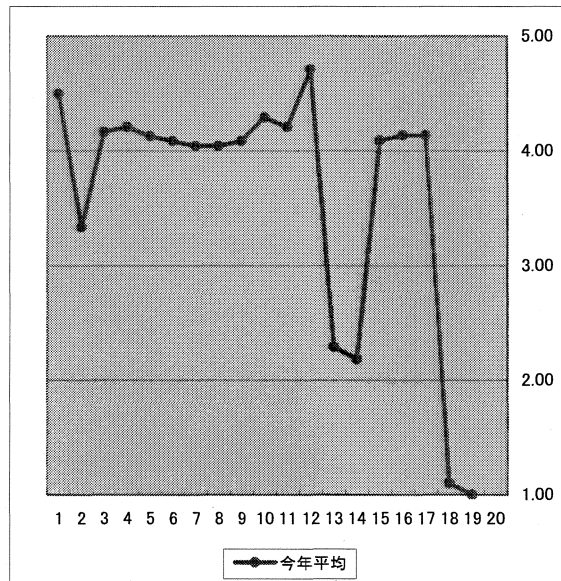
配当年次: 2年次

受講者数: 34

開講時限: 金3

回答者数: 25

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.50	5	5	1
2	-	3.33	3	5	3
3	-	4.17	4	5	2
4	-	4.21	5	5	1
5	-	4.13	5	5	1
6	-	4.08	4	5	1
7	-	4.04	4・5	5	1
8	-	4.04	4・5	5	1
9	-	4.08	5	5	2
10	-	4.29	5	5	2
11	-	4.21	5	5	1
12	-	4.71	5	5	2
13	-	2.29	2	5	1
14	-	2.18	2	5	1
15	-	4.09	5	5	1
16	-	4.14	4・5	5	1
17	-	4.14	4	5	1
18	-	1.10	1	2	1
19	-	1.00	1	1	1
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	25			



受講生の傾向

会計士としての職業倫理に興味のある受講生が多かったこともあり講義の内容はそれとマッチしているものと評価されていると考える。

就職活動でやむを得ず欠席する者もいたが、抜けた分を取り戻す前向きな姿勢が見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

予習・復習の有無、答練については点数が低いのが、授業の特質上当然のことだと認識している。内容的に充実させる試みを行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

ディスカッションに加え、発表等も班単位で行うようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

班単位の発表等を取り入れたのは良かったと思う。同じ方法を引き続き採用したい。

科目: 会計基準論

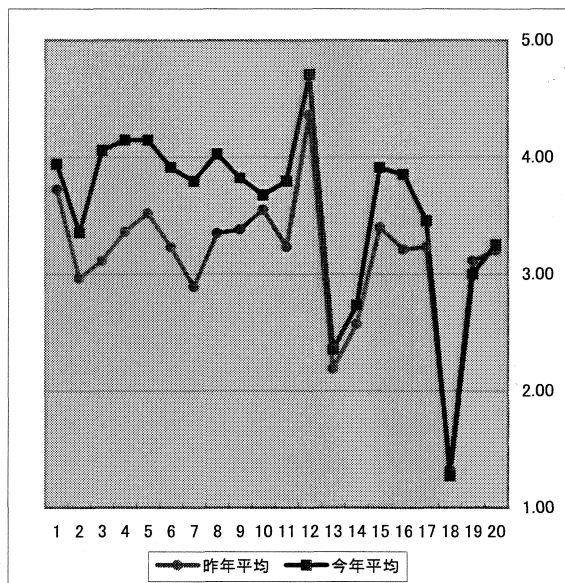
配当年次: 1年次

受講者数: 72

開講時限: 金4

回答者数: 34

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.72	3.94	4	5	2
2	2.96	3.35	3	5	3
3	3.11	4.06	4	5	1
4	3.36	4.15	4	5	1
5	3.52	4.15	5	5	1
6	3.23	3.91	4	5	1
7	2.89	3.79	4	5	1
8	3.35	4.03	4	5	2
9	3.38	3.82	4	5	1
10	3.55	3.68	4	5	2
11	3.23	3.79	4	5	1
12	4.36	4.71	5	5	3
13	2.19	2.35	2	5	1
14	2.57	2.74	3	5	1
15	3.40	3.91	4	5	1
16	3.21	3.85	4	5	1
17	3.23	3.45	4	5	1
18	1.33	1.27	1	5	1
19	3.11	3.00	1・3・5	5	1
20	3.20	3.25	3	5	1
回答者数	54	34			



受講生の傾向

前年度比較でいうと、教員評価に係る項目(1から11と15から17)の2を除くすべての項目に関して評価点が上がった。

項目2が高いと授業進度が速すぎ他の項目を下げる傾向にあるが、そのマイナス影響は出ていない。

学生自身の評価を見ると、非常に出席率が高いがそれほど予習復習に時間をかけていないという傾向に変化はなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

最大の変化は担当者が変わったということであった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

担当者が変わっているので昨年度対比ができない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の方針が評価されたようであるからこれを維持することに努力する。

科目: 特殊簿記

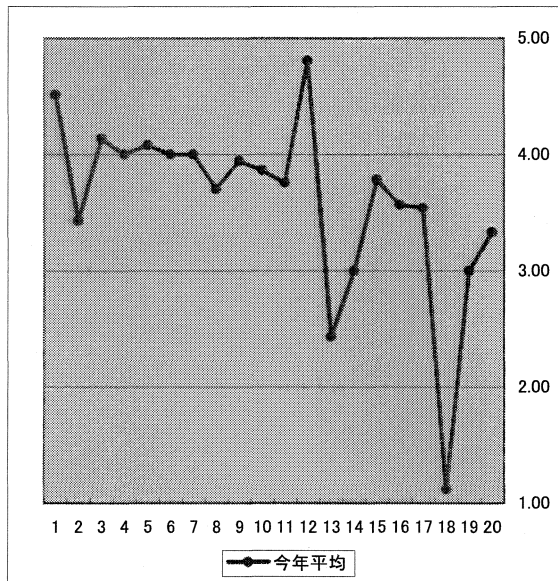
配当年次: 1年次

受講者数: 58

開講時限: 水2

回答者数: 37

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.51	5	5	2
2	-	3.43	3	5	2
3	-	4.14	4	5	2
4	-	4.00	4	5	1
5	-	4.08	4	5	1
6	-	4.00	4	5	2
7	-	4.00	4	5	1
8	-	3.70	4	5	1
9	-	3.95	4	5	1
10	-	3.86	4	5	2
11	-	3.76	4	5	1
12	-	4.81	5	5	3
13	-	2.43	1	5	1
14	-	3.00	3	5	1
15	-	3.78	4	5	1
16	-	3.57	4	5	1
17	-	3.54	4	5	1
18	-	1.12	1	2	1
19	-	3.00	3	3	3
20	-	3.33	4	4	2
回答者数	-	37			



受講生の傾向

講義時間の開始時には、ほぼ全員が着席している状態で、遅参者は少なかった。

教員の説明に真面目に耳を傾けたり、講義内容を熱心にメモしている受講生が多く、私語はほとんどない状態だった。

問題演習の時間には、退屈気味にする受講生も見られたが、ほぼ全員が真剣に取り組んでいた。

仕訳の意味を十分に理解しないまま、個々の仕訳を合算・相殺したものだけをテクニク的に覚えようとする傾向があった。

そのため、試験の結果を分析してみると、仕訳を分解して解答させる問題の正答率は、それほど高くなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

パワーポイントとオリジナル問題を講義資料として配布し、これを中心とした講義を展開した。

講義資料は、会計処理の考え方と計算過程を詳しく示し、計算には丁寧な解説を付すなど、受講生の理解を促すことを念頭において作成した。

暗記よりも理解させることに力点を置き、高レベルの問題に対処できるような基礎力の養成を心がけた。

ボリュームのある講義内容は分割して論点を限定し、問題演習の時間をより多く確保した。

問題演習の時間に受講生の質問を受け付け、個々の理解度に応じてその場で疑問を解消できるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計基準等の原文や講義資料の解説をよく読んで内容をしっかりと理解し、基礎力を確かなものとするように指導していく。

計算の方法や仕訳の意味を十分に理解して問題を解き、財務諸表の作成につなげていくように指導していく。

科 目：戦略管理会計論

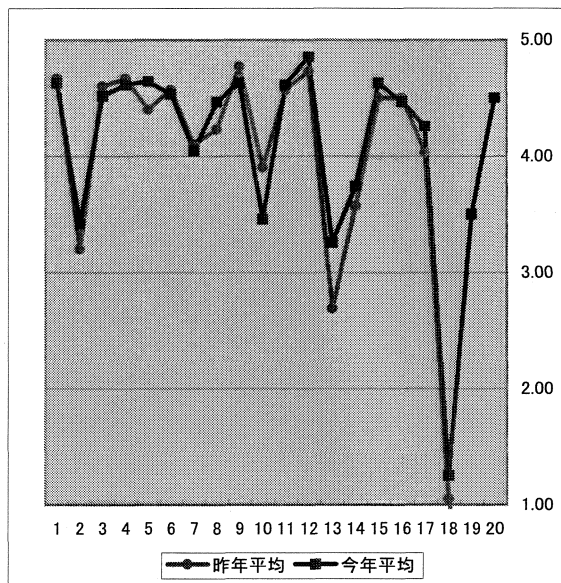
配当年次：1年次

受講者数：89

開講時限：月3

回答者数：63

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.63	5	5	1
2	3.20	3.42	3	5	2
3	4.60	4.52	5	5	2
4	4.67	4.61	5	5	3
5	4.40	4.65	5	5	4
6	4.57	4.53	5	5	2
7	4.10	4.05	4	5	2
8	4.23	4.47	5	5	3
9	4.77	4.63	5	5	2
10	3.90	3.46	5	5	1
11	4.57	4.61	5	5	3
12	4.73	4.85	5	5	3
13	2.69	3.26	5	5	1
14	3.57	3.74	5	5	1
15	4.50	4.63	5	5	2
16	4.50	4.47	5	5	2
17	4.03	4.26	4	5	2
18	1.05	1.25	1	5	1
19	0.00	3.50	3	5	1
20	0.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	30	63			



受講生の傾向

学生数が昨年の倍になったため進捗状況でばらつきが大きくなった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

状況に合わせて次のように工夫した。

- ①講義形式に重点を置いた
- ②質問については講義後に対応した

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生数などの状況に応じてこれからも対応していきたい。

科目: 公会計理論

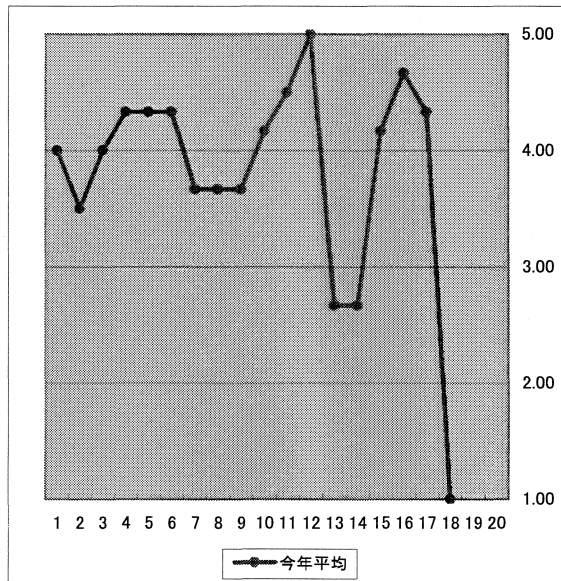
配当年次: 1年次

受講者数: 8

開講時限: 月3

回答者数: 6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.00	3・4・5	5	3
2	-	3.50	3・4	4	3
3	-	4.00	4	5	3
4	-	4.33	5	5	3
5	-	4.33	4	5	4
6	-	4.33	4	5	4
7	-	3.67	3	5	3
8	-	3.67	3	5	3
9	-	3.67	3	5	3
10	-	4.17	4	5	3
11	-	4.50	4・5	5	4
12	-	5.00	5	5	5
13	-	2.67	1	5	1
14	-	2.67	1	5	1
15	-	4.17	4	5	3
16	-	4.67	5	5	4
17	-	4.33	4	5	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	6			



受講生の傾向

今年度初の科目である。教員評価に係る項目(1から11と15から17)の2を除くすべての項目に関して高い評価であった。

項目2が高いと授業進度が速すぎ他の項目を下げる傾向にあるが、そのマイナス影響は出ていない。

学生自身の評価を見ると、すべての講義に出席しているがそれほど予習復習に時間をかけていないという傾向がみられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

少人数なので、プレゼンテーションの機会を増やし、討論も活発に行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科目の性質上、多くの受講生があるとは思えないので、少人数のメリットを生かした授業を行うこととする。

科目: 中級会社法

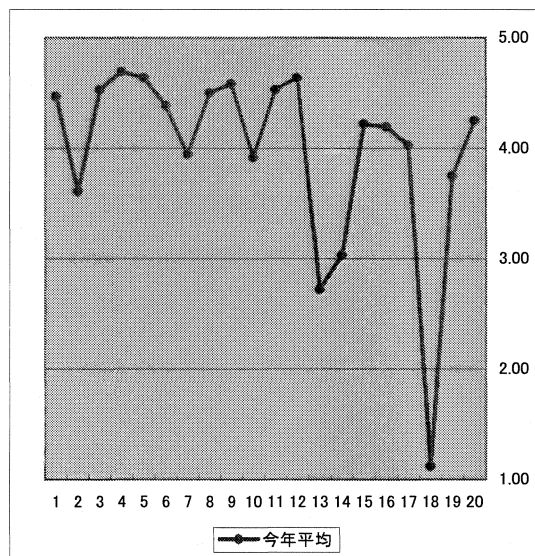
配当年次: 1年次

受講者数: 46

開講時限: 木2

回答者数: 37

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.47	5	5	2
2	-	3.61	3	5	3
3	-	4.53	5	5	3
4	-	4.69	5	5	4
5	-	4.64	5	5	3
6	-	4.39	5	5	1
7	-	3.94	5	5	1
8	-	4.50	5	5	3
9	-	4.58	5	5	4
10	-	3.92	4	5	2
11	-	4.53	5	5	1
12	-	4.64	5	5	3
13	-	2.72	2	5	1
14	-	3.03	3	5	1
15	-	4.22	5	5	1
16	-	4.19	5	5	2
17	-	4.03	4	5	1
18	-	1.12	1	2	1
19	-	3.75	4	4	3
20	-	4.25	4	5	4
回答者数	-	37			



受講生の傾向

基本科目である企業法と異なり、会社法に強い関心のある学生が受講している。

2008年度から会社法が上級と中級に分かれたことから、ややゆっくりと進めることができたが、まだ早いと感じている学生が多い。

また、授業に関する予習復習が少し足りないと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業が早くについてこれない学生が多かったので、少しスピードを下げた。

その反面、応用的な範囲や詳細な点は上級会社法にゆだねることとなった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習と復習を促進させるような授業にしたい。

より多くの学生が授業についてくることのできるような工夫をしたい。

科目: 実践経営管理論

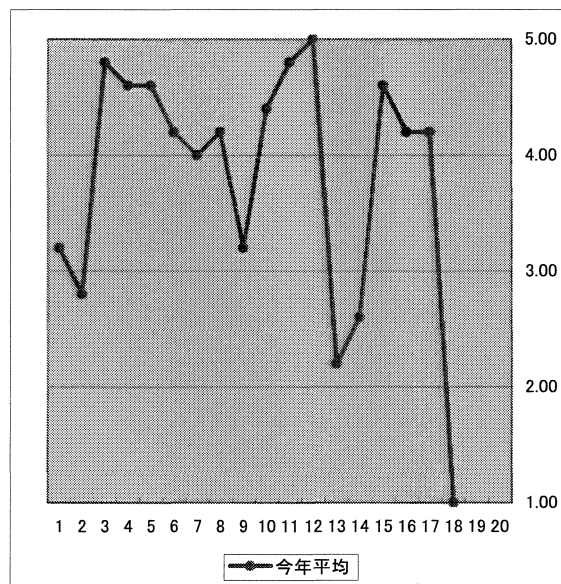
配当年次: 1年次

受講者数: 7

開講時限: 土2

回答者数: 5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	3.20	5	5	2
2	-	2.80	3	3	2
3	-	4.80	5	5	4
4	-	4.60	5	5	4
5	-	4.60	5	5	4
6	-	4.20	4	5	4
7	-	4.00	4	5	3
8	-	4.20	4・5	5	3
9	-	3.20	3	5	3
10	-	4.40	5	5	3
11	-	4.80	5	5	4
12	-	5.00	5	5	5
13	-	2.20	2・3	3	1
14	-	2.60	3	3	2
15	-	4.60	5	5	4
16	-	4.20	4	5	4
17	-	4.20	4	5	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	5			



受講生の傾向

経営に関心を持つ学生が中心となり、学ぶ意欲は高かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

世の中で実際に起きている現象を題材に、各自が考える時間を取るようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

知識レベルに差がある受講者を対象とした資料作成を心がける。

より能動的な授業にするために、Q&Aの時間をもう少し増やす。

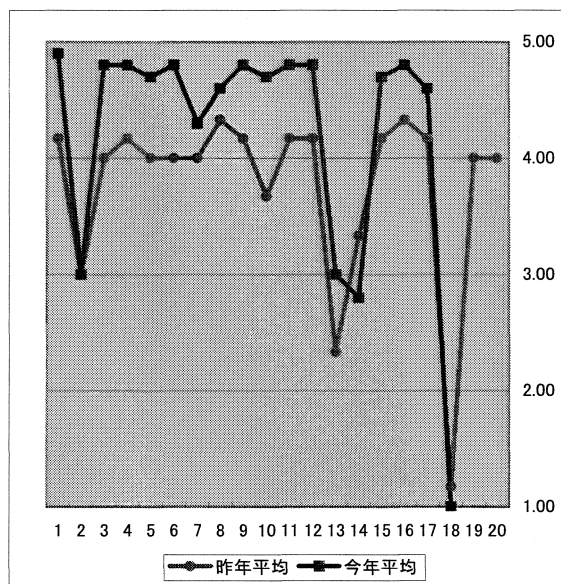
講義内容の定着を図るための課題提出を实践する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

一般的な理論の修得と、現実には起きていることの関連を理解させることが肝要と思われる。

科目: コーポレート・ファイナンス論
 配当年次: 1年次 開講時限: 水1
 受講者数: 20 回答者数: 10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.17	4.90	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.00	4.80	5	5	4
4	4.17	4.80	5	5	4
5	4.00	4.70	5	5	4
6	4.00	4.80	5	5	4
7	4.00	4.30	5	5	3
8	4.33	4.60	5	5	3
9	4.17	4.80	5	5	4
10	3.67	4.70	5	5	4
11	4.17	4.80	5	5	4
12	4.17	4.80	5	5	4
13	2.33	3.00	2・3	5	2
14	3.33	2.80	3	5	2
15	4.17	4.70	5	5	4
16	4.33	4.80	5	5	4
17	4.17	4.60	5	5	3
18	1.17	1.00	1	1	1
19	4.00	0.00	0	0	0
20	4.00	0.00	0	0	0
回答者数	6	10			



受講生の傾向

- 1) 講義に出席する人数は限られていた。
- 2) 常時出席している受講生は、質の良い課題レポートを提出、討議に積極的に参加していた。
- 3) IRの内容と実務上の論点の理解はなされたと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- 1) 課題レポートの回数を増加させ、自分で考える機会を増やした。
- 2) ケースを通じて、各人が極力発言するよう工夫した。
- 3) コーポレート・ファイナンス理論の復習という側面も重視した。
- 4) 取り上げる事例については、結果的に昨年度と大きくは変化なかった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

- 1) 課題レポートの頻度を増加させる。
- 2) 現実の事例を取り入れて受講生の興味を高める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科目: ミクロ経済学

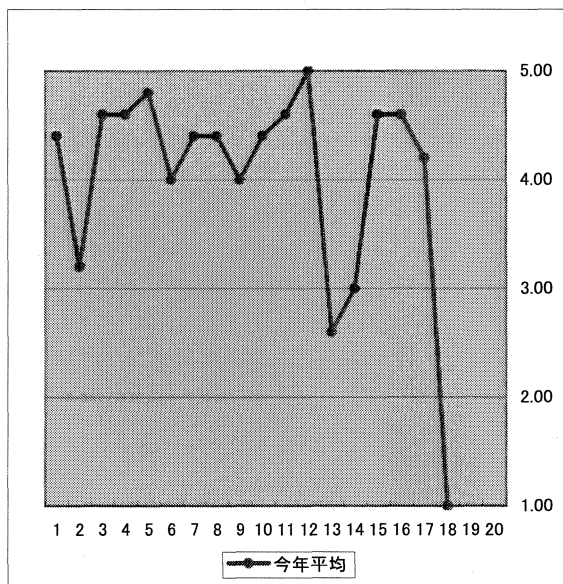
配当年次: 1年次

受講者数: 14

開講時限: 土2

回答者数: 5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.40	4	5	4
2	-	3.20	3・4	4	2
3	-	4.60	5	5	4
4	-	4.60	5	5	4
5	-	4.80	5	5	4
6	-	4.00	4	5	3
7	-	4.40	4	5	4
8	-	4.40	4	5	4
9	-	4.00	4	5	3
10	-	4.40	4	5	4
11	-	4.60	5	5	4
12	-	5.00	5	5	5
13	-	2.60	3	4	1
14	-	3.00	3	4	2
15	-	4.60	5	5	4
16	-	4.60	5	5	4
17	-	4.20	4・5	5	3
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数		5			



受講生の傾向

ミクロ経済学は、マクロ経済学と並んで経済学の基本であるので、経済学を勉強する院生にとっては必須の科目である。したがって、受講している院生は非常に真面目で熱心である。受講生全員勉学意欲は高く、公認会計士を目指す院生はもちろんのこと、国家公務員、地方公務員、国税官などを目指す院生も熱心に受講している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度のアンケート結果から、講義の時はよく分かったが、練習問題になると難しくて分かりにくい点があったと言う院生がいたので、今回の授業では宿題や練習問題を増やし、それらを時間をかけて丁寧に説明、解説するように努めた。そして、数式を用いることよりも視覚にうったえるために図を用いて、分かりやすく解説した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

昨年度は院生の理解を高めるために、宿題、練習問題を増やし、分かりやすく解説することを今後の対応目標とした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

院生のミクロ経済学の基本的理解はかなりのレベルにあるので、今後は応用力を高めるために、宿題、練習問題を増やし、解説に時間をかける授業をすることにする。

科 目: 国際会計基準論

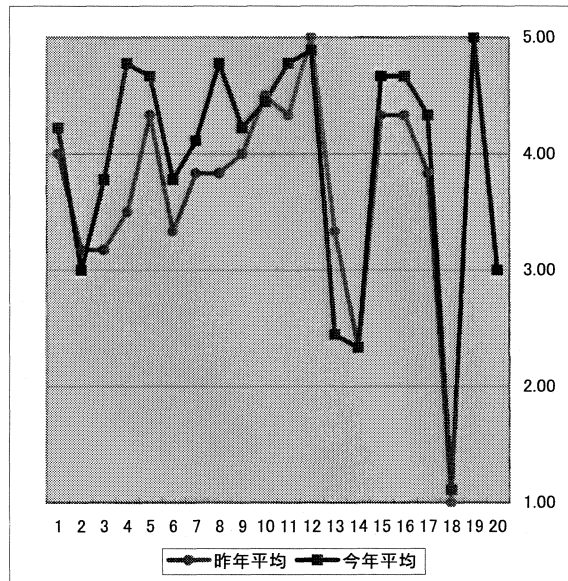
配当年次: 2年次

受講者数: 22

開講時限: 木3

回答者数: 9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.22	4	5	3
2	3.17	3.00	3	3	3
3	3.17	3.78	3	5	3
4	3.50	4.78	5	5	4
5	4.33	4.67	5	5	4
6	3.33	3.78	3	5	3
7	3.83	4.11	4	5	3
8	3.83	4.78	5	5	4
9	4.00	4.22	4	5	3
10	4.50	4.44	5	5	3
11	4.33	4.78	5	5	4
12	5.00	4.89	5	5	4
13	3.33	2.44	2	4	1
14	2.33	2.33	2	4	1
15	4.33	4.67	5	5	4
16	4.33	4.67	5	5	4
17	3.83	4.33	4	5	4
18	1.00	1.11	1	2	1
19	0.00	5.00	5	5	5
20	0.00	3.00	3	3	3
回答者数	7	9			



受講生の傾向

受講生の学習意欲は非常に強い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

問題意識を明確にさせるために、プレゼンテーション中心の対話形式で講義を展開した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

今後ともプレゼン中心の講義方式を踏襲する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後ともプレゼン中心の講義方式を踏襲する。

科目: 自治体会計論

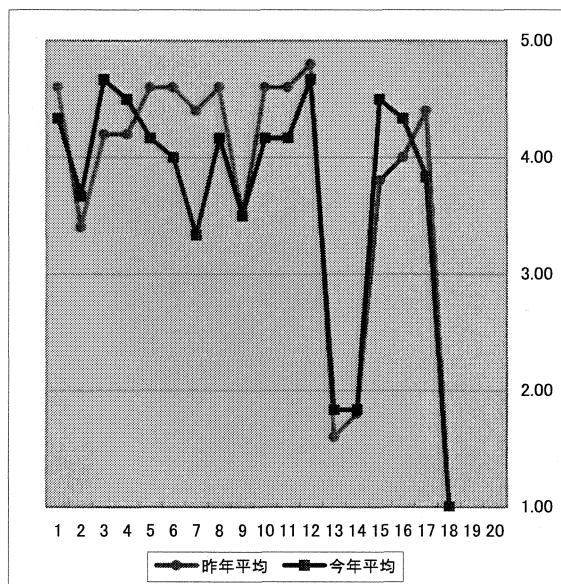
配当年次: 2年次

受講者数: 9

開講時限: 月4

回答者数: 6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	4.33	5	5	3
2	3.40	3.67	4	4	3
3	4.20	4.67	5	5	4
4	4.20	4.50	5	5	3
5	4.60	4.17	5	5	2
6	4.60	4.00	3・4・5	5	3
7	4.40	3.33	3	5	2
8	4.60	4.17	4	5	3
9	3.50	3.50	3・4	4	3
10	4.60	4.17	4	5	3
11	4.60	4.17	5	5	2
12	4.80	4.67	5	5	4
13	1.60	1.83	1	3	1
14	1.80	1.83	1	3	1
15	3.80	4.50	5	5	3
16	4.00	4.33	5	5	3
17	4.40	3.83	4・5	5	2
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	5	6			



受講生の傾向

講義内容はおおむね評価されていると考える。

板書の方法があまり評価されていない。

全体としての理解度が低いようである。

受講者の姿勢はあまり前向きでなかったように思うので、興味がもともとあまりないか、持てなかった可能性がある。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

トピック等を多く盛り込んだ。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

分かりやすく興味を持たせるように工夫する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

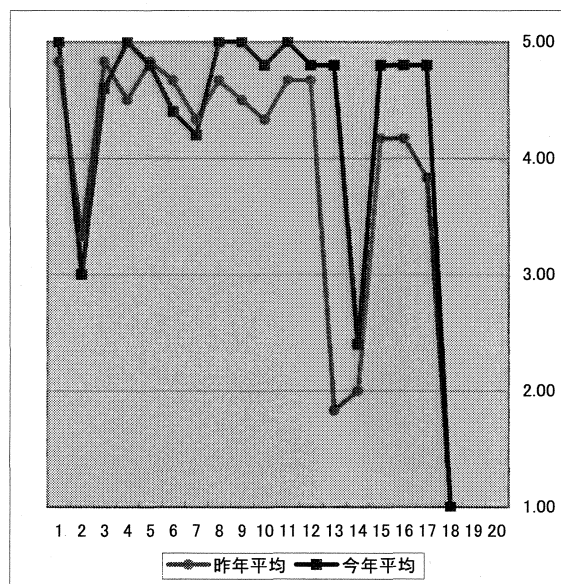
講義の方針は現状を継続する。

事例を多く盛り込む。

板書を分かりやすいように心がける。

科目：インベスター・リレーションズ論
 配当年次：2年次 開講時限：水3
 受講者数：14 回答者数：5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.83	5.00	5	5	5
2	3.33	3.00	3	3	3
3	4.83	4.60	5	5	4
4	4.50	5.00	5	5	5
5	4.83	4.80	5	5	4
6	4.67	4.40	4	5	4
7	4.33	4.20	4・5	5	3
8	4.67	5.00	5	5	5
9	4.50	5.00	5	5	5
10	4.33	4.80	5	5	4
11	4.67	5.00	5	5	5
12	4.67	4.80	5	5	4
13	1.83	4.80	5	5	4
14	2.00	2.40	1	5	1
15	4.17	4.80	5	5	4
16	4.17	4.80	5	5	4
17	3.83	4.80	5	5	4
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	6	5			



受講生の傾向

- 1) 出席率も高く、大半は講義にも集中していた。
- 2) 課題に対する提出率も高かった。
- 3) 全般的に講義の内容はよく理解していたと思われる。
- 4) 試験結果も良好であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- 1) 文章形式のレジメを事前に配布し、講義の理解度を高めるようにした。
- 2) ほぼ毎回課題を出し、各人へのフィードバックを行った。
- 3) 昨年以上に、理論・数式・図・数値例を併せて説明するようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

- 1) 予習用として、レジメを事前に配布する。
- 2) 課題を増やし、基本的な項目の復習を行わせる。
- 3) 理論、数式、図、数値例などを併せて総合的に理解させる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科目: 監査事例研究

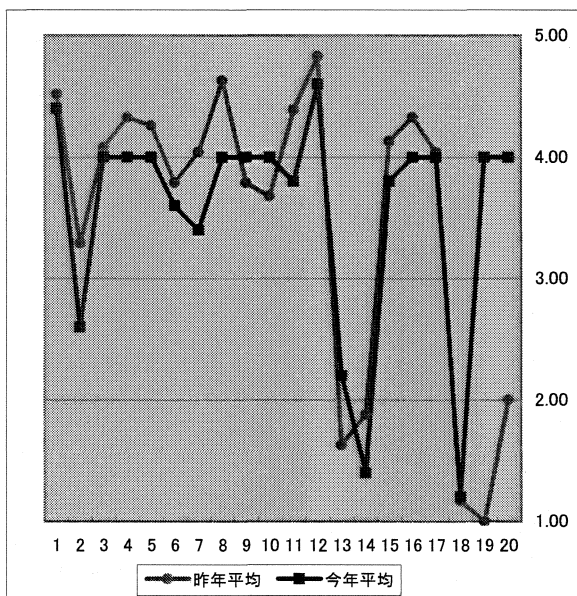
配当年次: 1年次

受講者数: 59

開講時限: 金3

回答者数: 5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.52	4.40	4	5	4
2	3.29	2.60	3	3	2
3	4.08	4.00	4	4	4
4	4.33	4.00	4	4	4
5	4.26	4.00	4	4	4
6	3.79	3.60	4	3	2
7	4.04	3.40	3	4	3
8	4.63	4.00	4	5	3
9	3.79	4.00	4	4	4
10	3.68	4.00	4	4	4
11	4.39	3.80	4	4	3
12	4.83	4.60	5	5	3
13	1.63	2.20	2・3	3	1
14	1.88	1.40	1	2	1
15	4.13	3.80	4	4	3
16	4.33	4.00	4	4	4
17	4.04	4.00	4	4	4
18	1.17	1.20	1	2	1
19	1.00	4.00	4	4	4
20	2.00	4.00	4	4	4
回答者数	24	5			



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は例年通り85%程度となっている。
 上記アンケート結果より、昨年度より回答者数が減少したため、分析精度として不十分なものであるが、その限りでは昨年度に比べると全体的に平均値が低下している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と比べて工夫したところはない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科目：基本会計プログラム演習

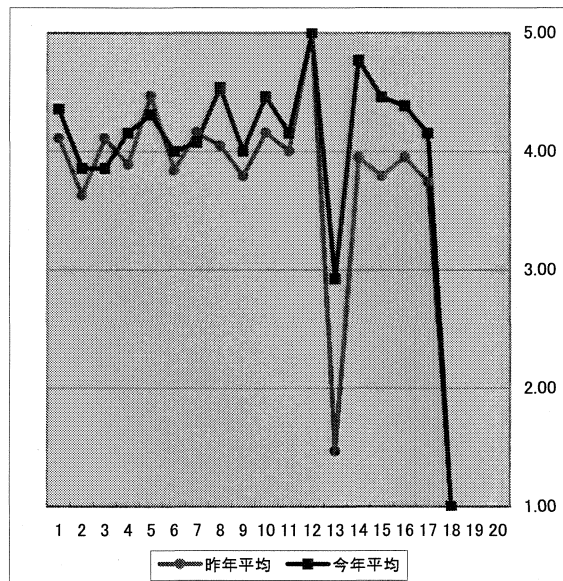
配当年次：1年次

開講時限：月4

受講者数：17

回答者数：14

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.11	4.36	5	5	3
2	3.63	3.86	4	5	3
3	4.11	3.86	4	5	2
4	3.89	4.15	4	5	1
5	4.47	4.31	4・5	5	2
6	3.84	4.00	4	5	2
7	4.16	4.08	5	5	1
8	4.05	4.54	5	5	4
9	3.79	4.00	4	5	3
10	4.16	4.46	4	5	4
11	4.00	4.15	5	5	1
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.47	2.92	1・5	5	1
14	3.95	4.77	5	5	3
15	3.79	4.46	5	5	3
16	3.95	4.38	5	5	3
17	3.74	4.15	4・5	5	3
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	19	14			



受講生の傾向

研究科の性質上、避けられないことではあるが、プログラミングに関する知識がまったくない学生が相当数いた。ソフトウェアの基本的な仕組みについて、理解を深めようと強く感じる学生とほぼあきらめている学生と両極に別れた。そのため、課題の提出率は非常に高いものの、課題の趣旨を理解してそれ以上の内容で課題を完成させる学生と理解が浅いまま課題提出をせざるを得ない学生とにわかれてしまっていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年に引き続き、学生の習熟度や理解度を認識するため、実習中の机間巡回を必ず行い、同時に、講義の進捗状況や予定されている講義の内容と目的を、頻回に説明した。

ソフトウェアのバージョンアップや動作不具合のため、講義を中断せざるを得ないことがあり、その際の講義の連続性、学生のやる気が維持されるように留意した。

プログラミングの知識のない学生がいることを踏まえ、学生たちの課題の作成にあたり、最低到達点、努力目標、発展レベルを明示し、評価ポイントを説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

予習用の教材が未だできていないため、鋭意、作成に努める。

コンピュータ・システムに関して初学者である学生用の段階的な課題を用意する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

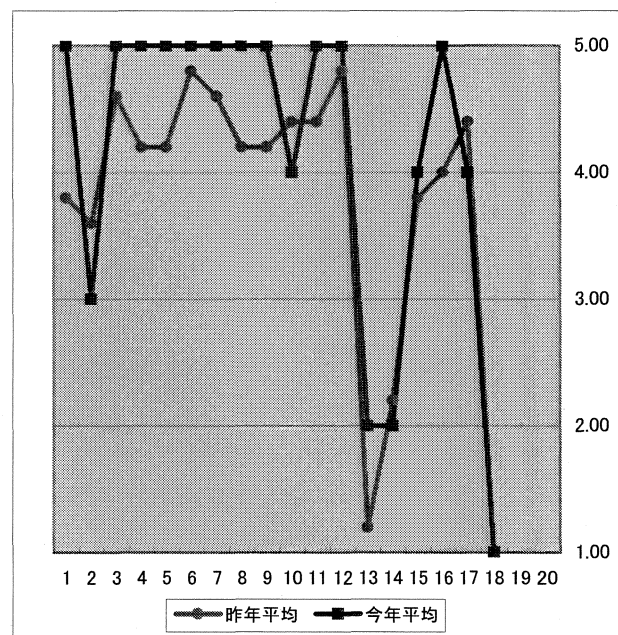
より学生にわかりやすい学習用教材の作成に努める。

学生のレベル差に応じて、課題の要完成レベルを説明するだけでなく、レベルに応じて選択できるような課題を用意する。

復習用の課題のレベルおよびボリュームの調整を行い、学生の学習により効率的なモノに改善する。

科 目：実践会計プログラム演習
 配当年次：2年次 開講時限：水2
 受講者数：4 回答者数：1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.80	5.00	5	5	5
2	3.60	3.00	3	3	3
3	4.60	5.00	5	5	5
4	4.20	5.00	5	5	5
5	4.20	5.00	5	5	5
6	4.80	5.00	5	5	5
7	4.60	5.00	5	5	5
8	4.20	5.00	5	5	5
9	4.20	5.00	5	5	5
10	4.40	4.00	4	4	4
11	4.40	5.00	5	5	5
12	4.80	5.00	5	5	5
13	1.20	2.00	2	2	2
14	2.20	2.00	2	2	2
15	3.80	4.00	4	4	4
16	4.00	5.00	5	5	5
17	4.40	4.00	4	4	4
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	5	1			



受講生の傾向

全員がほぼ100%の出席率であり、本研究科修了後のスキルを考えて受講しているようであった。
 実践的な会計ソフトウェアの習熟に熱心であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年作成した講義資料をよりわかりやすく、復習の時にわかりやすくなるように、改訂した。
 講義の性質上、具体的なコンピュータ・ディスプレイのハードコピーを教材に多用し、演習時間を多く設けた。
 また、受講人数が少ないため、全員が理解できるよう、講義進度を調整し、毎回その回以降の講義の予定とその趣旨を説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

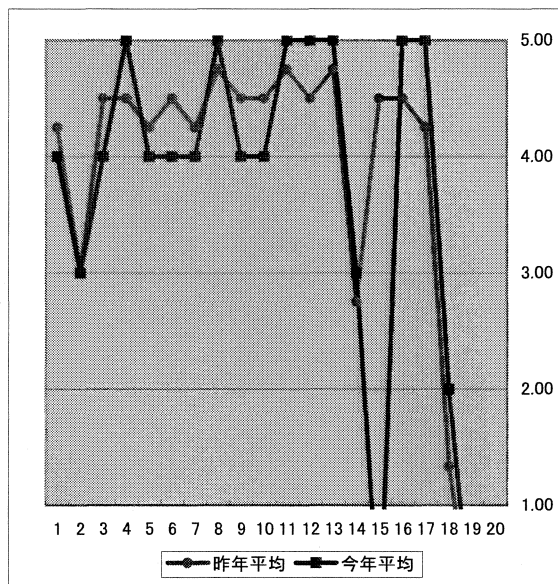
復習用の課題、より実践的な実習がおこなえるような教材の作成につとめる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

復習用の課題のレベルおよびボリュームの調整を行い、学生の学習により効率的なモノに改善する。
 ソフトウェア使用のという実践性だけでなく、その背景となる帳票等の教材を作成し、より実践的な実習となるよう改善に努める。

科 目：アカデミック・ソリューション(加藤クラス)
 配当年次：1年次 開講時限：木5
 受講者数：3 回答者数：1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.00	4	4	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.50	4.00	4	4	4
4	4.50	5.00	5	5	5
5	4.25	4.00	4	4	4
6	4.50	4.00	4	4	4
7	4.25	4.00	4	4	4
8	4.75	5.00	5	5	5
9	4.50	4.00	4	4	4
10	4.50	4.00	4	4	4
11	4.75	5.00	5	5	5
12	4.50	5.00	5	5	5
13	4.75	5.00	5	5	5
14	2.75	3.00	3	3	3
15	4.50	0.00	0	0	0
16	4.50	5.00	5	5	5
17	4.25	5.00	5	5	5
18	1.33	2.00	2	2	2
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	4	1			



受講生の傾向

講義時間の開始時には、ほぼ全員が着席している状態で、遅参者は少なかった。
 教員の説明に真面目に耳を傾けたり、講義内容を熱心にメモしている受講生が多く、私語はほとんどない状態であった。
 ディスカッションに対して前向きで、会計基準等の原文にも注意を払っている様子であった。
 暗記よりも理解することに力点を置いた学習を心がけている様子であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

テキストを指定して、会計基準等の原文を参考にしながら勉強ノートを作成し、それに基づいてプレゼンテーションとディスカッションを行う講義を展開した。
 暗記よりも理解させることに力点を置き、高レベルの問題に対処できるような基礎力の養成を心がけた。
 会計基準等の原文にできるだけ忠実な説明を心がけ、受講生に原文を見るように促した。
 論述の構成や文章表現はマン・ツー・マンで指導し、受講生の個性を尊重しながら個々の理解を促すようにした。
 場合によっては個々に特別な課題を与えるなど、個々の理解度と学習の進捗度に合わせる形で講義を進めた。

今後の対応

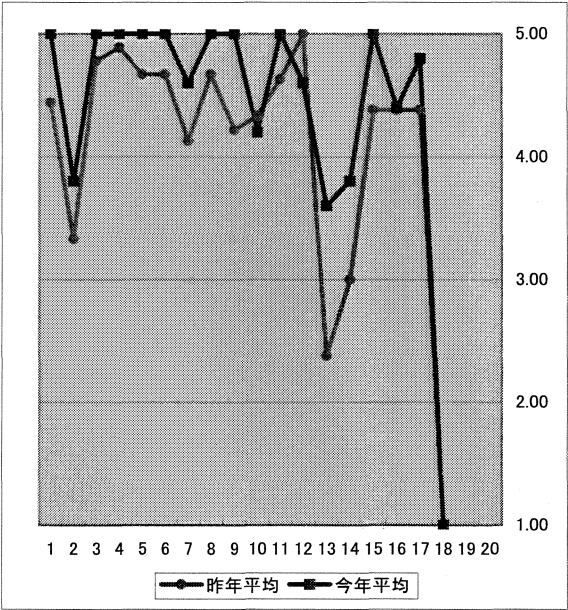
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計基準等の原文を常に参照するように指導していく。
 質疑応答の機会を増やし、活発なディスカッションが行われるようにしていく。

科 目：アカデミック・ソリューション(坂口クラス)
配当年次：1年次 開講時限：月5
受講者数：5 回答者数：5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.44	5.00	5	5	5
2	3.33	3.80	3	5	3
3	4.78	5.00	5	5	5
4	4.89	5.00	5	5	5
5	4.67	5.00	5	5	5
6	4.67	5.00	5	5	5
7	4.13	4.60	5	5	3
8	4.67	5.00	5	5	5
9	4.22	5.00	5	5	5
10	4.33	4.20	4・5	5	3
11	4.63	5.00	5	5	5
12	5.00	4.60	5	5	3
13	2.38	3.60	3	5	3
14	3.00	3.80	3	5	3
15	4.38	5.00	5	5	5
16	4.38	4.40	5	5	3
17	4.38	4.80	5	5	4
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	9	5			



受講生の傾向

基本的な項目についての理解がある程度終了している学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
ある程度学習が進んでいたため、複雑な計算構造の解説や理論の解説を実施した。

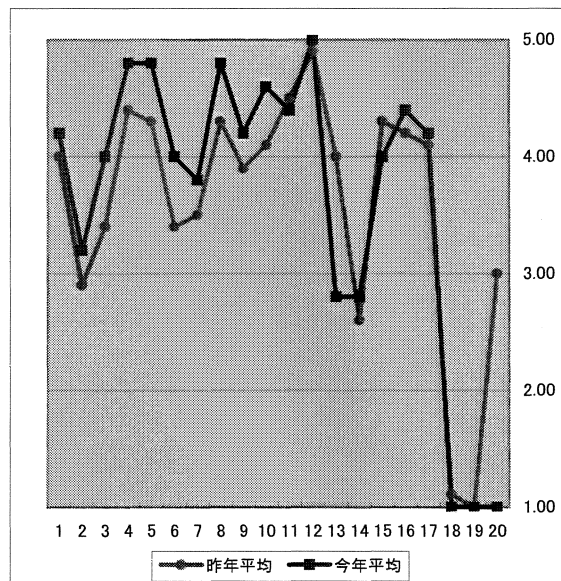
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
学生の進捗状況に応じた柔軟な対応をこれからもとっていきたい。

科 目: アカデミック・ソリューション(柴クラス)
 配当年次: 1年次 開講時限: 月5
 受講者数: 12 回答者数: 5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.20	4・5	5	3
2	2.90	3.20	3	4	3
3	3.40	4.00	4	5	3
4	4.40	4.80	5	5	4
5	4.30	4.80	5	5	4
6	3.40	4.00	4	5	3
7	3.50	3.80	3・4	5	3
8	4.30	4.80	5	5	4
9	3.90	4.20	5・4	5	3
10	4.10	4.60	5	5	4
11	4.50	4.40	5	5	3
12	4.90	5.00	5	5	5
13	4.00	2.80	3	5	1
14	2.60	2.80	2	5	2
15	4.30	4.00	4	5	3
16	4.20	4.40	4	5	4
17	4.10	4.20	4	5	4
18	1.11	1.00	1	1	1
19	1.00	1.00	1	1	1
20	3.00	1.00	1	1	1
回答者数	11	5			



受講生の傾向

前年度比較でいうと、教員評価に係る項目(1から11と15から17)の2を除くすべての項目に関して評価点が上がった。
 項目2が高いと授業進度が速すぎ他の項目を下げる傾向にあるが、そのマイナス影響は出ていない。
 学生自身の評価を見ると、非常に出席率が高いが、予習にかかる時間が減った。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は相対的に成績の低い層を受け入れており、そういうクラス分けのなかった前年度と単純に比較できない。
 簿記・会計の初級から復習すると同時に、思考訓練を繰り返した。

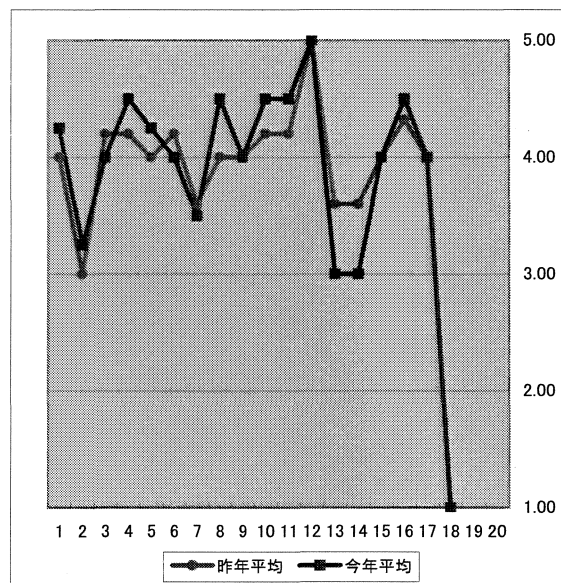
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
 昨年度との比較は難しい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
 明年度は募集の方針が再度変わるので、履修者の水準に合わせてやや負担感のある作業を与えるようにする。

科 目：アカデミック・ソリューション(清水クラス)
 配当年次：1年次 開講時限：月5
 受講者数：6 回答者数：5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.25	4	5	4
2	3.00	3.25	3	4	3
3	4.20	4.00	4	4	4
4	4.20	4.50	4・5	5	4
5	4.00	4.25	4	5	4
6	4.20	4.00	4	4	4
7	3.60	3.50	3・4	4	3
8	4.00	4.50	4・5	5	4
9	4.00	4.00	4	4	4
10	4.20	4.50	4・5	5	4
11	4.20	4.50	4・5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.60	3.00	3	3	3
14	3.60	3.00	3	3	3
15	4.00	4.00	4	5	3
16	4.32	4.50	4・5	5	4
17	4.00	4.00	4	4	4
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	5	5			



受講生の傾向

内容的な評価はかなり高い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

企業会計の基礎を対象とした。

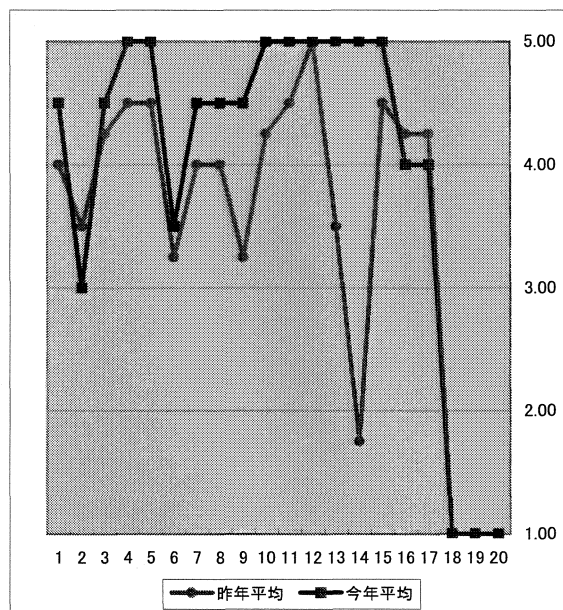
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
 1年次はテーマを企業会計に絞ることとする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
 アンケート結果はおおむね満足のいく結果だと考える。
 但し、実際の成績の向上に役立っているかどうかは疑問である。確認テスト等を多く実施したい。

科目: アカデミック・ソリューション(富田クラス)
 配当年次 1年次 開講時限: 月5
 受講者数 2 回答者数: 2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.50	4・5	5	4
2	3.50	3.00	3	3	3
3	4.25	4.50	4・5	5	4
4	4.50	5.00	5	5	5
5	4.50	5.00	5	5	5
6	3.25	3.50	3・4	4	3
7	4.00	4.50	4・5	5	4
8	4.00	4.50	4・5	5	4
9	3.25	4.50	4・5	5	4
10	4.25	5.00	5	5	5
11	4.50	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.50	5.00	5	5	5
14	1.75	5.00	5	5	5
15	4.50	5.00	5	5	5
16	4.25	4.00	3・5	5	3
17	4.25	4.00	4	4	4
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	1.00	1	1	1
20	0.00	1.00	1	1	1
回答者数	4	2			



受講生の傾向

全員が、欠席することなく参加した。
 予習・復習を充分に行い、講義時間中も熱心に質疑応答、プレゼンテーションを行っていた。
 当初、会計に関する知識が充分であるとはいえなかったが、高い学習意欲を持ち、キャッチアップするに至っている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年と同様、前半では会計の基礎的な考えからの理解に努め、後半は発展的な内容とした。
 昨年度の授業評価アンケートから、課題・小テストに関する工夫を施した。
 毎回のテーマを明確にし、予習しなければならないポイントを明示した。
 小テストを毎回実施し、学生たちの復習のポイントを提示した。
 適宜、実力確認テストの類のテストを行い、学生たちが自分たちの理解度を確認しやすいようにした。
 質疑応答を行いやすいように、講義展開を工夫した。

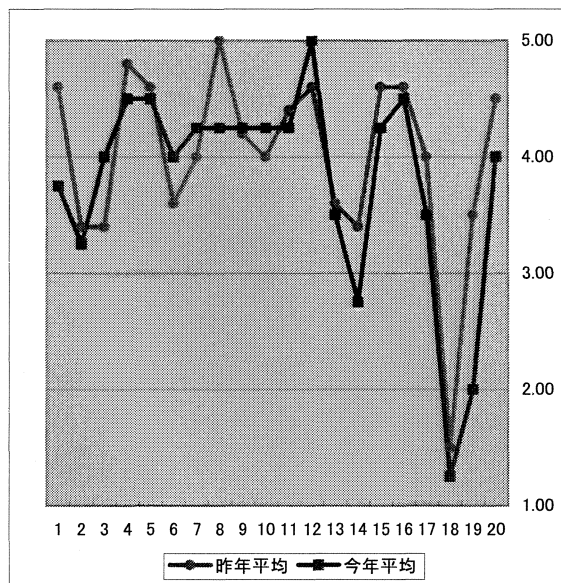
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
 引き続き、ディスカッションのための教材作成につとめる。
 復習が不十分であるため、復習用の教材の作成や課題の設定に努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
 教科書・配付資料が未だ不十分であるという学生評価であり
 学生の予習・復習の指針となり手助けとなるような教材作成に努める。

科 目: アカデミック・ソリューション(松尾クラス)
 配当年次: 1年次 開講時限: 木5
 受講者数: 4 回答者数: 4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	3.75	4	4	3
2	3.40	3.25	3	4	3
3	3.40	4.00	4	4	4
4	4.80	4.50	4・5	5	4
5	4.60	4.50	4・5	5	4
6	3.60	4.00	4	4	4
7	4.00	4.25	4	5	4
8	5.00	4.25	4	5	4
9	4.20	4.25	4	5	4
10	4.00	4.25	4	5	4
11	4.40	4.25	4	5	4
12	4.60	5.00	5	5	5
13	3.60	3.50	2・3・4・5	5	2
14	3.40	2.75	3	3	2
15	4.60	4.25	4	5	4
16	4.60	4.50	4・5	5	4
17	4.00	3.50	4	4	2
18	1.50	1.25	1	2	1
19	3.50	2.00	2	2	2
20	4.50	4.00	4	4	4
回答者数	5	4			



受講生の傾向

アカデミック・ソリューションは受講生の問題意識に差がある。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

アカデミック・ソリューションはCPA試験財務会計論出題範囲を完全にカバーするように努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

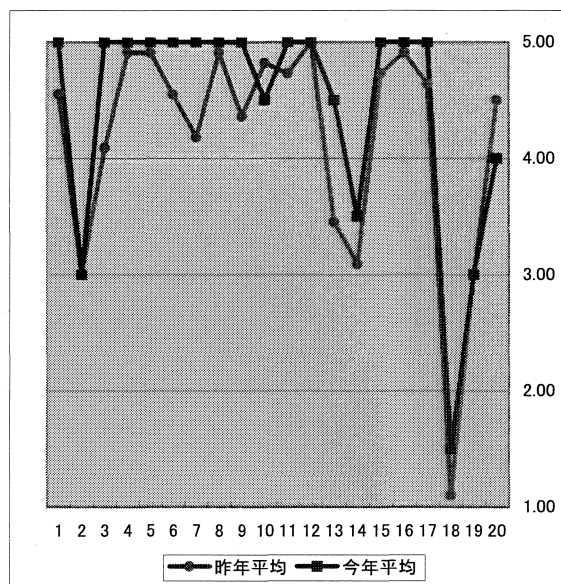
CPA試験財務会計論出題範囲の完全カバーに努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度と同様の方式を踏襲する。

科 目：アカデミック・ソリューション(三島クラス)
 配当年次：1年次 開講時限：木5
 受講者数：8 回答者数：2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.55	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.09	5.00	5	5	5
4	4.91	5.00	5	5	5
5	4.91	5.00	5	5	5
6	4.55	5.00	5	5	5
7	4.18	5.00	5	5	5
8	4.91	5.00	5	5	5
9	4.36	5.00	5	5	5
10	4.82	4.50	4・5	5	4
11	4.73	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.45	4.50	4・5	5	4
14	3.09	3.50	3・4	4	3
15	4.73	5.00	5	5	5
16	4.91	5.00	5	5	5
17	4.64	5.00	5	5	5
18	1.10	1.50	1・2	2	1
19	3.00	3.00	3	3	3
20	4.50	4.00	4	4	4
回答者数	11	2			



受講生の傾向

授業に関して、予習はしっかりと行われており、事前のテーマに基づいた学習が予定通り行われた。学生の学習意欲も高く、積極的に質問がなされ、学生が納得できるまで質疑応答は行われた。これに対して、学生間の討論はあまり積極的ではない印象を受けた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生の学力差がある場合であっても、質問内容を学生によって変えるなどそれぞれの学生が満足いくような授業を心がけた。学生が希望する演習形式の授業を繰り返しておこない、授業の後半にはかなり高いレベルの演習問題を解くに至った。

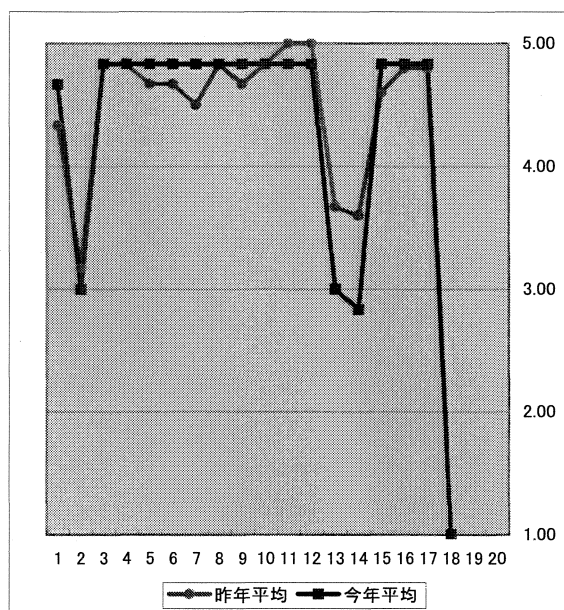
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
 学生主導の授業をより進めていきたい。
 学生の思考および応用力を養うような教材を作成し利用したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
 1年間で学生のレベルはかなり上昇するので、それに応じた教材を作っていきたい。
 学生による積極的な発言はあるものの、学生間での討論はあまり見られないので、学生間討論をもっと活発にしたい。

科目: プロフェッショナル・ソリューション(坂口クラス)
 配当年次: 2年次 開講時限: 金5
 受講者数: 6 回答者数: 6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.67	5	5	3
2	3.17	3.00	3	3	3
3	4.83	4.83	5	5	4
4	4.83	4.83	5	5	4
5	4.67	4.83	5	5	4
6	4.67	4.83	5	5	4
7	4.50	4.83	5	5	4
8	4.83	4.83	5	5	4
9	4.67	4.83	5	5	4
10	4.83	4.83	5	5	4
11	5.00	4.83	5	5	4
12	5.00	4.83	5	5	4
13	3.67	3.00	3	5	2
14	3.60	2.83	2	5	2
15	4.60	4.83	5	5	4
16	4.80	4.83	5	5	4
17	4.80	4.83	5	5	4
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	6	6			



受講生の傾向

基本的な学習が終了している学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生の進捗状況に合わせて次のような対応を実施した。

- ① 管理会計の理論の徹底
- ② 管理会計に関連する経営学の理論の考察

今後の対応

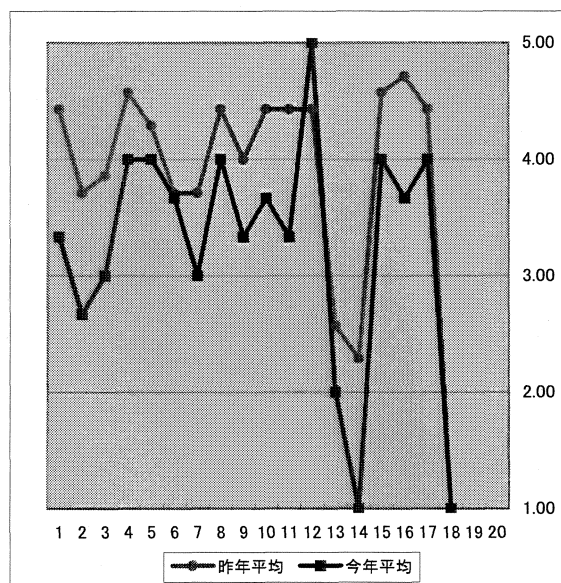
○ 昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○ 上記の内容を踏まえた「今後の対応」

これからも学生の学習進捗状況に応じて柔軟に対応していきたい。

科 目: プロフェッショナル・ソリューション(柴クラス)
 配当年次 2年次 開講時限: 金5
 受講者数 8 回答者数: 3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.43	3.33	3	4	3
2	3.71	2.67	3	3	2
3	3.86	3.00	2・3・4	4	2
4	4.57	4.00	3・4・5	5	3
5	4.29	4.00	3・4・5	5	3
6	3.71	3.67	4	4	3
7	3.71	3.00	3	3	3
8	4.43	4.00	3・4・5	5	3
9	4.00	3.33	3	4	3
10	4.43	3.67	4	4	3
11	4.43	3.33	3	4	3
12	4.43	5.00	5	5	5
13	2.57	2.00	1・2・3	3	1
14	2.29	1.00	1	1	1
15	4.57	4.00	4	4	4
16	4.71	3.67	4	4	3
17	4.43	4.00	4	4	4
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	7	3			



受講生の傾向

回答率が低くて昨年と単純に比較できない。回答者によると押しなべて昨年より評価が低い。
 項目2が一般に高い担当者としては、この科目は低い(授業の進度が適度である)。
 学生自身の評価を見ると、非常に出席率が高いがそれほど予習復習に時間をかけていないという傾向に変化はなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

適宜テーマを選んで報告させ、特に、疑問点をぶつけ合う方法を誘導した。

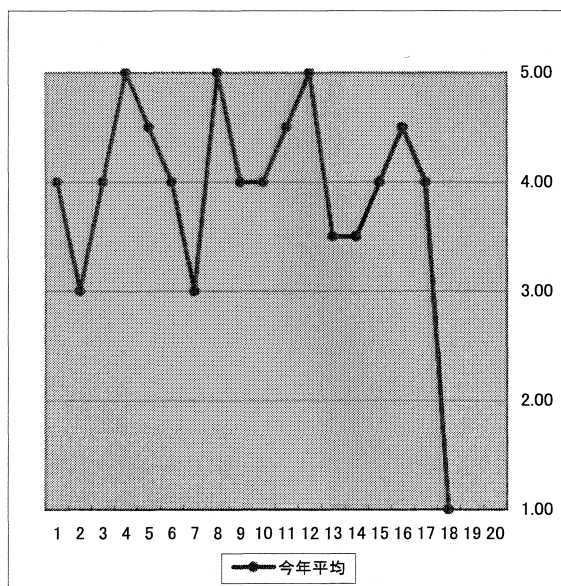
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
 昨年度の方針を踏襲している。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
 回答者が少ないとはいえ低評価であったことを踏まえ、明年度は大幅に負荷を高めることにする。

科 目：プロフェッショナル・ソリューション(富田クラス)
 配当年次：2年次 開講時限：火5
 受講者数：2 回答者数：2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.00	4	4	4
2	-	3.00	3	3	3
3	-	4.00	4	4	4
4	-	5.00	5	5	5
5	-	4.50	4・5	5	4
6	-	4.00	4	4	4
7	-	3.00	3	3	3
8	-	5.00	5	5	5
9	-	4.00	4	4	4
10	-	4.00	4	4	4
11	-	4.50	4・5	5	4
12	-	5.00	5	5	5
13	-	3.50	5・2	5	2
14	-	3.50	5・2	5	2
15	-	4.00	4	4	4
16	-	4.50	4・5	5	4
17	-	4.00	4	4	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	2			



受講生の傾向

学生たちは、非常に熱心に受講していた。
 前半と後半で、運営方法を修正したこともあり、
 前半では、ディスカッションは活発であったが、趣旨を十分に理解してない感じであった。
 また、後半では予習・復習を充分に行い、質疑応答も活発であった。
 予習・復習を充分に行う学生とそうではない学生に別れた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年の講義を踏まえて、前半は、「考えること」とそれを「伝えること」を修得させる目的で、応用度の非常に高いテーマを設定した。
 設定した応用度が高すぎたため、学生たちがその目標を達成するのに苦労したようである。
 そのため、講義運営を変更することとした。
 毎回のテーマを明確にし、予習しなければならないポイントを明示した。
 小テストを実施するとともに、学生たちの復習のポイントを提示した。

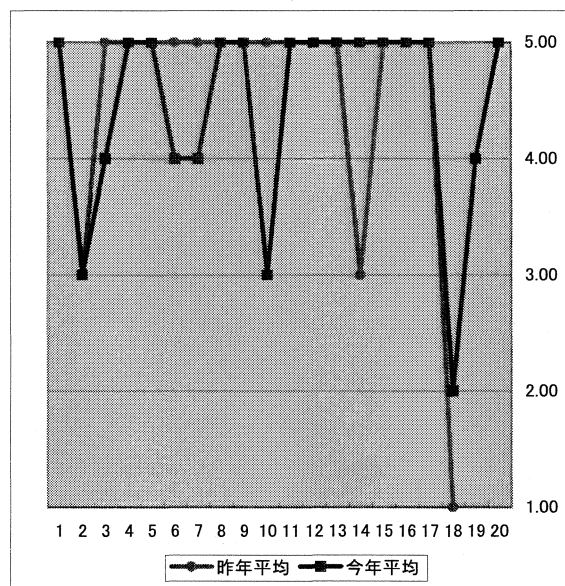
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
 該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
 予習・復習を全員が行うよう指導方法を工夫するとともに、
 学生の予習・復習の指針となり手助けとなるような教材作成に努める。

科目: プロフェッショナル・ソリューション(松尾クラス)
 配当年次: 2年次 開講時限: 月5
 受講者数: 1 回答者数: 1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.00	4	4	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	4.00	4	4	4
7	5.00	4.00	4	4	4
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	5.00	3.00	3	3	3
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	5.00	5	5	5
14	3.00	5.00	5	5	5
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
18	1.00	2.00	2	2	2
19	0.00	4.00	4	4	4
20	0.00	5.00	5	5	5
回答者数	1	1			



受講生の傾向

プロフェッショナル・ソリューション受講生の問題意識は非常に明解である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

プロフェッショナル・ソリューションは、財務会計論過去問分析を徹底した。

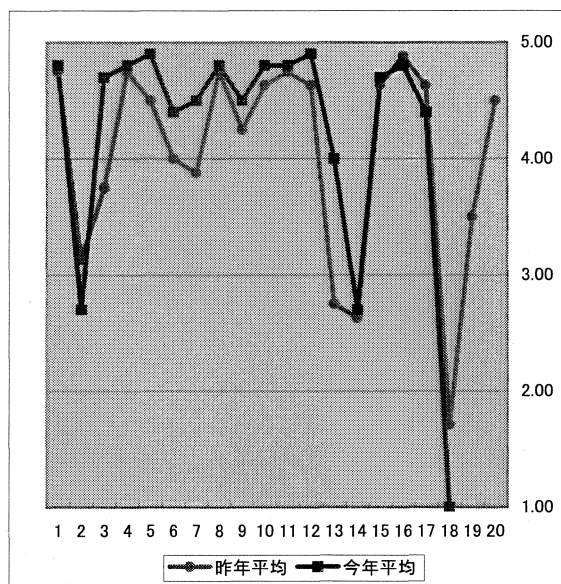
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
 財務会計論過去問分析の徹底

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
 昨年度と同様の方式を踏襲する。

科 目：プロフェッショナル・ソリューション(三島クラス)
 配当年次：2年次 開講時限：月5
 受講者数：10 回答者数：10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.80	5	5	4
2	3.13	2.70	3	3	1
3	3.75	4.70	5	5	4
4	4.75	4.80	5	5	4
5	4.50	4.90	5	5	4
6	4.00	4.40	5	5	3
7	3.88	4.50	5	5	3
8	4.75	4.80	5	5	4
9	4.25	4.50	5	5	3
10	4.63	4.80	5	5	4
11	4.75	4.80	5	5	4
12	4.63	4.90	5	5	4
13	2.75	4.00	3・5	5	3
14	2.63	2.70	1・3	5	1
15	4.63	4.70	5	5	3
16	4.88	4.80	5	5	4
17	4.63	4.40	5	5	1
18	1.71	1.00	1	1	1
19	3.50	0.00	0	0	0
20	4.50	0.00	0	0	0
回答者数	6	10			



受講生の傾向

積極的にプレゼンテーションや討論を行う雰囲気が作られていた。
 学生からのソリューションの内容に対する要望が多くあり、これを学生自身による整理のうえで授業が進行された。
 本来目的とする学生主導の授業が展開された。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

上記にも記載したが、学生による討論がより活発に行われるように配慮した。
 学生からの授業に対する提案を多く募り、それを学生自身の手で整理して進行するよう勤めた。
 教員はなるべく口を挟まず静観し、最後の総括ないし結論の部分において意見を述べるようにした。

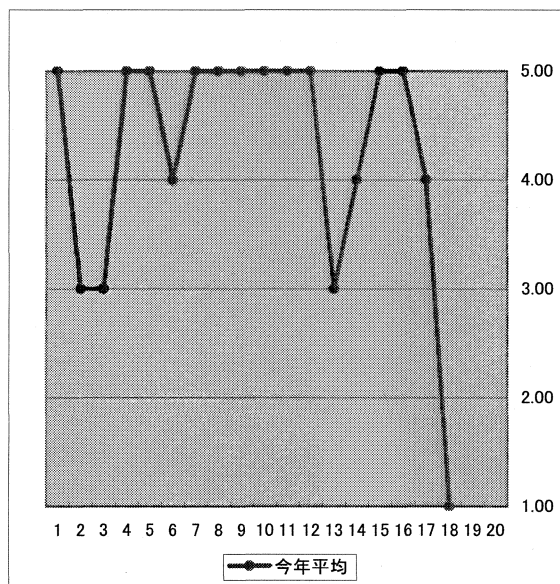
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
 詳細な議論をする上で注意深い配慮ができるように指導したい。
 学生の希望にもあると思われるので、企業法の最新の動向(判例等)を取り入れて授業をおこないたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
 学生主導による授業はおこなわれるようになったので、これを継続していきたい。
 また、議論に多く参加する学生とそうでない学生とが見られるので、なるべくすべての学生が多く議論に参加するように心がけた。
 い。

科 目: プロフェッショナル・ソリューション(宮本クラス)
 配当年次: 2年次 開講時限: 土5
 受講者数: 3 回答者数: 1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	5.00	5	5	5
2	-	3.00	3	3	3
3	-	3.00	3	3	3
4	-	5.00	5	5	5
5	-	5.00	5	5	5
6	-	4.00	4	4	4
7	-	5.00	5	5	5
8	-	5.00	5	5	5
9	-	5.00	5	5	5
10	-	5.00	5	5	5
11	-	5.00	5	5	5
12	-	5.00	5	5	5
13	-	3.00	3	3	3
14	-	4.00	4	4	4
15	-	5.00	5	5	5
16	-	5.00	5	5	5
17	-	4.00	4	4	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数		1			



受講生の傾向

プロフェッショナル・ソリューションでは、マクロ経済学の基礎的な学力を十分に持った院生を対象に高度な応用分析を学習しているので、それに対応できる優秀な院生が受講している。
 単に暗記したりする学習ではなく論理的に分析する授業をしているので、論理的な思考能力の富んだハイレベルの院生が熱心に受講している。
 正規の受講生だけではなく、非正規の受講生も毎回熱心に受講している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の受講生のアンケートによると、授業の満足度はかなり高かったので、基本的には昨年度の授業方法を踏襲した。
 ただ、院生の実力、理解度を高めるために、多くの宿題、練習問題を課して、院生に毎回それを理解するように詳しく解説した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

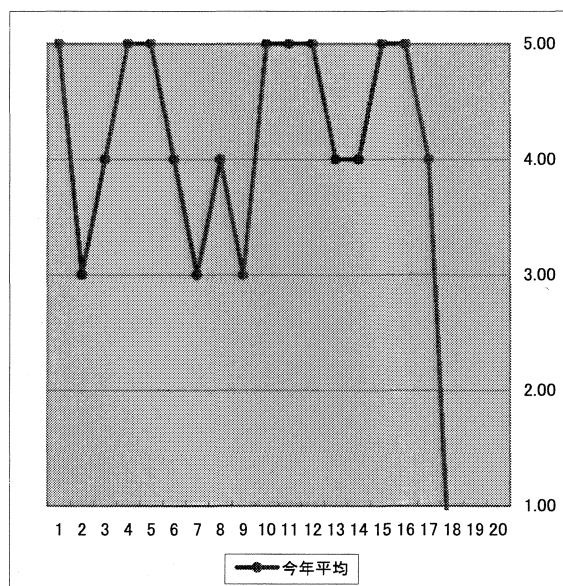
昨年度は院生の応用力を一層高めることを今後の対応目標とした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

院生の応用力を高めるために、昨年度以上に多くの宿題と練習問題を課すことにする。さらに、院生との交流を密接にし、院生の勉強意欲を高めるために、夏休み、春休みも可能な限り院生との勉強会を実施したい。

科目: 論文指導・博士論文(柴クラス)
 配当年次: 2年次 開講時限: 火5
 受講者数: 3 回答者数: 1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	5.00	5	5	5
2	-	3.00	3	3	3
3	-	4.00	4	4	4
4	-	5.00	5	5	5
5	-	5.00	5	5	5
6	-	4.00	4	4	4
7	-	3.00	3	3	3
8	-	4.00	4	4	4
9	-	3.00	3	3	3
10	-	5.00	5	5	5
11	-	5.00	5	5	5
12	-	5.00	5	5	5
13	-	4.00	4	4	4
14	-	4.00	4	4	4
15	-	5.00	5	5	5
16	-	5.00	5	5	5
17	-	4.00	4	4	4
18	-	0.00	0	0	0
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	1			



受講生の傾向

回答者が1名なので特に傾向はない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

論文指導・修士論文は徹底的に厳しくした。
 修士論文の意義を理解するまで繰り返し方法論を説明した。

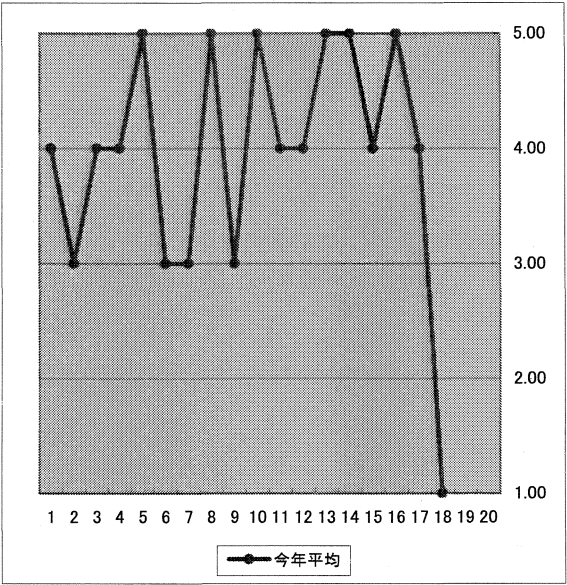
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
 長年培ってきた論文指導の方針に変更はない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
 長年培ってきた論文指導の方針に変更はない。

科 目: 論文指導・修士論文(清水クラス)
 配当年次: 2年次 開講時限: 火5
 受講者数: 1 回答者数: 1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.00	4	4	4
2	-	3.00	3	3	3
3	-	4.00	4	4	4
4	-	4.00	4	4	4
5	-	5.00	5	5	5
6	-	3.00	3	3	3
7	-	3.00	3	3	3
8	-	5.00	5	5	5
9	-	3.00	3	3	3
10	-	5.00	5	5	5
11	-	4.00	4	4	4
12	-	4.00	4	4	4
13	-	5.00	5	5	5
14	-	5.00	5	5	5
15	-	4.00	4	4	4
16	-	5.00	5	5	5
17	-	4.00	4	4	4
18	-	1.00	1	1	1
19	-	0.00	0	0	0
20	-	0.00	0	0	0
回答者数	-	1			



受講生の傾向

指導内容としては受講者のニーズに合うように努力した結果が表れたものと認識している。
 実際には受講者の焦点が定まらず、指導に苦勞した。
 結果的に途中で論文作成を断念した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講者に対応して個別に考える。

科目: 倒産分析論

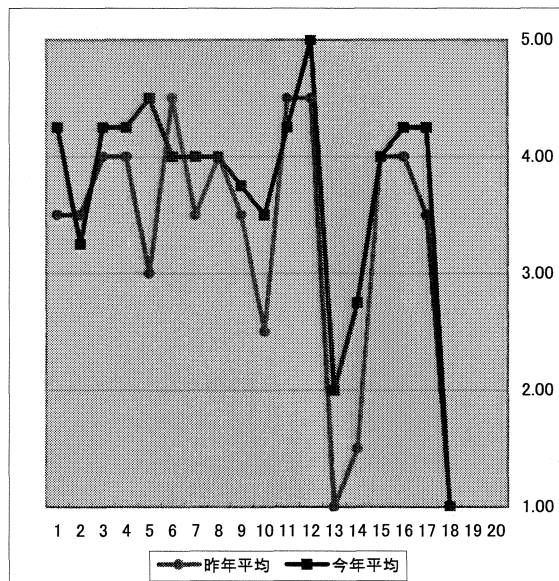
配当年次: 2年次

受講者数: 6

開講時限: 火4

回答者数: 4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.50	4.25	5	5	4
2	3.50	3.25	3	4	3
3	4.00	4.25	4	5	4
4	4.00	4.25	4	5	4
5	3.00	4.50	4・5	5	4
6	4.50	4.00	4	4	4
7	3.50	4.00	4	5	3
8	4.00	4.00	4	5	3
9	3.50	3.75	4	4	3
10	2.50	3.50	2・3・4・5	5	2
11	4.50	4.25	4	5	4
12	4.50	5.00	5	5	5
13	1.00	2.00	1・3	3	1
14	1.50	2.75	3	4	1
15	4.00	4.00	4	5	3
16	4.00	4.25	4	5	4
17	3.50	4.25	4	5	4
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	2	4			



受講生の傾向

受講した学生は非常に熱心であった。残念なことに途中で受講継続をあきらめた学生がいた。講義やその課題の趣旨を理解しており、自分で考え、自分なりに結論を導き出してきており、積極的な姿勢であった。また、コンピュータによるデータ分析が苦手な学生がいたが、それに逃げることなく、課題やディスカッションに行っていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年同様、実際の倒産企業のデータを学生に与え倒産予測モデルの予測精度の実証とそのプレゼンテーションを毎回の課題とし、それによって、倒産分析の手法の理解を深めるよう努めた。

昨年に加え、データ分析をするだけでなく、分析結果の原因あるいは理由を自分たちで考えるよう始動した。

また、プレゼンテーション時にディスカッションへと発展するように促した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

定量情報による分析にウェイトが高いため、コンピュータによるデータ分析方法の説明を追加する。

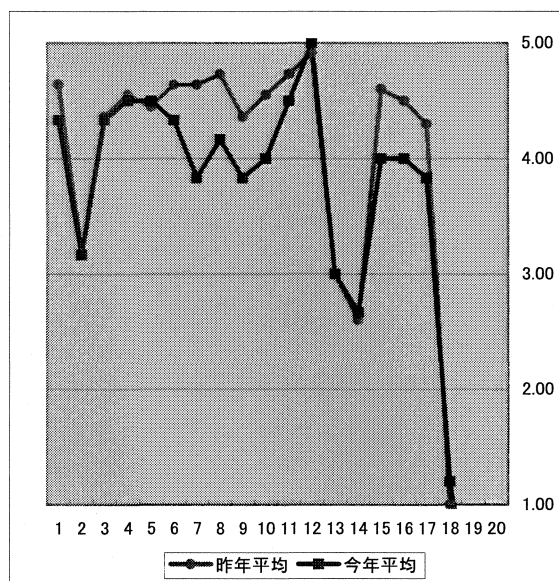
定性情報による分析も加えることで、学生の理解が深まるよう努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

分析手法やそれによる考察だけでなく、具体的な倒産事例をより多く扱い、ケーススタディによって、分析方法の意味や倒産という事態の理解が深まるよう努める。

科 目：サプライチェーン・マネジメント論
 配当年次：2年次 開講時限：火3
 受講者数：11 回答者数：6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.64	4.33	4	5	4
2	3.18	3.17	3	4	3
3	4.36	4.33	4	5	4
4	4.55	4.50	4・5	5	4
5	4.45	4.50	4・5	5	4
6	4.64	4.33	4	5	4
7	4.64	3.83	4	5	3
8	4.73	4.17	4	5	3
9	4.36	3.83	4	5	3
10	4.55	4.00	3・5	5	3
11	4.73	4.50	4・5	5	4
12	4.91	5.00	5	5	5
13	3.00	3.00	1・5	5	1
14	2.60	2.67	1・4・5	5	1
15	4.60	4.00	4	5	3
16	4.50	4.00	4	5	3
17	4.30	3.83	4	5	2
18	1.00	1.20	1	2	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	11	6			



受講生の傾向

昨年度と比較して学習意欲の少ない学生が見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
 学生の水準に合わせて、基本的な項目を中心にレクチャーを実施した。

今後の対応

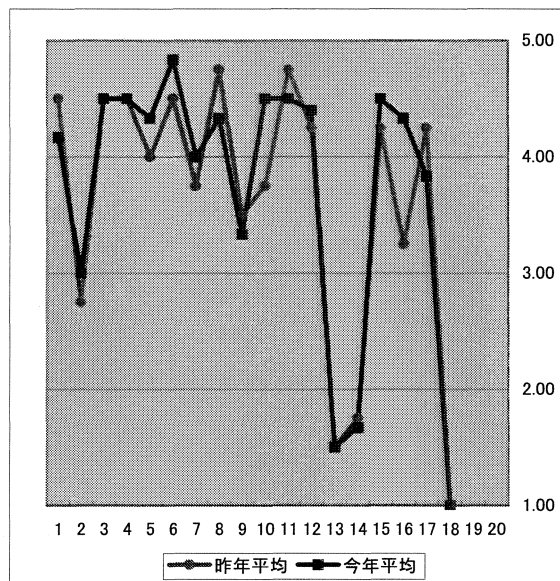
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
 学習意欲を高めるための対応を工夫していきたい。
 具体例：日本語文献の引用

科目: 起業論
配当年次: 2年次
受講者数: 7

開講時限: 土3
回答者数: 6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.17	4	5	3
2	2.75	3.00	3	3	3
3	4.50	4.50	5	5	3
4	4.50	4.50	5	5	3
5	4.00	4.33	5	5	3
6	4.50	4.83	5	5	4
7	3.75	4.00	3・4・5	5	3
8	4.75	4.33	5	5	3
9	3.50	3.33	3	5	2
10	3.75	4.50	4・5	5	4
11	4.75	4.50	5	5	3
12	4.25	4.40	4	5	4
13	1.50	1.50	1	3	1
14	1.75	1.67	1	3	1
15	4.25	4.50	4・5	5	4
16	3.25	4.33	5	5	3
17	4.25	3.83	5	5	1
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	5	6			



受講生の傾向

実際の起業活動に関与したことがある学生が受講していたこともあり、臨場感を持って授業に参画できていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
起業計画を模擬的に作成することで、理論の検証を行った。

今後の対応

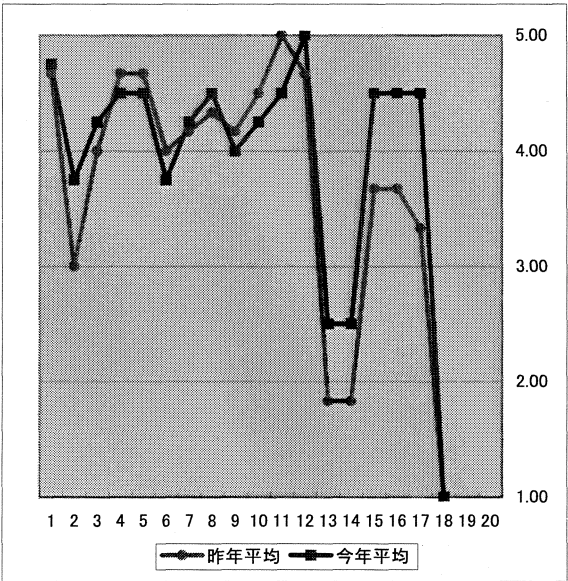
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
参加型の授業の要素をもう少し取り入れる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
起業に係る諸制度を理解した上で起業論を学ぶことが望ましい。

科 目：公共経済学
配当年次：2年次
受講者数：9

開講時限：火2
回答者数：4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.75	5	5	4
2	3.00	3.75	3	5	3
3	4.00	4.25	4	5	4
4	4.67	4.50	4・5	5	4
5	4.67	4.50	4・5	5	4
6	4.00	3.75	3	5	3
7	4.17	4.25	4	5	4
8	4.33	4.50	4・5	5	4
9	4.17	4.00	4	5	3
10	4.50	4.25	5	5	3
11	5.00	4.50	4・5	5	4
12	4.67	5.00	5	5	5
13	1.83	2.50	2	4	2
14	1.83	2.50	2	4	2
15	3.67	4.50	4・5	5	4
16	3.67	4.50	4・5	5	4
17	3.33	4.50	4・5	5	4
18	1.00	1.00	1	1	1
19	0.00	0.00	0	0	0
20	0.00	0.00	0	0	0
回答者数	6	4			



受講生の傾向

基本的には経済学、特に財政学、地方財政学に関心をもつ院生が受講している。それゆえに、経営学、会計学を専攻しているが、公会計に関心を持つ院生も受講していると考えられる。したがって、公認会計士を目指す院生のみならず、将来国税官や国・地方公務員を目指す院生も受講している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度のアンケート結果から、公共経済学の分野全体に広く行き渡った授業内容よりも、興味のある分野でポイントを抑えた話を聞きたいとの希望があったので、今回の授業ではその点を工夫した。具体的には、多くの種類の税や補助金の話、グラフを用いて分かりやすく解説した。

今後の対応

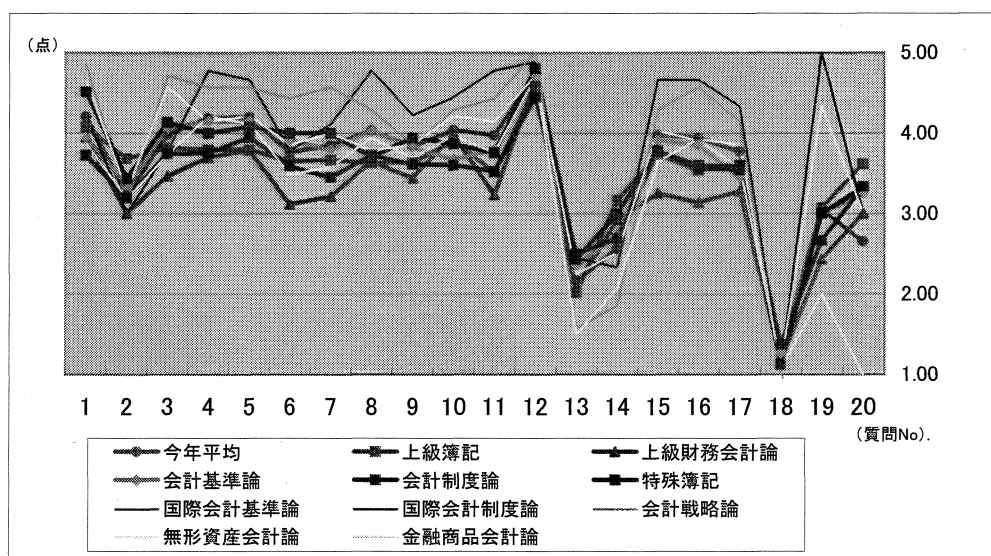
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
昨年度は公共経済学の一般論の理解を一層高めることを今後の対応目標とした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
院生の公共経済学の一般論についての理解だけではなく応用力を高めるために、院生が関心を持っているテーマを絞り込んだ解説に重点をおいた授業をする。

系： 財務会計

受講者数： 395 回答者数： 258

質問No.	今年平均	上級簿記	上級財務会計論	会計基準論	会計制度論	特殊簿記	国際会計基準論	国際会計制度論	会計戦略論	無形資産会計論	金融商品会計論
1	4.20	4.07	3.95	3.94	3.73	4.51	4.22	4.22	4.86	4.64	3.88
2	3.23	3.69	3.00	3.35	3.20	3.43	3.00	3.00	3.14	3.29	3.18
3	3.98	3.81	3.47	4.06	3.74	4.14	3.78	3.78	4.71	4.57	3.73
4	4.19	3.80	3.70	4.15	3.75	4.00	4.78	4.78	4.57	4.14	4.21
5	4.20	3.80	3.79	4.15	3.95	4.08	4.67	4.67	4.57	4.21	4.12
6	3.76	3.65	3.12	3.91	3.59	4.00	3.78	3.78	4.43	3.86	3.48
7	3.85	3.67	3.21	3.79	3.45	4.00	4.11	4.11	4.57	4.00	3.58
8	4.03	3.63	3.65	4.03	3.73	3.70	4.78	4.78	4.29	3.79	3.94
9	3.83	3.63	3.44	3.82	3.62	3.95	4.22	4.22	3.86	3.86	3.70
10	4.04	3.91	3.98	3.68	3.60	3.86	4.44	4.44	4.29	4.21	3.97
11	3.97	3.52	3.23	3.79	3.53	3.76	4.78	4.78	4.43	4.14	3.76
12	4.74	4.57	4.65	4.71	4.45	4.81	4.89	4.89	5.00	4.71	4.70
13	2.16	2.02	2.09	2.35	2.50	2.43	2.44	2.44	1.57	1.50	2.24
14	2.56	3.17	2.93	2.74	2.69	3.00	2.33	2.33	1.86	2.07	2.52
15	3.98	3.74	3.26	3.91	3.78	3.78	4.67	4.67	4.29	3.64	4.03
16	3.94	3.54	3.14	3.85	3.60	3.57	4.67	4.67	4.57	3.93	3.91
17	3.77	3.61	3.28	3.45	3.59	3.54	4.33	4.33	4.14	3.86	3.58
18	1.16	1.28	1.17	1.27	1.38	1.12	1.11	1.11	1.00	1.08	1.13
19	3.05	3.07	2.43	3.00	2.67	3.00	5.00	5.00	0.00	2.00	4.33
20	2.65	3.62	3.00	3.25	3.33	3.33	3.00	3.00	0.00	1.00	3.00
回答者数	258	32	43	34	40	37	9	9	7	14	33



受講生の傾向

受講人数の少ない科目(回答数が1桁)の満足度が高いことから科目選択の自主性との相関が想像される。これらの科目を除く科目については、科目による大きな差異が確認できない。昨年までは評価にばらつきもあった。ただ上級簿記と特殊簿記の項目2の数値が高いことによる消化不良が気がかりである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

担当者自身による記述を参照されたい。

今後の対応

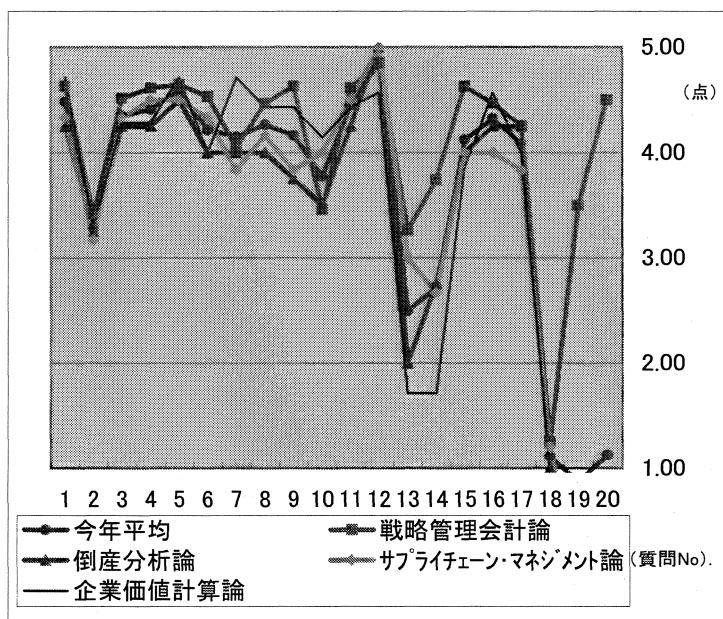
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
担当者自身による記述を参照されたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
担当者自身による記述を参照されたい。

系： 管理会計

受講者数： 114 回答者数： 80

質問No.	今年平均	戦略管理会計論	倒産分析論	サプライチェーン・マネジメント論	企業価値計算論
1	4.48	4.63	4.25	4.33	4.71
2	3.28	3.42	3.25	3.17	3.29
3	4.35	4.52	4.25	4.33	4.29
4	4.41	4.61	4.25	4.50	4.29
5	4.59	4.65	4.50	4.50	4.71
6	4.22	4.53	4.00	4.33	4.00
7	4.15	4.05	4.00	3.83	4.71
8	4.27	4.47	4.00	4.17	4.43
9	4.16	4.63	3.75	3.83	4.43
10	3.78	3.46	3.50	4.00	4.14
11	4.45	4.61	4.25	4.50	4.43
12	4.86	4.85	5.00	5.00	4.57
13	2.49	3.26	2.00	3.00	1.71
14	2.72	3.74	2.75	2.67	1.71
15	4.12	4.63	4.00	4.00	3.86
16	4.32	4.47	4.25	4.00	4.57
17	4.09	4.26	4.25	3.83	4.00
18	1.11	1.25	1.00	1.20	1.00
19	0.88	3.50	0.00	0.00	0.00
20	1.13	4.50	0.00	0.00	0.00
回答者数	80	63	4	6	7



受講生の傾向

授業によりばらつきはある。

そのため、科目間のばらつきが出たと考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

各科目毎に学生の進捗状況に対応した対処を採った。

今後の対応

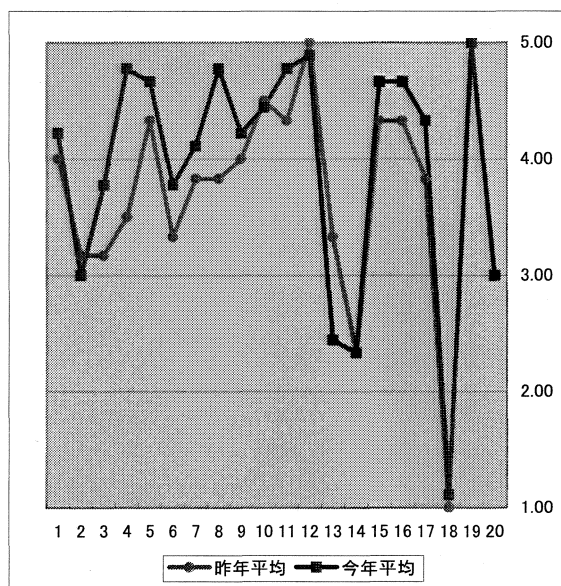
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も学生のニーズにあった授業を提供していきたい。

系: 税務会計(国際会計基準論)
 受講者数 22 回答者数 9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.22	4	5	3
2	3.17	3.00	3	3	3
3	3.17	3.78	3	5	3
4	3.50	4.78	5	5	4
5	4.33	4.67	5	5	4
6	3.33	3.78	3	5	3
7	3.83	4.11	4	5	3
8	3.83	4.78	5	5	4
9	4.00	4.22	4	5	3
10	4.50	4.44	5	5	3
11	4.33	4.78	5	5	4
12	5.00	4.89	5	5	4
13	3.33	2.44	2	4	1
14	2.33	2.33	2	4	1
15	4.33	4.67	5	5	4
16	4.33	4.67	5	5	4
17	3.83	4.33	4	5	4
18	1.00	1.11	1	2	1
19	0.00	5.00	5	5	5
20	0.00	3.00	3	3	3
回答者数	7	9			



受講生の傾向

受講生の学習意欲は非常に強い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

問題意識を明確にさせるために、プレゼンテーション中心の対話形式で講義を展開した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

今後ともプレゼン中心の講義方式を踏襲する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

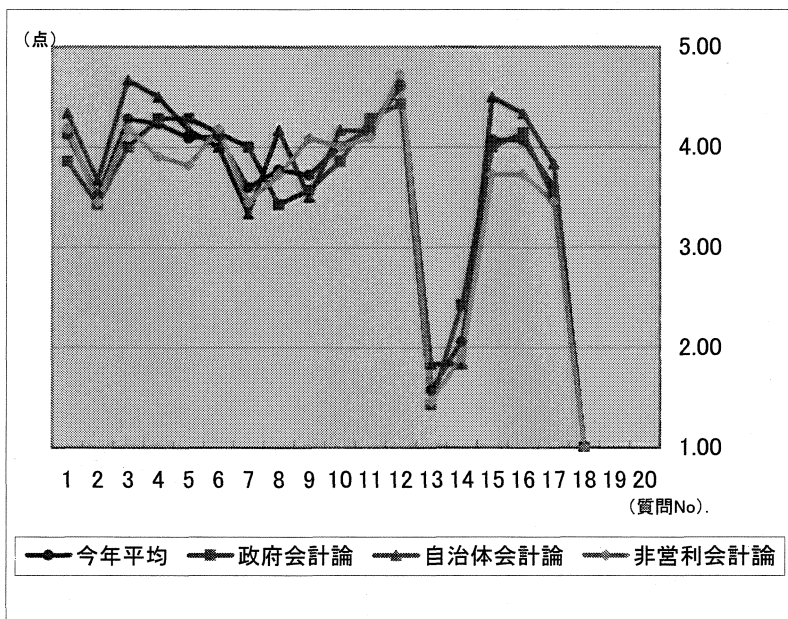
今後ともプレゼン中心の講義方式を踏襲する。

系： 公会計

受講者数： 29

回答者数： 24

質問No.	今年平均	政府会計論	自治体会計論	非営利会計論
1	4.12	3.86	4.33	4.18
2	3.52	3.43	3.67	3.45
3	4.28	4.00	4.67	4.18
4	4.23	4.29	4.50	3.91
5	4.09	4.29	4.17	3.82
6	4.11	4.14	4.00	4.18
7	3.60	4.00	3.33	3.45
8	3.77	3.43	4.17	3.73
9	3.72	3.57	3.50	4.09
10	4.01	3.86	4.17	4.00
11	4.18	4.29	4.17	4.09
12	4.61	4.43	4.67	4.73
13	1.57	1.43	1.83	1.45
14	2.06	2.43	1.83	1.91
15	4.08	4.00	4.50	3.73
16	4.07	4.14	4.33	3.73
17	3.60	3.50	3.83	3.45
18	1.00	1.00	1.00	1.00
19	0.00	0.00	0.00	0.00
20	0.00	0.00	0.00	0.00
回答者数	24	7	6	11



受講生の傾向

3教科とも共通した結果が出ている。
講義内容については、おおむね評価されているが、その割には全般的な理解度が3.6となっておりあまり高くない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
トピックなど事例を多く盛り込んだ。

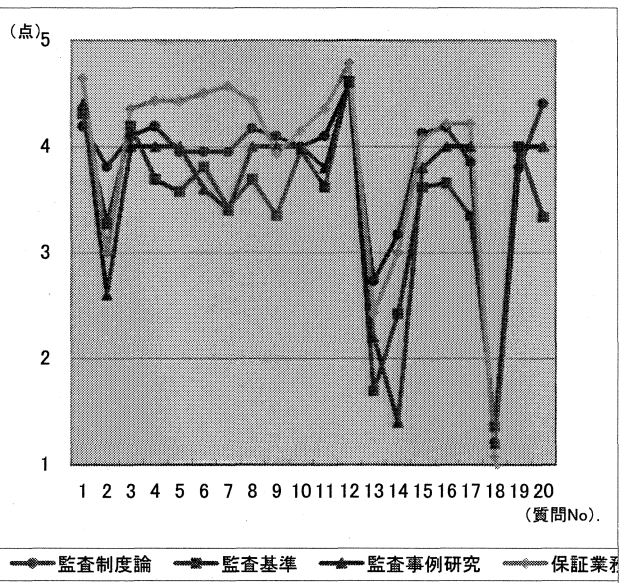
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
分かりやすく興味をもたせるようにする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
少なくとも前向きに講義を理解しようとする者に対しては質問する等して理解度を確認しつつ進めたい。

系: 監査
 受講者数: 208
 回答者数: 88

質問No.	今年平均	監査制度論	監査基準	監査事例研究	保証業務論
1	4.39	4.19	4.31	4.40	4.64
2	3.17	3.81	3.27	2.60	3.00
3	4.16	4.10	4.19	4.00	4.36
4	4.08	4.19	3.69	4.00	4.43
5	3.99	3.95	3.58	4.00	4.43
6	3.97	3.95	3.81	3.60	4.50
7	3.84	3.95	3.42	3.40	4.57
8	4.07	4.17	3.69	4.00	4.43
9	3.84	4.10	3.35	4.00	3.93
10	4.03	4.00	3.96	4.00	4.14
11	3.97	4.10	3.62	3.80	4.36
12	4.65	4.59	4.62	4.60	4.79
13	2.26	2.73	1.69	2.20	2.43
14	2.50	3.17	2.42	1.40	3.00
15	3.90	4.13	3.62	3.80	4.07
16	4.01	4.18	3.65	4.00	4.21
17	3.85	3.85	3.35	4.00	4.21
18	1.21	1.21	1.36	1.20	1.07
19	2.95	3.80	4.00	4.00	0.00
20	2.93	4.40	3.33	4.00	0.00
回答者数	88	43	26	5	14



受講生の傾向

受講生の出席状況(項目12)は、最も低いもので80%、高いもので100%となっており、「監査制度」及び「監査基準」という基本科目(必修科目)以外の科目でも、受講生の参加意欲は非常に高かったと評価できる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全ての科目で、講義に際して利用するための資料を用意・配布しており、これは2008年度版「出講の手引き」に沿った講義方式といえる。

また2つの基本科目以外は発展科目および応用科目であるため、「監査事例研究」をはじめとして学生によるケース・スタディやプレゼンテーションで行なわれている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

ケース・スタディやプレゼンテーションによる双方向の授業スタイルが教育効果を持つためには、受講生のモラルの向上や理解度が不可欠であるが、監査系列今年平均値をベンチマークとした場合、「監査基準」と「監査事例研究」、一部「保証業務」について、受講生の教育効果を高める方法が十分に講じられているとは言えないため、一定の改善措置が必要である。

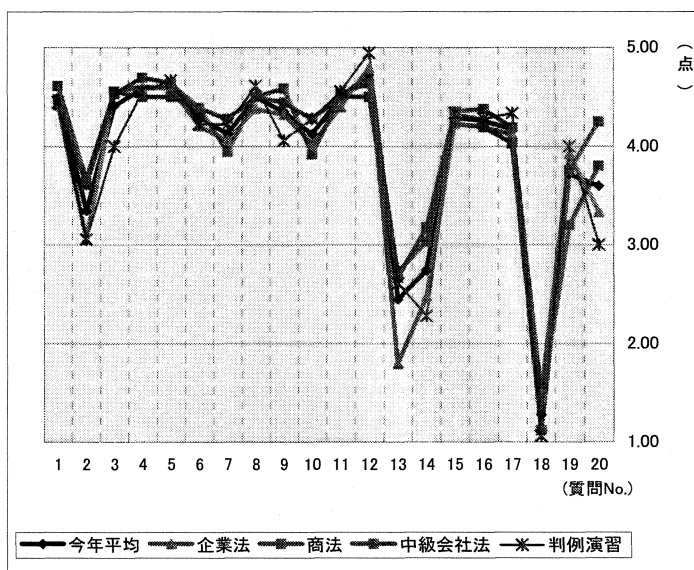
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

特に基本科目群に属する「監査基準」における学生側の教員の教育態度および手法に対する評価(項目4・5・6)が低くなっていることは重大と受け止められるため、今後、配付資料の分り易さや等の面での教員の側の意識改革が望まれる。

また「監査事例研究」と「保証業務論」は、ケース・スタディやプレゼンテーションによる双方向講義であり、学生のモラルを維持し向上させることが必須である。

系： 法律
 受講者数： 153
 回答者数： 126

質問No.	今年平均	企業法	商法	中級会社法	判例演習
1	4.49	4.42	4.61	4.47	4.44
2	3.35	3.06	3.67	3.61	3.06
3	4.41	4.55	4.56	4.53	4.00
4	4.59	4.60	4.50	4.69	4.56
5	4.60	4.58	4.50	4.64	4.67
6	4.30	4.21	4.39	4.39	4.22
7	4.13	4.06	4.28	3.94	4.22
8	4.50	4.38	4.50	4.50	4.61
9	4.35	4.32	4.44	4.58	4.06
10	4.12	4.02	4.28	3.92	4.28
11	4.49	4.40	4.50	4.53	4.56
12	4.72	4.79	4.50	4.64	4.94
13	2.45	1.79	2.67	2.72	2.61
14	2.74	2.47	3.18	3.03	2.28
15	4.28	4.23	4.35	4.22	4.33
16	4.26	4.19	4.38	4.19	4.28
17	4.17	4.12	4.19	4.03	4.33
18	1.28	1.49	1.44	1.12	1.06
19	3.72	3.92	3.20	3.75	4.00
20	3.60	3.33	3.80	4.25	3.00
回答者数	126	53	18	37	18



受講生の傾向

1年次と2年次とで大きく傾向が異なる。

1年次においては、学生間に学力およびそのモチベーションに大きな差異は見られなかった。

2年次においては、学力に大きな差が出ており、モチベーションに低い学生は法律系科目の履修は行わない傾向にある。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

法律系の科目をそれぞれ連携できるように工夫した。

具体的には、企業法と会社法・商法を同一のレジュメをつけようことができるようにして、相互に予習・復習に役立つようにしたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

それぞれの科目を単独で理解するのではなく、講義科目および演習科目を含めて連携した授業を行えるようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

法律系の科目間の連携をより一層はかることができるように心がけたい。

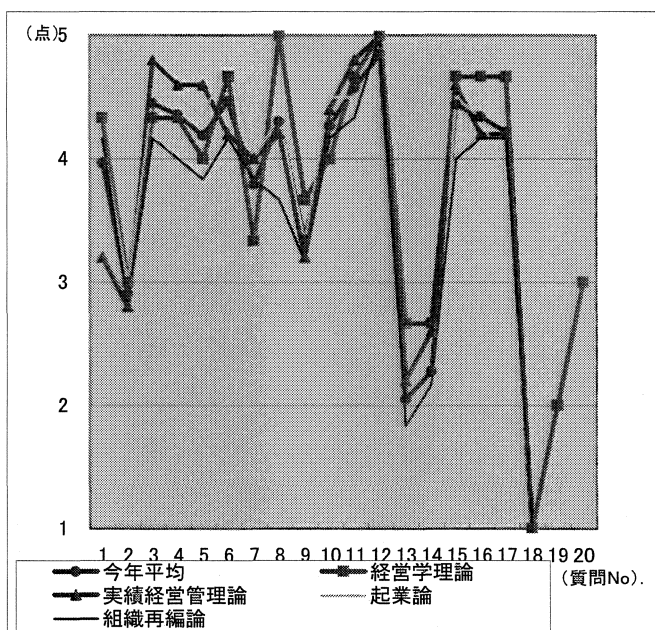
法学に対して苦手意識をもちモチベーションの上がらない学生に対して手当てを施す。

系： 経営

受講者数： 32

回答者数： 20

質問No.	今年平均	経営学理論	実績経営管理論	起業論	組織再編論
1	3.97	4.33	3.20	4.17	4.17
2	2.91	3.00	2.80	3.00	2.83
3	4.45	4.33	4.80	4.50	4.17
4	4.36	4.33	4.60	4.50	4.00
5	4.19	4.00	4.60	4.33	3.83
6	4.47	4.67	4.20	4.83	4.17
7	3.79	3.33	4.00	4.00	3.83
8	4.30	5.00	4.20	4.33	3.67
9	3.34	3.67	3.20	3.33	3.17
10	4.27	4.00	4.40	4.50	4.17
11	4.58	4.67	4.80	4.50	4.33
12	4.85	5.00	5.00	4.40	5.00
13	2.05	2.67	2.20	1.50	1.83
14	2.28	2.67	2.60	1.67	2.17
15	4.44	4.67	4.60	4.50	4.00
16	4.34	4.67	4.20	4.33	4.17
17	4.22	4.67	4.20	3.83	4.17
18	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
19	0.50	2.00	0.00	0.00	0.00
20	0.75	3.00	0.00	0.00	0.00
回答者数	20	3	5	6	6



受講生の傾向

経営系の科目に関しては、公認会計士試験では選択科目であつが、受講生が比較的多く、受講生のニーズが伺える。経営系の科目は、基本的なものから難易度の高い応用的な科目もあり、学生の理解度もかなりばらつきが見られる。また、以前から学習をしている学生とそうでない学生との差が大きく見られる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生の学力差を考慮した、基本的な部分を復習するという点も加えながら、授業を行った。

学生に興味を持たせるべく、実例を多く交えながら授業を行った。

また、経営系の科目相互間の連携を図ることで、経営系全体の連続性を持たせた。

教員による解説を控え、学生の発言を誘発するように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

参加型の授業の要素をもう少し加える。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

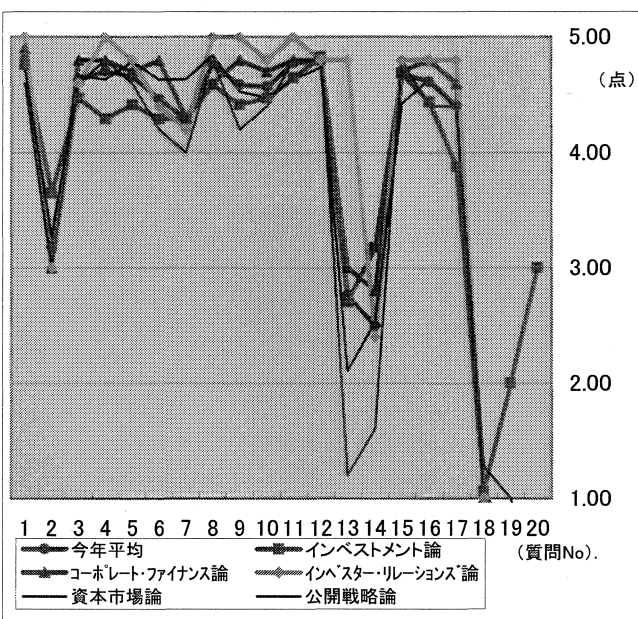
より、経営系科目の連携性を持たせ、より効率的かつ効果的な授業を行いたい。

経営の基礎科目の段階ですべての基本的事項を学生に習得させ、応用科目はより進んだ内容としたい。

系： ファイナンス(春学期のみ)

受講者数： 82 回答者数： 56

質問No.	今年平均	インベストメント論	コーポレート・ファイナンス論	インバスター・リレーションズ論	資本市場論	公開戦略論
1	4.80	4.76	4.90	5.00	4.60	4.74
2	3.18	3.65	3.00	3.00	3.00	3.26
3	4.63	4.47	4.80	4.60	4.60	4.67
4	4.71	4.29	4.80	5.00	4.80	4.63
5	4.66	4.41	4.70	4.80	4.60	4.79
6	4.47	4.29	4.80	4.40	4.20	4.63
7	4.29	4.29	4.30	4.20	4.00	4.63
8	4.77	4.59	4.60	5.00	4.80	4.84
9	4.59	4.41	4.80	5.00	4.20	4.53
10	4.57	4.47	4.70	4.80	4.40	4.47
11	4.78	4.65	4.80	5.00	4.80	4.63
12	4.79	4.82	4.80	4.80	4.80	4.74
13	2.76	2.71	3.00	4.80	1.20	2.11
14	2.50	3.18	2.80	2.40	1.60	2.53
15	4.68	4.69	4.70	4.80	4.80	4.42
16	4.61	4.44	4.80	4.80	4.40	4.63
17	4.41	3.88	4.60	4.80	4.40	4.37
18	1.07	1.06	1.00	1.00	1.00	1.28
19	0.60	2.00	0.00	0.00	0.00	1.00
20	0.60	3.00	0.00	0.00	0.00	0.00
回答者数	56	17	10	5	5	19



受講生の傾向

公認会計士試験に直接関係のない科目であり、将来を見据えて、自分の専門性を高めるべく受講する生徒が多く、非常に熱心である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業の事前準備をより入念に行い、説明のポイントやディスカッションさせるべき内容等を事前に準備した。小レポートを毎回提出されるようにし、当日のポイントを再度確認させるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

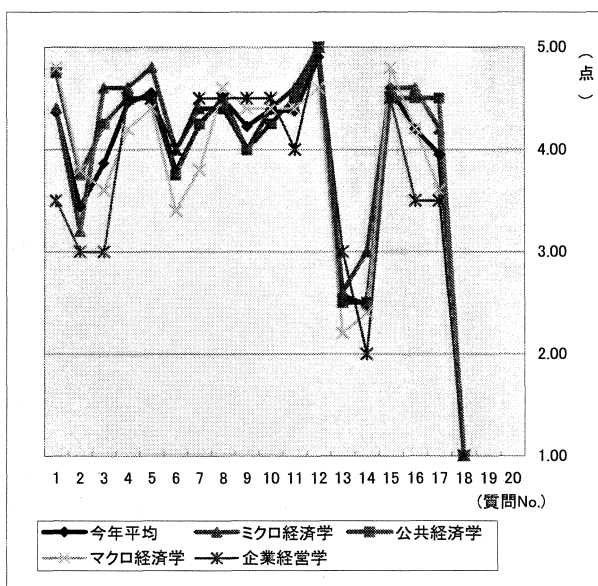
授業の準備をより入念に行うとともに、最新の状況について講義できるべく、さまざまな機会を捉えて勉強を行う。小レポートやディスカッションに工夫を行って、毎回、重要なポイントを理解かつ応用可能なように指導して行く。

系： 経済・統計

受講者数： 39

回答者数： 16

質問No.	今年平均	ミクロ経済学	公共経済学	マクロ経済学	企業経営学
1	4.36	4.40	4.75	4.80	3.50
2	3.44	3.20	3.75	3.80	3.00
3	3.86	4.60	4.25	3.60	3.00
4	4.45	4.60	4.50	4.20	4.50
5	4.55	4.80	4.50	4.40	4.50
6	3.79	4.00	3.75	3.40	4.00
7	4.24	4.40	4.25	3.80	4.50
8	4.50	4.40	4.50	4.60	4.50
9	4.23	4.00	4.00	4.40	4.50
10	4.39	4.40	4.25	4.40	4.50
11	4.38	4.60	4.50	4.40	4.00
12	4.90	5.00	5.00	4.60	5.00
13	2.58	2.60	2.50	2.20	3.00
14	2.48	3.00	2.50	2.40	2.00
15	4.60	4.60	4.50	4.80	4.50
16	4.20	4.60	4.50	4.20	3.50
17	3.95	4.20	4.50	3.60	3.50
18	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
回答者数	16	5	4	5	2



受講生の傾向

経済学・統計学を受講する院生は、論理的思考に関心を持ち、能力の高い者が多い。したがって、基本をしっかりと理解すれば、階段を上るように、学力は飛躍的に発展する可能性を持つ院生が受講している。それゆえに、いかに関心を深め、経済学・統計学に興味を持続させるかがポイントである。正規の受講生だけでなく、非正規の受講生も毎回熱心に受講している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の受講生のアンケートによると、基礎的な授業の理解度や満足度はかなり高かったので、基本的には昨年度の授業方法を踏襲した。ただ、院生の実力、応用力を高めるために、多くの宿題、練習問題を課して、院生に毎回それを理解するように図などを用いて詳しく解説した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

昨年度は基礎的な学力を持つ院生が多かったので、応用力を一層高めることを今後の対応目標とした

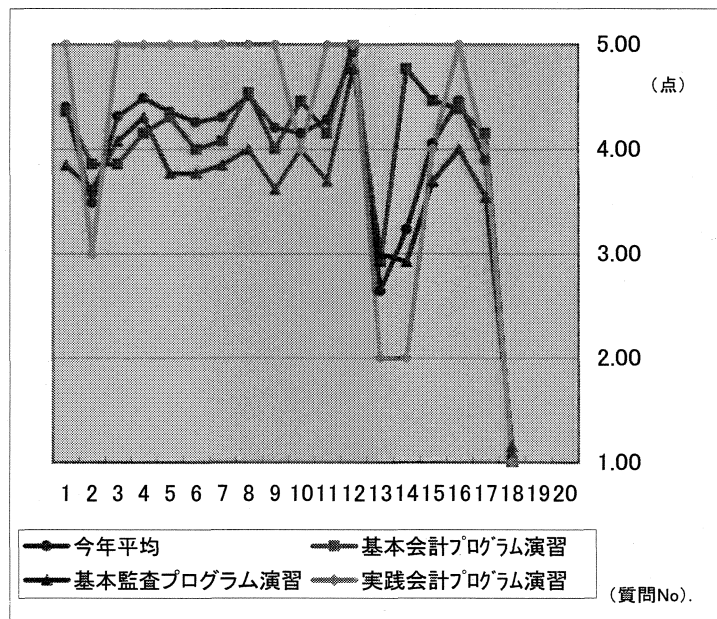
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

院生の応用力を高めるために、今後は多くの宿題と練習問題を課すことにしたい。そして、その解説にはかなりの時間をかけて詳しく説明する予定である。さらに、院生との交流を密接にし、院生の勉強意欲を高めるために、夏休み、春休みも可能な限り院生との勉強会を実施する計画である。

系: IT・ビジネス

受講者数 42 回答者数 28

質問No.	今年平均	基本会計プログラム演習	基本監査プログラム演習	実践会計プログラム演習
1	4.40	4.36	3.85	5.00
2	3.49	3.86	3.62	3.00
3	4.31	3.86	4.08	5.00
4	4.49	4.15	4.31	5.00
5	4.36	4.31	3.77	5.00
6	4.26	4.00	3.77	5.00
7	4.31	4.08	3.85	5.00
8	4.51	4.54	4.00	5.00
9	4.21	4.00	3.62	5.00
10	4.15	4.46	4.00	4.00
11	4.28	4.15	3.69	5.00
12	4.92	5.00	4.77	5.00
13	2.64	2.92	3.00	2.00
14	3.23	4.77	2.92	2.00
15	4.05	4.46	3.69	4.00
16	4.46	4.38	4.00	5.00
17	3.90	4.15	3.54	4.00
18	1.05	1.00	1.15	1.00
19	0.00	0.00	0.00	0.00
20	0.00	0.00	0.00	0.00
回答者数	28	14	13	1



受講生の傾向

研究科の性質上、避けられないことではあるが、ITに関する知識がまったくない学生が少なからず存在する。科目によって異なるようであるが、ソフトウェアの基本的な仕組みについて、理解を深めようと強く感じる学生とほぼあきらめている学生と両極に別れる場合、ほぼ全員が、本研究科修了後のスキルを考えて受講している場合、課題の提出率が非常に高く、課題を完成させることで、講義の目的を達成しようとする場合、という傾向が見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年に引き続き、学生の習熟度や理解度を認識するため、実習中の机間巡回を必ず行い、同時に、講義の進捗状況や予定されている講義の内容と目的を、頻回に説明した。
プログラミングの知識のない学生がいることを踏まえ、学生たちの課題の作成にあたり、最低到達点、努力目標、発展レベルを明示し、評価ポイントを説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

学生の利用しやすい教材改善に努める。

基礎的でありつつも、実践的な課題の作成を検討し、会計専門職としての将来のスキルアップの基礎となるように改善する。

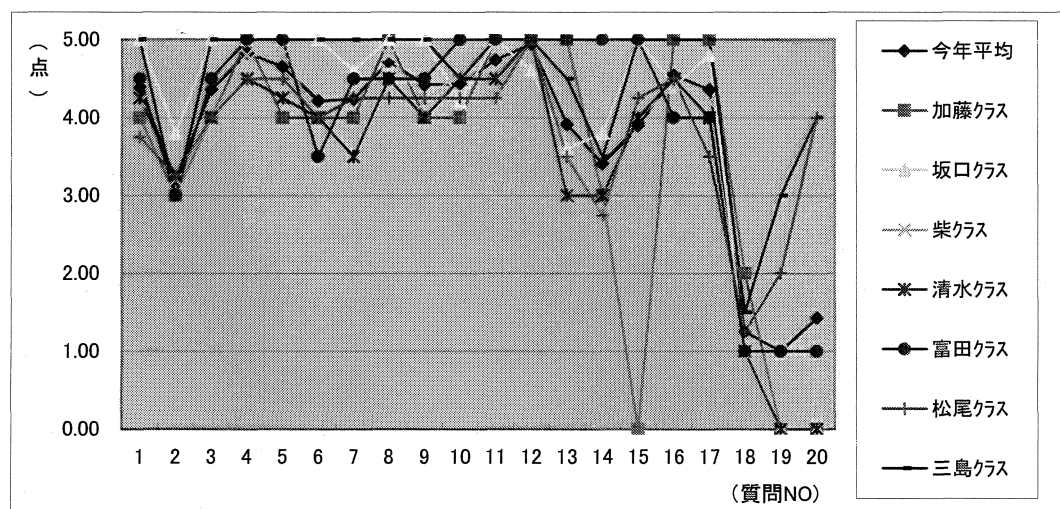
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、より学生にわかりやすい学習用教材の作成に努める。

学生のレベル差に応じて、課題の要完成レベルを説明するだけでなく、レベルに応じて選択できるような課題を用意する。復習用の課題のレベルおよびボリュームの調整を行い、学生の学習により効率的なモノに改善する。

系: 個別演習科目(アカデミック・ソリューション)
 受講者数: 40 回答者数: 24

質問No.	今年平均	加藤クラス	坂口クラス	柴クラス	清水クラス	富田クラス	松尾クラス	三島クラス
1	4.39	4.00	5.00	4.20	4.25	4.50	3.75	5.00
2	3.21	3.00	3.80	3.20	3.25	3.00	3.25	3.00
3	4.36	4.00	5.00	4.00	4.00	4.50	4.00	5.00
4	4.83	5.00	5.00	4.80	4.50	5.00	4.50	5.00
5	4.65	4.00	5.00	4.80	4.25	5.00	4.50	5.00
6	4.21	4.00	5.00	4.00	4.00	3.50	4.00	5.00
7	4.24	4.00	4.60	3.80	3.50	4.50	4.25	5.00
8	4.72	5.00	5.00	4.80	4.50	4.50	4.25	5.00
9	4.42	4.00	5.00	4.20	4.00	4.50	4.25	5.00
10	4.44	4.00	4.20	4.60	4.50	5.00	4.25	4.50
11	4.74	5.00	5.00	4.40	4.50	5.00	4.25	5.00
12	4.94	5.00	4.60	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
13	3.91	5.00	3.60	2.80	3.00	5.00	3.50	4.50
14	3.41	3.00	3.80	2.80	3.00	5.00	2.75	3.50
15	3.89	0.00	5.00	4.00	4.00	5.00	4.25	5.00
16	4.54	5.00	4.40	4.40	4.50	4.00	4.50	5.00
17	4.36	5.00	4.80	4.20	4.00	4.00	3.50	5.00
18	1.25	2.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.25	1.50
19	1.00	0.00	0.00	1.00	0.00	1.00	2.00	3.00
20	1.43	0.00	0.00	1.00	0.00	1.00	4.00	4.00
回答者数	24	1	5	5	5	2	4	2



受講生の傾向

比較的に学生の満足度の高い授業である。

特徴的には、全体として授業進度について早いと感じている学生が多いが、この授業に関しては進度は適切と感じている学生が多いことである。

やはり学生の希望に沿う進め方をしているものと思われる。

1年生の個別演習科目であり、個人的な指導ができるにもかかわらず、履修者があまり多くなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

この年度は学生の成績で担当教員を振り分けるということを行い、より学生のレベルに応じた授業がおこなわれるように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

学生に対してきめ細かな指導ができる点で、より多くの学生が履修してもらいたい。

個別演習科目という特性上、学生へのより決め細やかなサポートをしていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

個別指導が可能である点で、多くの学生が履修するように心がけたい。

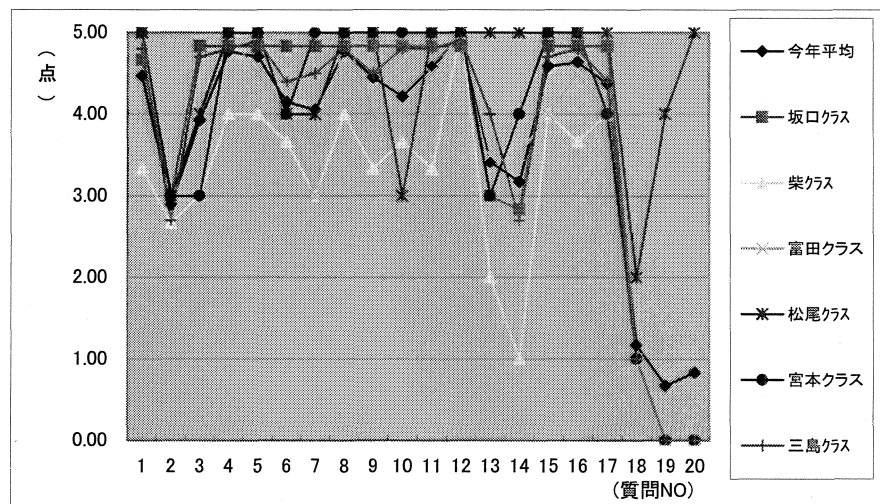
通年科目から半期科目にすることで、学生のニーズに合わせた制度とする。

系:個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューション)

受講者数: 30

回答者数: 23

質問No.	今年平均	坂口クラス	柴クラス	富田クラス	松尾クラス	宮本クラス	三島クラス
1	4.47	4.67	3.33	4.00	5.00	5.00	4.80
2	2.89	3.00	2.67	3.00	3.00	3.00	2.70
3	3.92	4.83	3.00	4.00	4.00	3.00	4.70
4	4.77	4.83	4.00	5.00	5.00	5.00	4.80
5	4.71	4.83	4.00	4.50	5.00	5.00	4.90
6	4.15	4.83	3.67	4.00	4.00	4.00	4.40
7	4.06	4.83	3.00	3.00	4.00	5.00	4.50
8	4.77	4.83	4.00	5.00	5.00	5.00	4.80
9	4.44	4.83	3.33	4.00	5.00	5.00	4.50
10	4.22	4.83	3.67	4.00	3.00	5.00	4.80
11	4.58	4.83	3.33	4.50	5.00	5.00	4.80
12	4.96	4.83	5.00	5.00	5.00	5.00	4.90
13	3.42	3.00	2.00	3.50	5.00	3.00	4.00
14	3.17	2.83	1.00	3.50	5.00	4.00	2.70
15	4.59	4.83	4.00	4.00	5.00	5.00	4.70
16	4.63	4.83	3.67	4.50	5.00	5.00	4.80
17	4.37	4.83	4.00	4.00	5.00	4.00	4.40
18	1.17	1.00	1.00	1.00	2.00	1.00	1.00
19	0.67	0.00	0.00	0.00	4.00	0.00	0.00
20	0.83	0.00	0.00	0.00	5.00	0.00	0.00
回答者数	23	6	3	2	1	1	10



受講生の傾向

アカデミックソリューションと同様、学生の満足度の高い授業である。

また、授業の進度についても適切と考えている学生が多い。

この授業もまた多くの学生に履修してほしい科目であるが、履修登録者は全体の半数にも満たない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

極力学生の要望を取り入れた授業とした。

レベル差のある学生に対しても共通で扱える教材や題材を用いることで、一体とした授業をおこなった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

プロフェッショナルソリューションでは、アカデミックソリューションと異なり履修登録者数が少なく、より多くの学生が履修するようにしたい。

アカデミックソリューションから受講する学生とそうでない学生とが混在するなかで、どちらの学生にとっても満足のような授業を心がけたい。

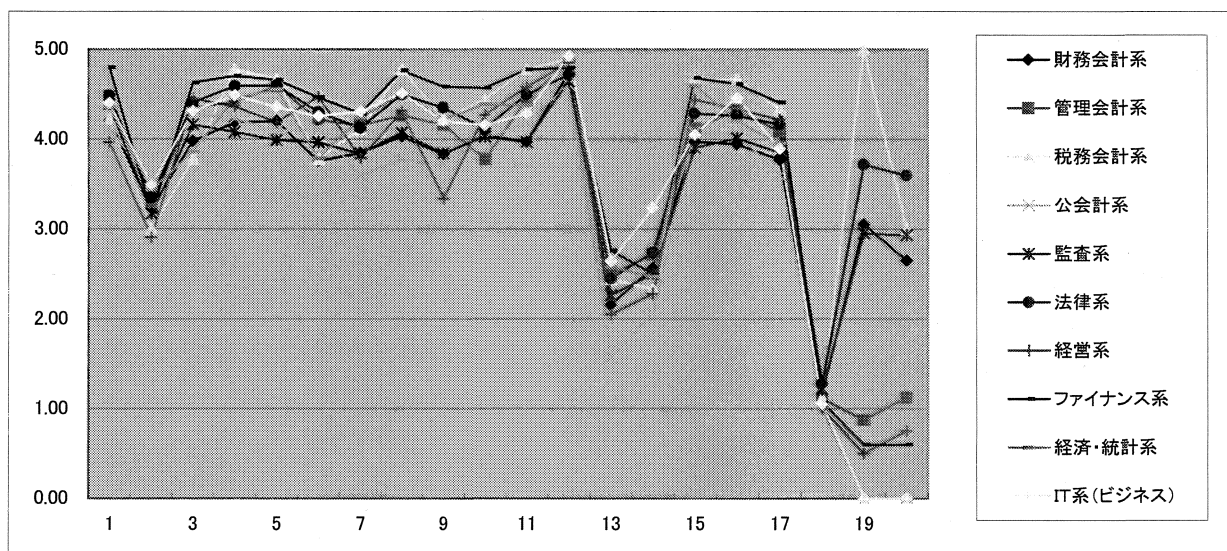
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

やはり、受講学生数が少ないということが問題であると考えてるので、より多くの学生が履修するよう心がけたい。

学生のニーズにあわせた授業を心がけたい。

系列平均

質問No.	財務会計系	管理会計系	税務会計系	公会計系	監査系	法律系	経営系	ファイナンス系	経済・統計系	IT系(ビジネス)
1	4.20	4.48	4.22	4.12	4.39	4.49	3.97	4.80	4.36	4.40
2	3.23	3.28	3.00	3.52	3.17	3.35	2.91	3.18	3.44	3.49
3	3.98	4.35	3.78	4.28	4.16	4.41	4.45	4.63	3.86	4.31
4	4.19	4.41	4.78	4.23	4.08	4.59	4.36	4.71	4.45	4.49
5	4.20	4.59	4.67	4.09	3.99	4.60	4.19	4.66	4.55	4.36
6	3.76	4.22	3.78	4.11	3.97	4.30	4.47	4.47	3.79	4.26
7	3.85	4.15	4.11	3.60	3.84	4.13	3.79	4.29	4.24	4.31
8	4.03	4.27	4.78	3.77	4.07	4.50	4.30	4.77	4.50	4.51
9	3.83	4.16	4.22	3.72	3.84	4.35	3.34	4.59	4.23	4.21
10	4.04	3.78	4.44	4.01	4.03	4.12	4.27	4.57	4.39	4.15
11	3.97	4.45	4.78	4.18	3.97	4.49	4.58	4.78	4.38	4.28
12	4.74	4.86	4.89	4.61	4.65	4.72	4.85	4.79	4.90	4.92
13	2.16	2.49	2.44	1.57	2.26	2.45	2.05	2.76	2.58	2.64
14	2.56	2.72	2.33	2.06	2.50	2.74	2.28	2.50	2.48	3.23
15	3.98	4.12	4.67	4.08	3.90	4.28	4.44	4.68	4.60	4.05
16	3.94	4.32	4.67	4.07	4.01	4.26	4.34	4.61	4.20	4.46
17	3.77	4.09	4.33	3.60	3.85	4.17	4.22	4.41	3.95	3.90
18	1.16	1.11	1.11	1.00	1.21	1.28	1.00	1.07	1.00	1.05
19	3.05	0.88	5.00	0.00	2.95	3.72	0.50	0.60	0.00	0.00
20	2.65	1.13	3.00	0.00	2.93	3.60	0.75	0.60	0.00	0.00
回答者数	258	80	9	24	88	126	20	56	16	28



受講生の傾向

出席率は非常に高い(No.12)が、予習・復習に充てる時間が短い(No.13とN.14)。この傾向は昨年と変わらない。
 学生は、授業の進度について、公会計系が早すぎると感じている(No.2、昨年度は監査系)。監査系は他系列並みに進度が調整された。
 学生は、教員の姿勢(No.10まで、講義準備、熱意・努力、質問への対応等)に満足しているが、系により多少のばらつきが見られる。
 以上の結果として、授業の満足度(No.11)と授業の理解度(No.17)が決まってくると考えられる。
 ・授業の満足度は、監査系列をのぞいて、すべての系列で上昇している。
 ・授業の理解度は、管理会計、監査、法律の3系列をのぞいて、すべての系列で上昇している。
 ・すなわち、全体としては、学生の評価が昨年と比べて高まってきている。

今後の対応

系列別、あるいは、全系列平均で見ると、個別科目の特徴が見えなくなってくる。しかし、科目担当者は科目別評価を十分に認識している。
 系列別平均又は全系列平均との対比で相対的に低評価となっている科目の担当者は対応策を考えているので実施を待つのみである。
 昨年度の総括も含めて、FD委員会で継続して、改善のポイントを検討していく。

IV. 20 年度 授業評価アンケートフォーム

「会計大学院学生による授業評価」アンケート

- I. 授業の評価
- II. 授業への取組み
- III. 答案練習会について

I. 授業の評価

1) 授業内容は、講義要綱、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

2) この授業の進度はどうでしたか。

- 5. かなり早い
- 4. 早い
- 3. ちょうどよい
- 2. 遅い
- 1. かなり遅い

3) この授業は教員によってよく準備されていたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

4) 学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

5) この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

6) 教科書・配布資料の利用は適切でしたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

7) ホワイト・ボードや OHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

8) 教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

9) 宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

10) この授業のクラスの規模は適切でしたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

11) 全体としてこの授業を受講して満足しましたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

II. 授業への取組み

12) この授業への出席状況はどうでしたか。

- 5. 90%以上
- 4. 70%以上
- 3. 50%以上
- 2. 30%以上
- 1. 30%未満

13) この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。

- 5. 2時間以上
- 4. 1時間30分程度
- 3. 1時間程度
- 2. 30分程度
- 1. 0時間

1 4) この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。

- 5. 2時間以上
- 4. 1時間30分程度
- 3. 1時間程度
- 2. 30分程度
- 1. 0時間

1 5) この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

1 6) この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

1 7) あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

Ⅲ. 答案練習会について

1 8) あなたはこの授業に対応した答案練習会に参加したことがありますか。

- 2. 参加したことがある
- 1. 参加したことがない

以下の質問は設問18で2（参加したことがある）と記入した場合のみ回答してください。

1 9) あなたはこの授業に対応した答案練習会にどのくらい参加しましたか。

- 5. 全部
- 4. 半分以上
- 3. 半分未満
- 2. 参加はしていないが、問題・解答用紙を受け取った
- 1. 参加したことがない

2 0) この授業に対応した答案練習会はこの授業の復習等に役立ちましたか。

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

——以上——

ご協力ありがとうございました。

V. 講演会

関西大学会計専門職大学院

客員教授講演会のご案内

関西大学会計専門職大学院では、ネット・ライフ企画株式会社取締役、元税務大学主任教授の大西又裕客員教授をお招きし、下記のとおり講演会を開催します。

記

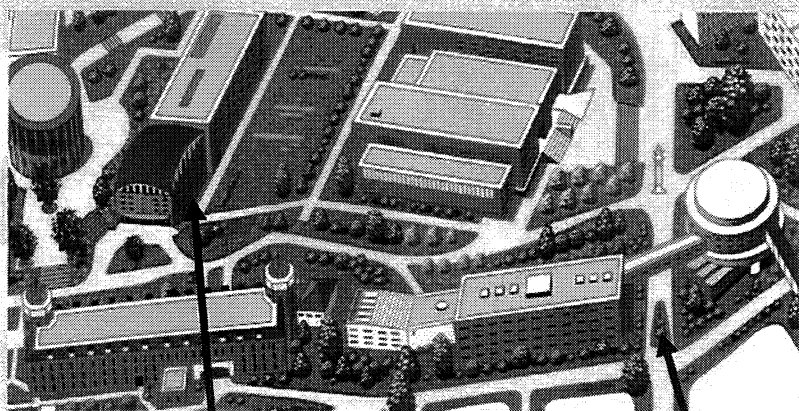
日時 平成 20 年 7 月 9 日（水） 5 時限目（16：20～17：50）

場所 関西大学千里山キャンパス 尚文館 1 階 A V 大教室

講師 だいさいまたひろ
大西又裕 客員教授

演題「会計ビッグバンの経過、教訓と課題」

■ 聴講自由 多数の方のご来聴をお待ちしています。



尚文館 1 階 AV 大教室

正門

お問合せ先：

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121 (代)

<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

「関西大学会計専門職大学院秋季セミナー」

関西大学会計専門職大学院では、阪急阪神ホールディングス
株式会社代表取締役社長の角 ^{スミ} 和夫 ^{カズオ} 客員教授兼教育顧問
をお招きし、下記のとおり講演会を開催します。

記

日時：平成 20 年 10 月 1 日（水）13：00～14：30

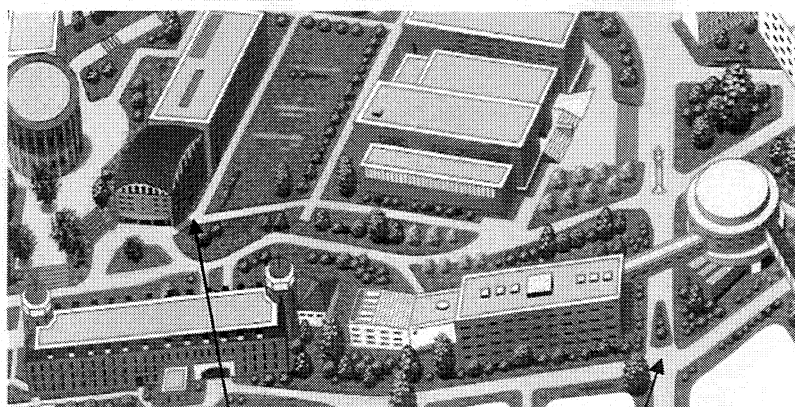
場所：関西大学千里山学舎

尚文館 1 階マルチメディア AV 大教室

講師：角 和夫 客員教授兼教育顧問

演題：「沿線価値向上を目指して」

- ◆ 聴講自由 多数の方のご来聴をお待ちしています。
- ◆ 事前の申込みは不要です。
- ◆ この講演会は、CPE登録の講演会（2単位）です。



尚文館 1 階 マルチメディア AV 大教室

正門

お問合せ先：
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121 (代)
<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

「関西大学会計専門職大学院秋季セミナー」

第2弾

関西大学会計専門職大学院では、日本公認会計士協会会長の
マスダ コウイチ
増田 宏一教育顧問をお招きし、下記のとおり講演会を開催し
ます。

記

日時：平成20年10月15日（水）第5時限（16:20～17:50）

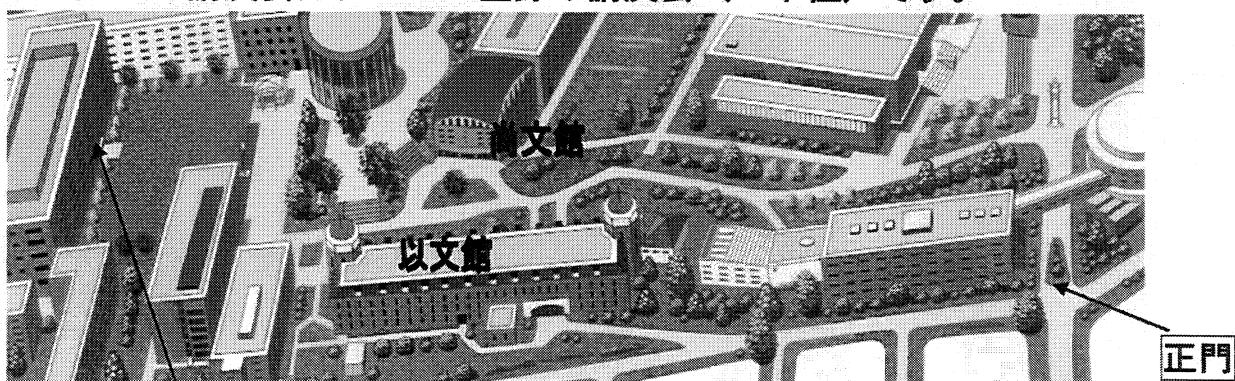
場所：関西大学千里山学舎

第1学舎1号館6階A601教室

講師：増田 宏一 教育顧問

演題：「会計基準の国際的統一化とIFRS精通者の育成」

- ◆ 聴講自由 多数の方のご来聴をお待ちしています。
- ◆ 事前の申込みは不要です。
- ◆ この講演会は、CPE登録の講演会（2単位）です。



第1学舎1号館6階 A601教室

お問合せ先：
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121 (代)
<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

「関西大学会計専門職大学院秋季セミナー」 第3弾

関西大学会計専門職大学院では、ネット・ライフ企画株式
会社取締役、元税務大学主任教授の^{ダイサイマタヒロ}大西又裕客員教授をお招
きし、下記のとおり講演会を開催します。

記

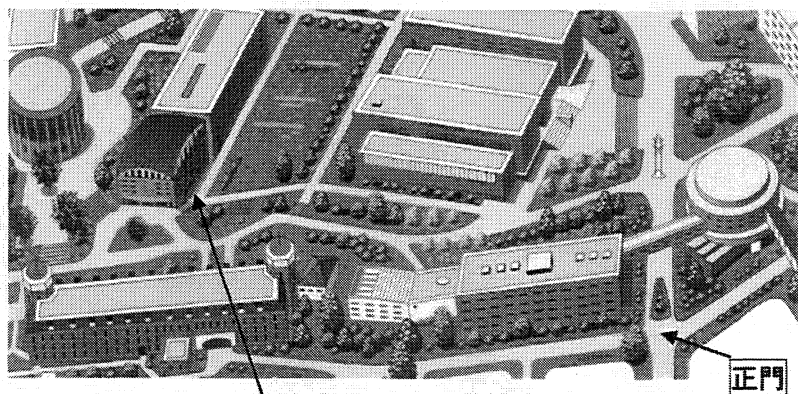
日時：平成20年11月26日（水）第5時限（16:20～17:50）

場所：関西大学千里山キャンパス
尚文館1階マルチメディアAV大教室

講師：^{ダイサイマタヒロ}大西又裕 関西大学会計専門職大学院客員教授

演題：希薄化する「公」概念と税制の再構築

- ◆ 聴講自由 多数の方のご来聴をお待ちしています。
- ◆ 事前の申込みは不要です。
- ◆ この講演会は、CPE登録の講演会（2単位）です。



尚文館1階 マルチメディアAV大教室

お問合せ先：
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121 (代)
<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

*** 次回、関西大学会計専門職大学院秋季セミナー開催（予定）のご案内 ***

※詳細につきましては、ホームページでご確認ください。

第4弾

日時：平成20年12月3日（水）第5時限（16:20～17:50）

場所：関西大学千里山キャンパス 尚文館1階マルチメディアAV大教室

講師：平松一夫 関西大学会計専門職大学院客員教授

演題：「会計基準をめぐる国際動向 一激動期におけるわが国会計基準のあり方」

第5弾

日時：平成20年12月17日（水）15:00～16:00

場所：関西大学千里山キャンパス 第2学舎4号館1階BIGホール100

講師：竹中平蔵 関西大学会計専門職大学院客員教授

演題：「金融危機と日本の経済運営」

「関西大学会計専門職大学院秋季セミナー」

第4弾

関西大学会計専門職大学院では、関西学院大学教授、前学長の平松一夫客員教授をお招きし、下記のとおり講演会を開催します。

記

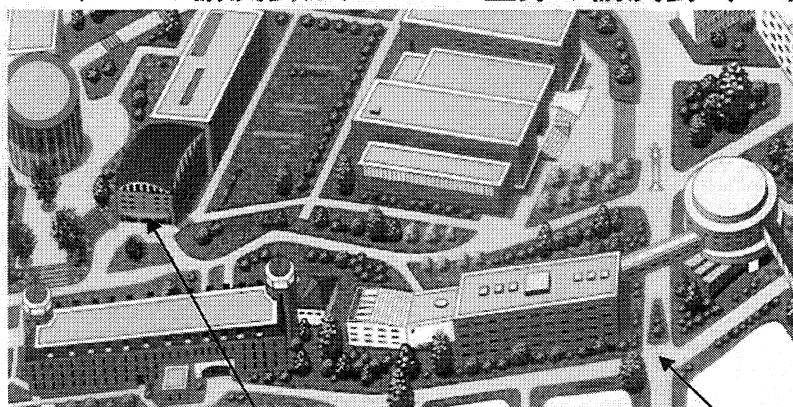
日時：平成 20 年 12 月 3 日（水）第 5 時限（16:20～17:50）

場所：関西大学千里山キャンパス
尚文館 1 階 マチゲイ AV 大教室

講師：平松一夫 関西大学会計専門職大学院客員教授

演題：「会計基準をめぐる国際動向
―激動期におけるわが国会計基準のあり方―

- ◆ 聴講自由 多数の方のご来聴をお待ちしています。
- ◆ 事前の申込みは不要です。
- ◆ この講演会は、CPE登録の講演会（2単位）です。



尚文館 1 階 マチゲイ AV 大教室

正門

お問合せ先：
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121 (代)
<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

～関西大学専門職大学院
進学説明会のご案内～

12/3（水）講演会終了後、18時から
尚文館 2 階遠隔講義室 1（マチゲイ AV 大教室の上）にて進学説明会を開催いたします。多数の方の参加をお待ちいたしております。

関西大学大学院入試課

*** 次回、関西大学会計専門職大学院秋季セミナー開催（予定）のご案内 ***

※詳細につきましては、HPでご確認ください。

第 5 弾

日時：平成 20 年 12 月 17 日（水）15:00～16:00

場所：関西大学千里山キャンパス 第 2 学舎 4 号館 1 階 B I G ホール 100

講師：竹中平蔵 関西大学会計専門職大学院客員教授

演題：「金融危機と日本の経済運営」

「関西大学会計専門職大学院秋季セミナー」

第5弾

関西大学会計専門職大学院では、慶応義塾大学教授・グローバルセキュリティ研究所所長、元総務大臣の竹中平蔵客員教授をお招きし、下記のとおり講演会を開催します。

記

日時：平成 20 年 12 月 17 日（水）15:00～16:00

場所：関西大学千里山キャンパス

第2学舎4号館1階BIGホール100

講師：竹中平蔵 関西大学会計専門職大学院客員教授

演題：「金融危機と日本の経済運営」

- ◆ 聴講自由 多数の方のご来聴をお待ちしています。
- ◆ 事前の申込みは不要です。
- ◆ この講演会は、CPE登録の講演会（1単位）です。



第2学舎4号館BIGホール100

正門

お問合せ先：
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121 (代)
<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

～関西大学専門職大学院
進学説明会のご案内～

12/17（水）講演会終了後、16時20分
から第2学舎4号館4階F401教室
（BIGホール100の上）にて進学説明会
を開催いたします。多数の方の参加
をお待ちいたしております。
関西大学大学院入試課

*** 次回、関西大学会計専門職大学院秋季セミナー開催のご案内 ***

※詳細につきましては、会計専門職大学院HPでご確認ください。<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

第6弾

日時：平成 21 年 1 月 28 日（水）14:40～16:10

場所：関西大学千里山キャンパス 尚文館7FメディアAV大教室

講師：園木 宏 関西大学会計専門職大学院客員教授

演題：「今 監査の現場で何が起きているのかー公認会計士に求められる能力とは」

「関西大学会計専門職大学院秋季セミナー」

第6弾

関西大学会計専門職大学院では、あずさ監査法人代表社員の園木 宏客員教授をお招きし、下記のとおり講演会を開催します。

記

日時：平成 21 年 1 月 28 日 (水) 第 4 時限 (14:40～16:10)

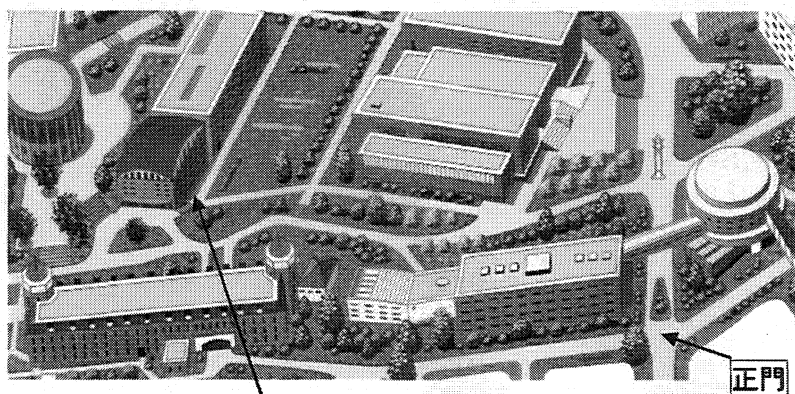
場所：関西大学千里山キャンパス

尚文館 1 階マルチメディア AV 大教室

講師：園木 宏 関西大学会計専門職大学院客員教授

演題：「今 監査の現場で何が起きているのか
— 公認会計士に求められる能力とは —」

- ◆ 聴講自由 多数の方のご来聴をお待ちしています。
- ◆ 事前の申込みは不要です。
- ◆ この講演会は、C P E 登録の講演会（2 単位）です。



尚文館 1 階 マルチメディア AV 大教室

お問合せ先：
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121 (代)
<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

「関西大学会計専門職大学院秋季セミナー」

第7弾

関西大学会計専門職大学院では、日本学術振興会理事・元文部科学事務次官の小野元之教育顧問兼客員教授をお招きし、下記のとおり講演会を開催します。

記

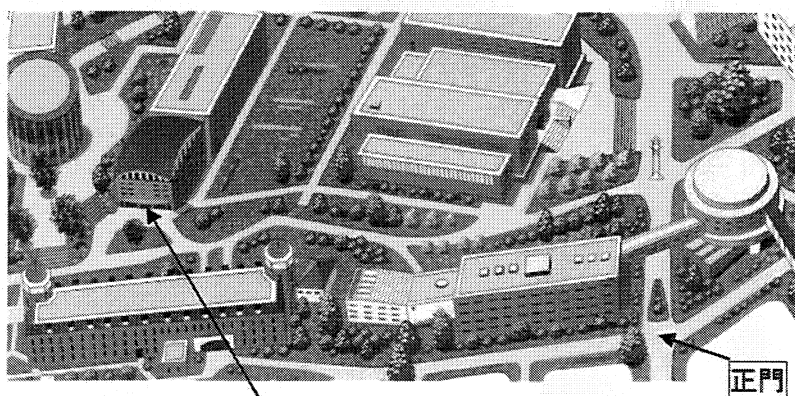
日時：平成 21 年 2 月 25 日(水)第 5 時限(16:20～17:50)

場所：関西大学千里山キャンパス
尚文館 3 階 3 0 1 教室

講師：小野元之 関西大学会計専門職大学院
教育顧問兼客員教授

演題：「21 世紀の日本と大学の役割」

- ◆ 聴講自由 多数の方のご来聴をお待ちしています。
- ◆ 事前の申込みは不要です。



尚文館 3 階 3 0 1 教室

正門

お問合せ先：
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121 (代)
<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 (06)6368-1121 (代表)

Fax (06)6368-0610